

取扱説明書

歩行型ハンマーモア

YW

YW320H

YW450H

YW490H

YANMAR

製品の改造禁止

当製品が使用している電子機器の改造や、製品の使用目的以外の作業や改造はしないでください。改造や目的外の使用をした場合、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また使用目的以外の作業や改造は保証の対象になりませんので、ご注意ください。

安全保障貿易管理規制について

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供する場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連規制を受ける場合があります。

機体銘板とエンジン番号

機体銘板とエンジンには、アフターサービスをお受けになるときなどに必要な情報が記載されています。

機体銘板は、フレーム左側面（図 1）に貼り付けられています。

エンジン番号は、ハンドル操作側のエンジンクランクケース（図 2）に打刻されています。

※ イラストはYW450Hをモデルにしています。

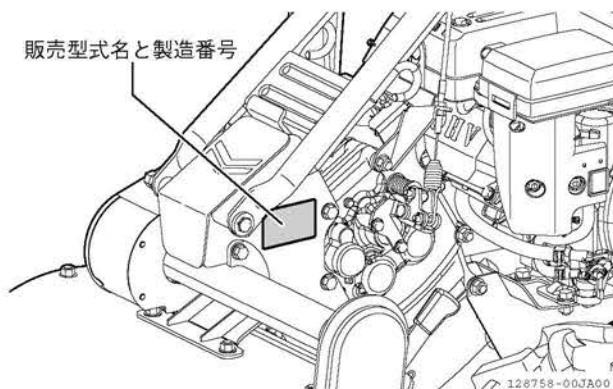


図 1 機体銘板

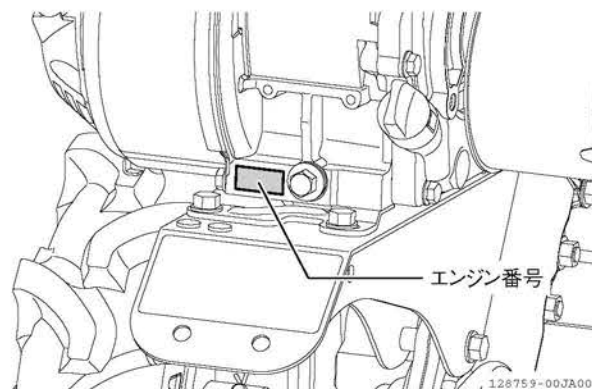


図 2 エンジン番号

販売型式名、製造番号などを記入してください

歩行型ハンマーモアの製造番号とエンジン番号は、アフターサービスをお受けになるときや、万一盗難の被害にあった場合などに必要となりますので、記載されている販売型式名や製造番号などをつぎの表に記入してください。

販売型式名:	アタッチメント型式名および製造番号:
区分:	
製造番号:	
エンジン型式:	
エンジン番号:	

※ ご購入の歩行型ハンマーモアによっては、該当しない項目もあります。

※ アフターサービス、保証については、82ページをご参照ください。

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、ヤンマー歩行型ハンマーモアをお買い上げいただきありがとうございますございました。

この取扱説明書は、歩行型ハンマーモアの取扱方法と使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接し、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、必ずこの取扱説明書を本製品と共にお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を紛失または損傷された場合は、すみやかに当社の特販店、またはJAにご注文ください。
- ご不明なことやお気づきのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店、またはJAへご相談ください。
- 本書1ページの記入欄に歩行型ハンマーモアの製造番号、エンジン番号などを記入してください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書では、主にYW450Hのイラストを使用しています。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載漏れなどが発見されても直ちに修正できないことがあります。
- 本書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、またはJAへお伝えください。

説明記号の見かた

- ▲ 危険** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
- ▲ 警告** その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。
- ▲ 注意** その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。
- 【重要】** 誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。
- 【参考】** 作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。
- 本書の「左」や、「右」という記載は前進方向を見た状態での左側、右側を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、ほ場、休耕田、空地などの草刈作業用の機械としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などはしないでください。使用目的以外の作業や改造をした場合は、重大な事故や機械の破損をまねくおそれがあります。また、保証の対象になりませんので、ご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）

本製品の使用条件について

本製品は、ほ場、休耕田、空地などの草刈作業用の機械として設計、製造されています。表1の条件で使用することにより本来の性能を発揮します。

表1 使用条件

温度	-5℃～40℃
高度	1500 m以下
傾斜度	10度以下

型式と仕様について

本製品には、つぎの型式と仕様があり、取扱説明書の内容で型式・仕様によっては、該当しない項目もあります。

表 2

型式	仕様	セルスタート	刈幅(mm)	車輪	ゲージ輪
YW320H	G	—	320	ゴムラグ	フロント
	T	—	320	タイヤ	フロント
YW450H	—	—	450	タイヤ	サイド
YW490H	E	○	500	タイヤ	サイド

取り扱いの注意事項

ハンドル側に倒すとき(支点越え時)は、つぎの手順で行います。

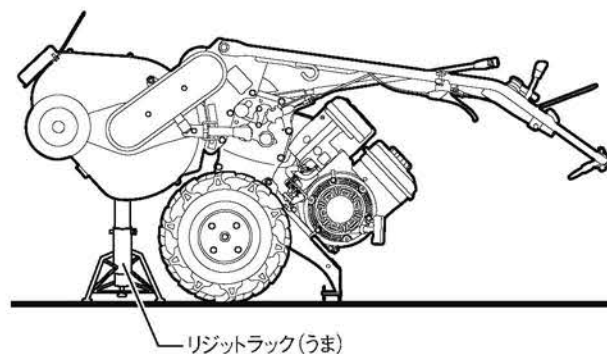
1. エンジンを停止します。
2. 燃料コックを「C (閉)」位置にします。
3. 燃料タンク内の燃料を燃料ゲージ目盛りの最下位置以下にします。

手順どおり行わないと燃料が漏れ、エンジン始動不良となるおそれがあります。

また、ローターカバーなどに土や草が付着していると、その重みでローター側に倒れてくる場合がありますので、リジットラック(うま)などで支えてください。

(リジットラック(うま)は十分に強度のあるものをご準備ください)

※ イラストは YW450H をモデルにしています。



128760-007A00

図 1

運転操作のシンボルマーク

歩行型ハンマーモアを安全に能率よく操作、作業していただくために、つぎのシンボルマークを歩行型ハンマーモアおよび取扱説明書の中で使用しています。シンボルマークの意味をよく理解していただき、安全にご使用ください。

表 3 シンボルマーク

	エンジン停止		ガソリン燃料		チョーク
---	--------	---	--------	---	------

• この歩行型ハンマーモアは、路上(公道)走行できません。

この歩行型ハンマーモアは、ほ場内の作業を目的としており、小型特殊自動車の型式認定を受けておりません。ほ場まで移動される場合は、トラックなどに載せて運搬してください。

• この歩行型ハンマーモアは、日本国内での使用を想定しています。

この歩行型ハンマーモアは、日本国内のみでの使用を想定しており、日本国外での使用は想定しておりません。

日本国外で使用した場合や、海外へ輸出した場合は、当社の品質保証の適用範囲外となります。

目次

総目次

機体銘板とエンジン番号 1

販売型式名、製造番号などを記入してください..... 1

はじめに..... 2

1章 必ずお読みください 10

安全な作業をするために必ずお守りください.....	10
使用する人について.....	11
使用する機械について.....	12
ナイフについて.....	13
作業する前に.....	13
移動やほ場への出し入れをするとき.....	16
運搬時について.....	18
作業するとき.....	20
点検・給油および整備をするとき.....	23
作業後の手入れ・格納するとき.....	27
安全銘板.....	28
安全銘板の貼り付け位置.....	28
安全銘板の手入れについて.....	29

2章 運転のしかた..... 30

各部のはたらきと使いかた.....	30
運転操作部.....	30
作業部.....	33
エンジン部.....	34
運転前の点検.....	35
点検のしかた.....	36
エンジンの始動と停止.....	36
始動のしかた.....	36
停止のしかた.....	39
運転操作.....	39
発進のしかた.....	40
変速のしかた.....	40
旋回のしかた.....	41
停車のしかた.....	42

3章 作業のしかた..... 43

作業前の準備.....	43
ハンドル高さの調節のしかた.....	43
作業について.....	43
刈高さの調節のしかた.....	44
ほ場での作業のしかた.....	45

4章 お手入れのしかた..... 48

作業後の手入れについて.....	48
作業後の手入れのしかた.....	48
洗浄のしかた.....	49
各部の注油箇所.....	50
点検・整備のしかた.....	53
定期点検・整備の時期について.....	53
定期点検一覧表.....	54
燃料の点検・補給・排出のしかた.....	55
オイルの点検・補給・交換のしかた.....	57
エアクリーナーの掃除のしかた.....	59
リコイルスターターカバーの掃除のしかた.....	60
燃料コシ器エレメントの掃除のしかた.....	60
走行クラッチレバーの点検・調整のしかた.....	61
作業クラッチレバーの点検・調整のしかた.....	62
走行クラッチベルトの交換のしかた.....	63
作業クラッチベルトの交換のしかた.....	63
ローター駆動ベルトの点検・交換のしかた.....	64
ブレーキシューの交換のしかた.....	64
増締めするところ.....	65
ナイフの点検・交換のしかた.....	66
カバーガードの交換のしかた.....	68
フロントバンパー、フロントシートの交換のしかた.....	69
点火プラグの点検・掃除・交換のしかた.....	70
燃料パイプ・電気配線の点検のしかた.....	71
タイヤの空気圧の調整のしかた.....	71
バッテリーの長期保管時の手入れ (E仕様).....	72
バッテリーの点検 (E仕様).....	72
不調診断のしかた.....	74

5章 保管のしかた..... 76

保管するときは.....	76
特に長期保管するときは(1カ月以上).....	76
保管のしかた.....	76

6章 輸送のしかた..... 78

トラックへの積み・降ろしのしかた.....	78
-----------------------	----

7章 仕様..... 80

主要諸元.....	80
-----------	----

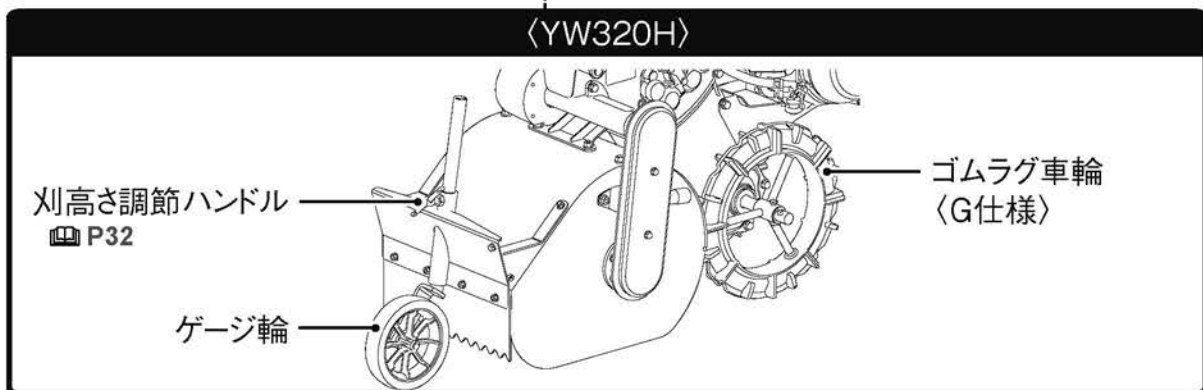
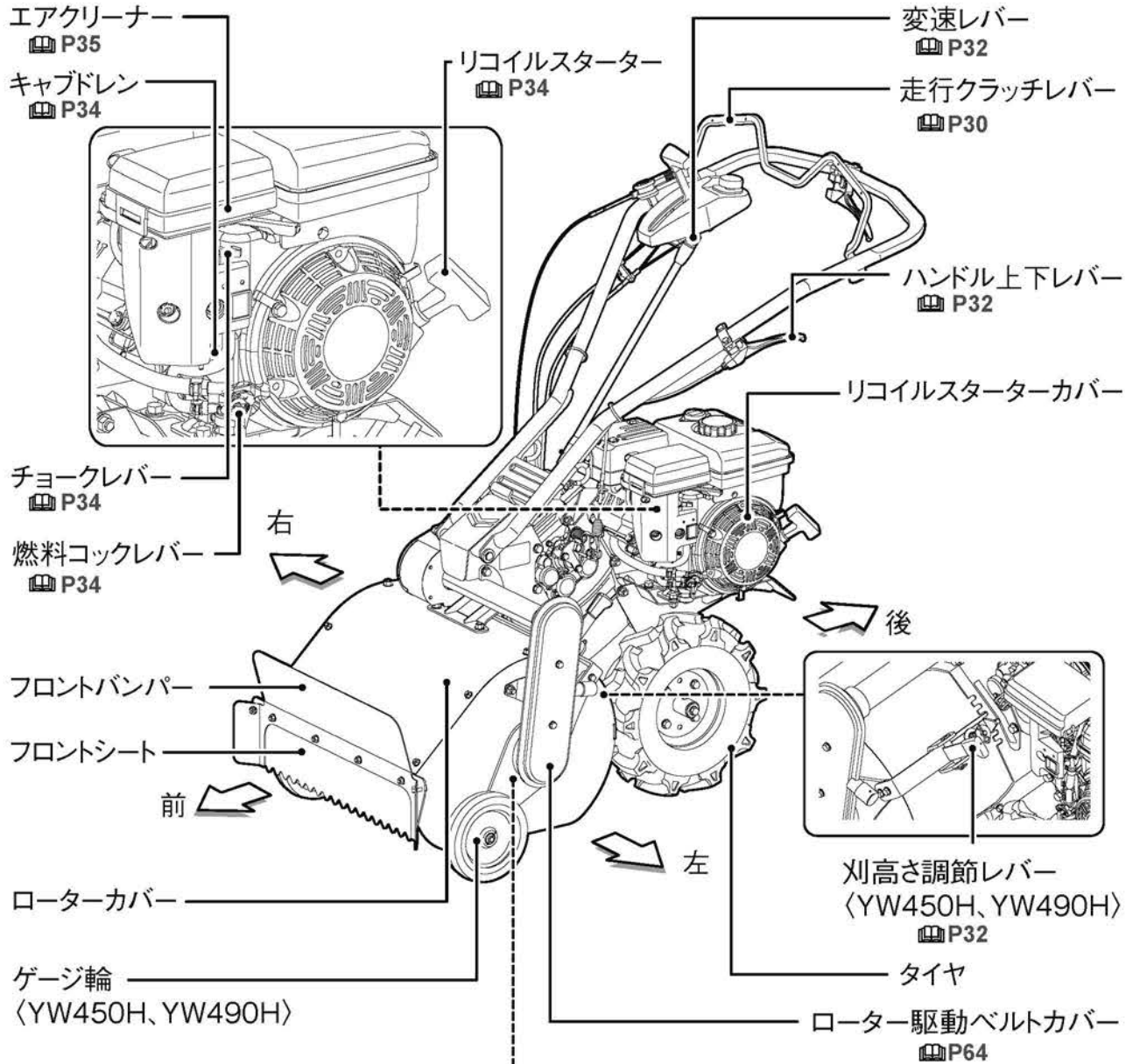
8章 廃棄物の処理について	81
廃棄をするときは.....	81
歩行型ハンマーモアの廃棄.....	81
廃油の処理.....	81
ホース類の処理.....	81
リチウムイオンバッテリーの処理.....	81
9章 サービスと保証について	82
保証書は大切に保管してください.....	82
アフターサービスをお受けになるときは.....	82
10章 索引	83
11章 部品リスト(部品早見表)	84
主要消耗部品.....	84
オプション部品.....	85
12章 用語解説	86

イラスト目次

外観

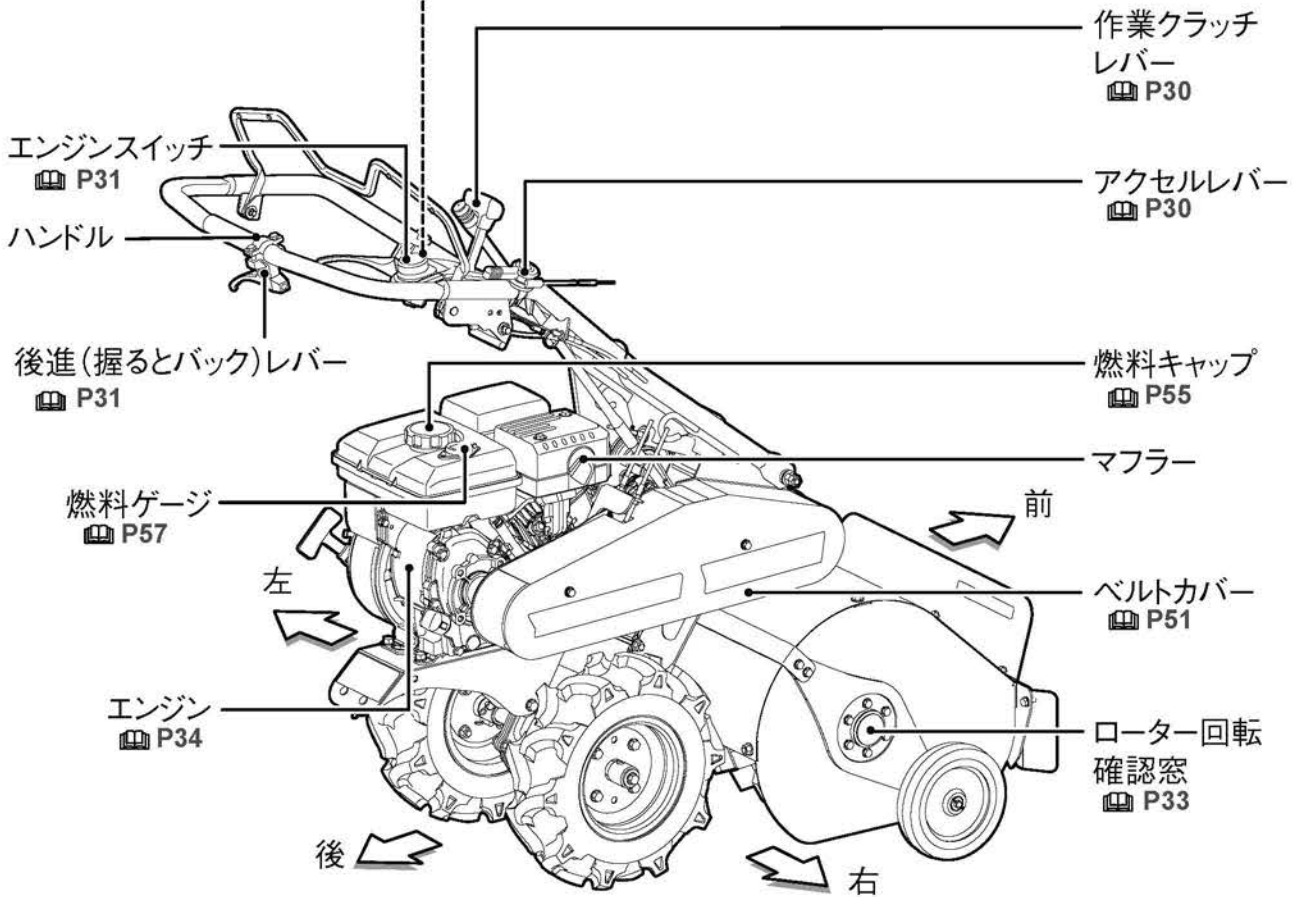
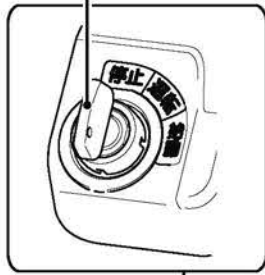
※イラストはYW450Hをモデルにしています。

目次



エンジンスイッチ(キースイッチ)
(E仕様)

📖 P31




174985-00JA

1章 必ずお読みください

安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
- ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡事故や傷害事故を引き起こしたり、けがをするおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、該当しない内容も一部記載していますがご了承ください。

1

 印付きのマークは、安全上、特に重要な項目です。必ずお守りください。

 **危険**

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告**

その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものを示します。

 **注意**

その警告文に従わなかった場合、けがを負う可能性があるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

【参考】

作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

必ずお読みください



使用する人について

警告

■ 取扱説明書と機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから作業をする

作業前には、必ず取扱説明書および安全銘板をよく読み、内容を理解してから作業してください。また、どうしても取扱説明書の内容が理解できない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAへ連絡してください。

■ 体調が悪い人や、操作が未熟な人には作業させない

機械の運転操作には、慣れが必要です。特に走行クラッチ「切」操作は素早くできるように練習し、十分に慣れてから作業してください。ただし、つぎの項目にあてはまるときは、操作させないでください。

- ・ 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき
- ・ 本書および取扱説明書の内容が理解できない人
- ・ 酒を飲んでいる人
- ・ 視力不足のため、表示内容が読めない人
- ・ 妊娠中の人
- ・ 睡眠不足の人
- ・ 16才未満の人
- ・ ハンドルを操縦する体力に自信のない人
- ・ 運転が未熟な人

【守らないと】

誤操作などにより、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業員および補助者は、作業に適した服装をする

スパイク付き安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎ・防護メガネ・すね当てなどの作業に適した服装をしてください。はち巻き・首巻き・腰タオルはしないでください。また、音楽用のイヤホンなどを使用しないでください。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したり、飛んできた石などが当たったりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 心臓ペースメーカーを装着されているかたへ

この機械は、わずかですが電磁波を発生する場合があります。ご使用については、お医者様を通じてペースメーカーの担当者にお問い合わせください。



警告

■ 機械を他人に貸すときは

取扱説明書、および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人には、絶対に運転させないでください。事前に対処方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読むように指導してください。

【守らないと】

説明不足により、機械の破損や、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

使用する機械について

警告

■ 機械を改造しない

機械の改造や、指定以外のアタッチメントを装着しないでください。

【守らないと】

安全性が損なわれ、機械が故障したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 操作銘板が破損しているときは、新しいものと交換する

- ・ 機械には、操作銘板が貼り付けてあります。内容を十分に理解して、その内容に従ってください。
- ・ 操作銘板が汚れで読めなくなった場合は、きれいにふき取り、読めるようにしてください。また、はがれて紛失した場合などは、お買い上げいただいた特販店またはJAに注文し、新しい銘板を貼り付けてください。

【守らないと】

誤作動によりけがをするおそれがあります。



⚠ 注意**■ 作業前・後は、必ず機械の点検をする**

使用前と後には、必ず機械の点検をしてください。特に、クラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しない場合は、確実に作動するよう調整してください。

【守らないと】

整備不良により、機械が故障したり、けがをするおそれがあります。

■ リコイルスターター部の吸気口の掃除

リコイルスターター部の吸気口はエンジンに冷却風を吸い込むところです。こまめに掃除して、常にきれいな状態にしてください。

【守らないと】

エンジンの過熱や出力低下・破損の原因となり、やけどをするおそれがあります。

ナイフについて**⚠ 警告****■ ナイフの取り付け方を間違えないこと**

ナイフの向きとボルトの向きを間違えないように組付ナットと止めナットはしっかりと締めてください。また古いものは新しいものと交換してください。

【守らないと】

ナイフが外れて飛散するなど、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業する前に**⚠ 危険****■ 操作レバー類は、必ず点検する**

レバー類に著しいガタや遊びがないことを確認してください。

【守らないと】

正常な走行ができず、機械が破損するなど、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ エンジン始動時は周囲を確認

エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エアクリナーのスポンジとエレメントは必ず取り付けて始動・運転する

【守らないと】

逆火により炎がふき出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ エンジンスイッチ(キースイッチ)の作動を確認する

機械を使用する前に、必ずエンジンスイッチ(キースイッチ)を「停止」位置にしてエンジンが停止することを確認してください。万一、エンジンスイッチ(キースイッチ)を動かしてもエンジンが停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店またはJAに修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 走行クラッチレバーの作動を確認する

機械を使用する前に、走行クラッチレバーを放したとき、走行が必ず停止することを確認してください。停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店またはJAに修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業クラッチレバーの作動を確認する

機械を使用する前に、作業クラッチレバーを「切」にしたとき、ローターが必ず停止することを確認してください。停止しない場合は、機械の使用を中止し、直ちにお買い上げいただいた特販店またはJAに修理を依頼してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 可燃物のそばで使用しない

【守らないと】

火災事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 作業前にはほ場や周囲の安全を確認してから作業を開始する

周囲に人や動物、車両や設備、建造物などの有形資産がないことを確認してください。また周囲の安全を確認して、ほ場内の障害物、側溝、軟弱な路肩など危険な場所や注意が必要な場所には目印などを設けて近寄らないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 閉め切った屋内などではエンジンを始動しない

エンジンの排出ガスは有害のため、風通しのよい屋外で始動してください。倉庫や車庫などで始動する場合は、ドアや窓を開けて、十分に換気してください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ マフラー・エンジンのごみは取り除く

マフラーや冷却風の吸込口（リコイルスターター部）・エンジン周辺部にわらくず・ごみ・枯草・燃料などが付着していないか、毎日作業前に点検し、付着していれば取り除いてください。

【守らないと】

火災やオーバーヒートが起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ マフラーおよび連結パイプの点検を行う

作業前には、マフラーおよび連結パイプの亀裂・腐食などの異常の有無や、マフラーおよび連結パイプカバー内の高温部に、わらくずなどの堆積や付着がないことを確認してください。

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 電気部品・コードは必ず点検する

配線が他の部品に接触していないか、被覆のはがれや接触部のゆるみがないかを、毎日作業前に点検してください。

【守らないと】

ショートして火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 作業場所に石、針金、ひも、杭、ガラス瓶、空き缶などの異物があれば取り除く

石やその他の異物は事前に取り除き、除去不能な障害物などがある場合には、注意標識、または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けたあとで作業を始めてください。また、このようなほ場では安全のために通常よりも高刈りで作業を行ってください。ナイフが欠けたり、石などの異物が飛散し危険です。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ カバー類は必ず取り付ける

点検・整備などで外したカバー類は、必ず取り付けてください。また、破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。

【守らないと】

機械に巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

■ 大量の水を浴びるような条件では使用しない

雨天時や水たまりなど、機械が大量の水を浴びるような条件での使用は避けてください。

その他気象条件などに留意し、作業実施の判断や装備の選択に十分配慮してください。

【守らないと】

機械の破損や思わぬ動きに巻き込まれたり、滑って転倒したりしてけがをするおそれがあります。

移動やほ場への出し入れをするとき

警告

■ 移動時は、作業部を駆動させない

【守らないと】

ナイフや作業部に巻き込まれて、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 坂道を走行するときは

- ・ 急な坂道は走行しないでください。坂道の移動は、トラックなどで運搬してください。
- ・ やむを得ず坂道を走行する場合は、転倒やスリップに気を付けて最低速度でゆっくり移動してください。その場合、変速レバーを「中立 (N)」にしたままや、走行クラッチを「切」にしたままの走行はしないでください。

【守らないと】

機械が思わぬ方向に動き、転倒したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 移動時は路肩に注意

溝のある農道や傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。

【守らないと】

転落による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 凹凸やカーブ道路は、低速運転で

坂道や凹凸、カーブの多い道路では、低速で移動してください。

【守らないと】

転倒や転落による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 溝・あぜを渡るときは、アユミ板を使用する

- ・ ほ場に入るとき、溝を渡るときや軟弱な場所を通るときは、必ずアユミ板を使用し、最低速度で移動してください。
- ・ アユミ板は、幅・長さ・強度が機械に適したものを使用してください。
- ・ アユミ板の上では、走行クラッチ・作業クラッチ・変速レバーの操作をしないでください。

【守らないと】

スリップや転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 軟弱地では、スリップ注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときには、エンジン回転を低速にしてください。

【守らないと】

高速運転では、スリップや転倒により、けがをするおそれがあります。



運搬時について

危険

■ アユミ板の上では走行クラッチ・作業クラッチの操作厳禁

- ・トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように進路を定めて最低速度で行ってください。
- ・進路を変えたり停止するために、走行クラッチ・作業クラッチの操作を絶対にしないでください。
- ・緊急時にはエンジンを止めてください。

【守らないと】

転落などによる死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械を車に載せて運搬する場合は、燃料(ガソリン)を完全に抜き取ること

ワゴン車や車のトランクルームなどの密閉空間になる状態で機械を運搬する場合は、燃料タンク内の燃料を完全に抜き取ってから積み込んでください。

トラックでの運搬時は、燃料タンク内のガソリンの量を、積み・降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは別に用意しておいた、法で定められたタンクに移して運搬してください。

【守らないと】

燃料が気化し室内にガソリン臭が充満したり、燃料漏れが発生して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運搬時は燃料コックを「C(閉)」にする

【守らないと】

燃料漏れが発生して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



 **警告****■ 強度・長さ・幅の十分あるアユミ板を使用する**

積み・降ろしをするときは、つぎのことを守ってください。

- ・ 平たんで交通の安全な場所でトラックのエンジンを止めてください。
- ・ 車は動かないようにサイドブレーキをかけ、車止めをしてください。
- ・ 使用するアユミ板は、幅・長さ・強度が十分あり、スリップのしないものを使用してください。
- ・ ロープなどを使って人力で荷台へ引き上げたり、人力で持ち上げるなどしないでください。

【守らないと】

転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろしをするときは、平たんで交通の危険のない安全な場所を選ぶ

積み込むトラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて車止めをしておいてください。

【守らないと】

トラックが動いて、転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業は、誘導者を付ける

トラックなどへの積み・降ろし作業は、誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認してください。

【守らないと】

転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業中、機械の前には絶対立たない

トラックなどへの積み・降ろし作業中は、機械の直前には絶対に立たないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み込むときは前進、降ろすときは後進で行う

トラックに積み込むときは前進で、降ろすときは後進で行ってください。

【守らないと】

バランスを崩し、転落などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ ロープでトラックに確実に固定する

トラックに載せて移動するときは、強度の十分あるロープを使用して、トラックに機械を固定してください。

【守らないと】

荷台から機械が転落したりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械のタイヤがアユミ板の中央を通るようにする

【守らないと】

転落・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 積み・降ろし作業は、十分に気を付けて行う

機械がアユミ板と荷台などの継ぎ目を越えるときは、重心が変わりますので、十分に注意してください。

【守らないと】

転落・転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

作業するとき

警告

■ ローターの下に足を入れない

【守らないと】

何かの原因でローターが動いたときに、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業中は、人や動物を近づけない

作業をするときは、十分周囲に注意を払い、特に子どもを近寄らせないでください。

作業範囲内（半径10 m以内）に人（特に子ども）やペットが入り込まないように、草刈作業中である旨の立て札やロープを張るなどして、作業範囲内に近づけないでください。もし人やペットが近づいた場合は、直ちに作業を中止し、エンジンを停止してください。

また、補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合わせてください。作業中は、お互いに合図しあってください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。



 **警告****■ ハウス内での作業では換気を十分に行う**

排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 急な発進・停止・旋回やスピードの出し過ぎ禁止

発進・停止はゆっくりと行ってください。旋回をするときや、坂道や凸凹道やカーブの多い場所では、十分に速度を落としてください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃えているごみの上や、その近くは走行禁止

【守らないと】

燃料やオイルなどに引火して火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 後進するときは障害物に注意して移動する

後進時は、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないか確認して、障害物と機械との間にはさまれないようにしてください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ わき見運転や手放し運転をしない

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 夜間作業禁止

暗い場所や見通しの悪い場所での作業はしないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ くわえたばこでの作業厳禁

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ 物や人をウエイト代わりにしない

バランスウエイト代わりに人や物を乗せないでください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 作業するときは、周囲に十分注意する

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 機械から離れるときは、平たん地に置き、エンジンを停止する

機械から離れるときには、平たんて安定した場所に置き、エンジンを止めてください。やむを得ず傾斜地に置く場合は、必ず車止めをしてください。

【守らないと】

機械が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 坂道では駐車禁止

機械から離れるときは、平たんて安定した場所に置き、エンジンを停止してください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 傾斜地で作業するときは、タイヤ(車輪)幅(輪距)を広げる

転倒しないようにタイヤ(車輪)幅(輪距)を広げてください。
(タイヤ(車輪)幅の広い方が、標準位置です)

【守らないと】

転倒により、けがをするおそれがあります。

■ 機械に付いた泥や、ローターに巻き付いた草を取り除くときは、エンジンを停止する

【守らないと】

機械が急に動いて、けがをするおそれがあります。



点検・給油および整備をするとき**⚠ 危険****■ 注油・給油・点検はエンジンが冷めてから行う**

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、絶対に注油・給油・点検をしないでください。

【守らないと】

燃料などに引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえたばこや裸火照明は、絶対にしないでください。

【守らないと】

燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料漏れに注意する

燃料パイプが老化していたり破損していると、燃料漏れを起こしますので、必ず点検してください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料キャップを閉め、こぼれた燃料はふき取る

燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に閉め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料補給作業は機械などの金属部分に触れて、体の静電気を放電してから行う**【守らないと】**

静電気の放電による火花が、気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料はフィルターを通して補給する**【守らないと】**

ごみなどの詰まりによる燃料漏れが起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



危険

■ 燃料コシ器を掃除するときはコックを閉める

燃料コックを開けたままでコシ器を外すと燃料が流れ出ますので、必ず閉めて行ってください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 指定された燃料以外は使用しない

【守らないと】

エンジンが焼損して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料を入れすぎない

燃料は規定量を越えないようにしてください。

【守らないと】

機体が傾斜したときに燃料キャップから燃料があふれ、引火などによる火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ 指定されたオイル以外は使用しない

【守らないと】

機械が破損したり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ バッテリーの取り扱いについて

リチウムイオンバッテリーは外部充電できません。市販の充電器等で充電しないでください。

【守らないと】

火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

■ リチウムイオンバッテリーは外さない

リチウムイオンバッテリーを外したり、分解・改造したりしないでください。

【守らないと】

ショートによるやけどや火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。



 **警告****■ 脱着・作業後は再確認を行う**

作業部（ナイフなど）や走行部（タイヤなど）の交換や脱着を実施した場合は、指定の場所に指示どおりに装着されているか、しっかりと締め付けられているかを確認してください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 重要部品交換時は締結部品も交換する

作業部（ナイフなど）や走行部（タイヤなど）を新品に交換する場合には、安全のため取付ボルト類もメーカー純正品の新品と交換してください。

【守らないと】

機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ ナイフの交換・整備はすべてのナイフを同時に行う

ナイフを交換または裏返す場合は、すべてのナイフを同時に実施してください。

【守らないと】

バランスがくずれ機械が破損したり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 点検・整備は、平たんで安定した場所で行う

交通の危険がなく、機械が倒れたり動いたりしない平たんで安定した場所で点検・整備をしてください。

【守らないと】

機械の転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 適正工具を使用し、十分に明るい場所で行う

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 排出ガスには十分に注意する

締め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分に換気してください。

【守らないと】

排出ガスによる中毒を起こし、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



警告

■ タイヤに傷があるときは交換する

タイヤに傷があり、その傷がタイヤの糸（コード）に達しているときは、必ずタイヤを交換してください。

【守らないと】

そのまま使用すると、タイヤが破裂し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ タイヤ、チューブ、リムなどの修理・交換は整備士に依頼する

タイヤ、チューブ、リムなどの修理・交換は特別な教育を受けた整備士でないとできません。必ずお買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

【守らないと】

傷害事故を引き起こすおそれがあります。

注意

■ 定期的に点検・整備を受ける

1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプや電気配線は2年ごとに交換してください。

【守らないと】

整備不良により、けがをするおそれがあります。

■ ベルトの交換、ナイフの交換および巻き付いた草などを取り除くときは、エンジンを停止する

【守らないと】

機械が動いて、けがをするおそれがあります。

■ 点検・整備は、過熱部分が十分冷めてから行う

マフラーやエンジンなどの過熱部分が、十分に冷めてから点検・整備をしてください。

【守らないと】

やけどやけがをするおそれがあります。

■ 機械の掃除・点検をするときはエンジンを停止する

【守らないと】

機械に巻き込まれて、けがをするおそれがあります。



作業後の手入れ・格納するとき

 **危険**

■ シートは機械が十分冷めてからかける

機械にシートをかける場合は、マフラーやエンジンが十分冷えてからかけてください。

【守らないと】

火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

 **警告**

■ エンジン部や機械に付いたわらや草は取り除く

【守らないと】

火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



安全銘板

安全銘板の貼り付け位置

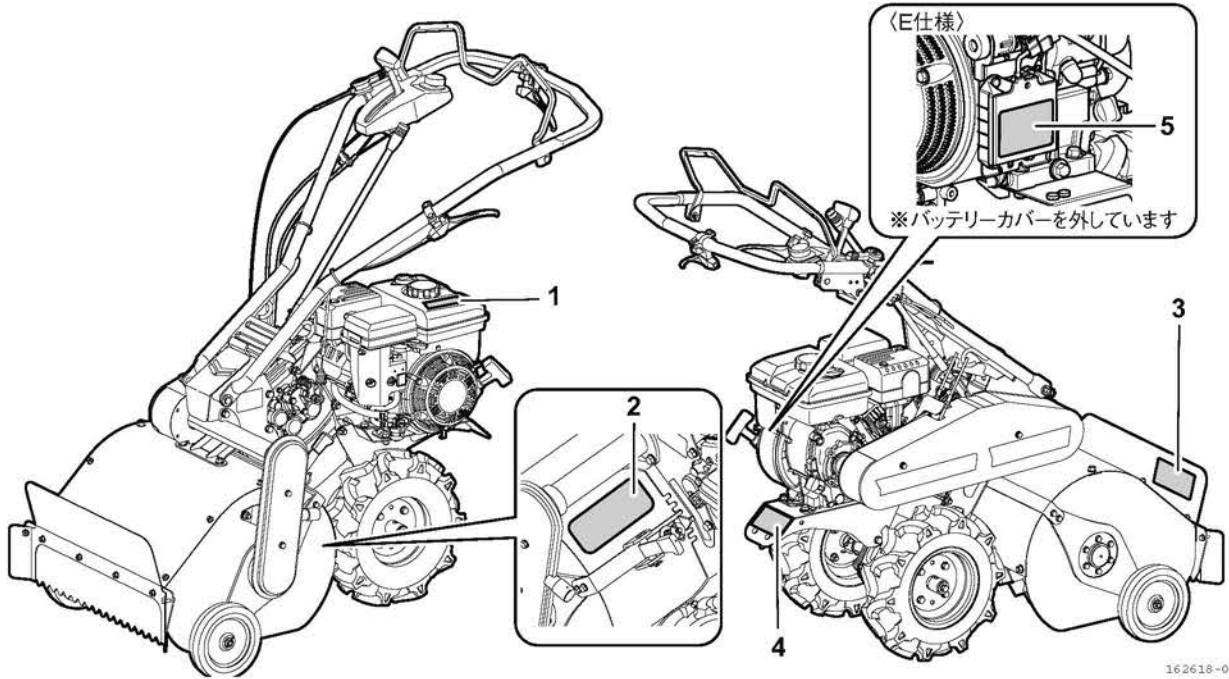
安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板には、安全に作業を行っていただくための事項が記載されています。必ず作業をはじめる前に読んでください。常に汚れや破損のないように保ち、もし破損、紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

※イラストはYW450Hをモデルにしています。

1

必ずお読みください



162618-00JA

1 1N3790-91800 危険(エンジン取扱)

注意	警告	危険
マフラー高温注意 さわるとやけどをするおそれがあります。 <small>1N3790-91800</small>	排ガスに注意 室内や換気の悪い所での運転は人体に有害で危険です。	火気厳禁 ・給油時エンジン停止。 ・火災の危険あり。 ・給油口に火を近づけないこと。

3 1A1015-86051 注意(石飛)

警告

前方への石飛に注意

石等の飛び出しにより、傷害事故を引き起こすおそれがあります

1A1015-86051

2 1A2480-86101

警告(ローター)・注意(エンジン停止)

注意	警告
<ul style="list-style-type: none"> ●取扱説明書をよく読んで安全に作業してください。 ●エンジン作動時はかならず主クラッチを「切」にしてください。 ●後進時は転倒などによりケガをするおそれがあります。 ●後進時は後方に十分注意してください。 	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">点検時エンジン停止</p> <ul style="list-style-type: none"> ●点検整備時はエンジンを停止し、手袋を着用してください。 ●守らないとケガをするおそれがあります。 </div> <div style="width: 45%;"> <p style="text-align: center;">ローターの回転部に接触するとケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。</p> </div> </div>

〈YW450H、YW490H〉

4 1A1015-86070 注意(積み降ろし)

積降時車輪にピン挿入

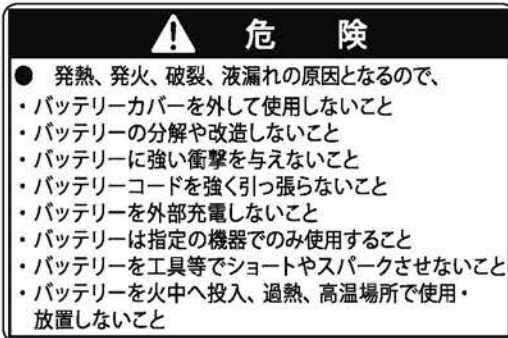
作業時ピンを収納

注意

- 下り坂の初めはタイヤが空回りし急に下がる場合がありますので機体を支えて動かしてください。
- 荷台からアユミ板で降ろす時は車輪にピンを装着してください。
- アユミ板をふみ外しケガをするおそれがあります。

1A1015-86070

5 〈E仕様〉1A0111-00030 ラベル(注意)

**安全銘板の手入れについて**

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。
安全銘板はお買い上げいただいた特販店、またはJAにご注文ください。

1

必ずお読みください



2章 運転のしかた

各部のはたらきと使いかた

運転操作部

ハンドル部周辺のレバー、スイッチについて説明します。

走行クラッチレバー

エンジンからの動力を伝えたり、切り離したりするときに使用します。

走行クラッチレバーを握ると、走行クラッチが入ります。

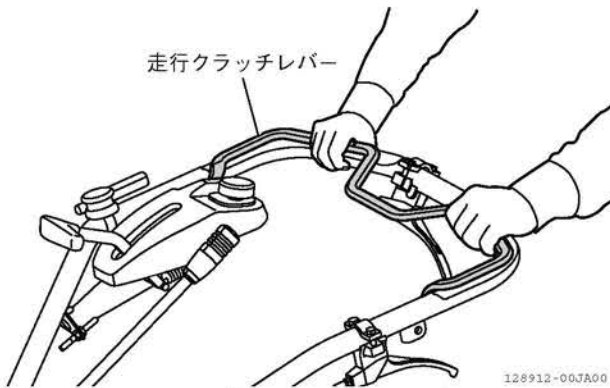


図 2-1 走行クラッチレバー「入」

走行クラッチレバーを放すと、走行クラッチが切れます。

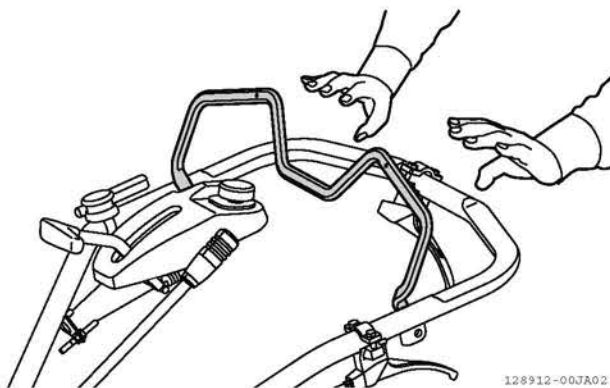


図 2-2 走行クラッチレバー「切」

【参考】

緊急時には、すぐに走行クラッチレバーから手を放して走行を停止させてください。

作業クラッチレバー

ローターの駆動を入切するときに使用します。レバーを引くと、作業クラッチが入ります。

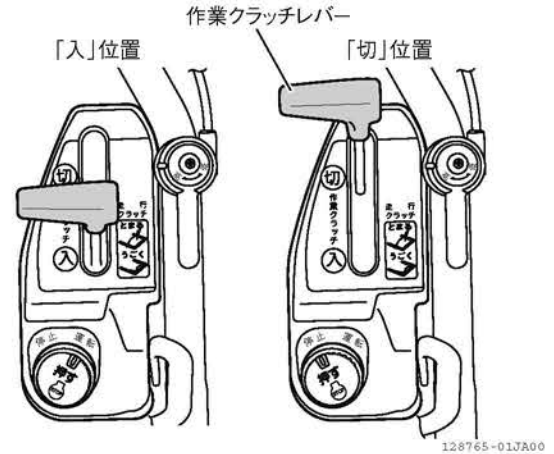


図 2-3 作業クラッチレバー

【参考】

緊急時には、すぐに作業クラッチレバーを「切」位置にしてローターの回転を停止させてください。

アクセルレバー

エンジン回転を調整するときに使用します。

「低」側……エンジン回転が遅くなります。(低速)

「高」側……エンジン回転が速くなります。(高速)



図 2-4 アクセルレバー

後進(握るとバック)レバー

後進するとき 사용합니다。

後進(握るとバック)レバーを握ったあと、走行クラッチレバーを握ると後進します。

前進で走行中でも、後進(握るとバック)レバーを握って前後進の切り替えができます。

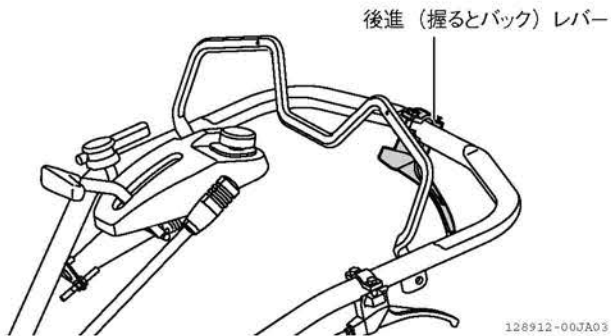


図 2-5 後進(握るとバック)レバー

【重要】

変速レバーの位置にかかわらず、後進します。

エンジンスイッチ

エンジンを始動、停止するとき 사용합니다。

■ エンジン始動時

エンジンスイッチを押しながら「運転」位置へ回すと、エンジンが始動できます。

「運転」位置のとき、エンジンスイッチは浮き上がります。

■ エンジン停止時

エンジンスイッチを押すと、「停止」位置に戻り、エンジンが停止します。

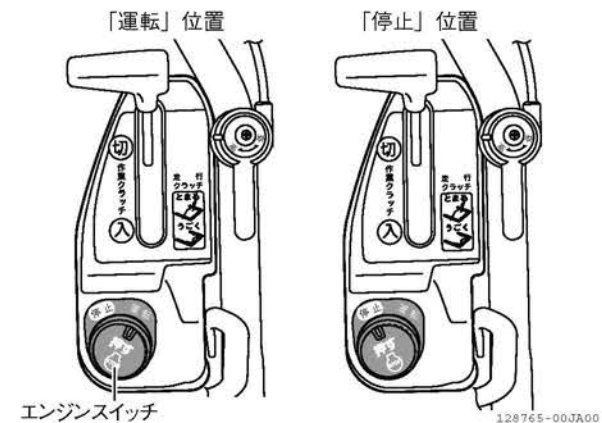


図 2-6 エンジンスイッチ

【重要】

緊急時には、エンジンスイッチを押し、エンジンを停止させてください。

エンジンスイッチ(キースイッチ)〈E仕様〉

エンジンを始動、停止するとき 사용합니다。

【重要】

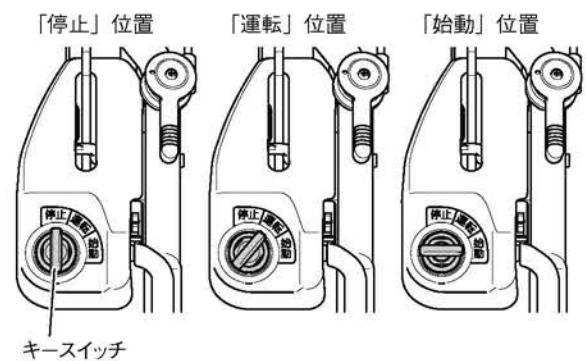
始動時は作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。

■ エンジン始動時

1. 作業クラッチレバーと走行クラッチレバーを「切」位置にします。
2. キースイッチを「停止」位置から「運転」位置へ回します。
エンジンを始動できる状態になります。
3. キースイッチを「運転」位置から「始動」位置へ回すと、セルモーターが回り、エンジンが始動します。
4. エンジンが始動したら、キースイッチから手を離すと「運転」位置に戻ります。

■ エンジン停止時

キースイッチを「運転」位置から「停止」位置へ回すと、エンジンが停止します。



キースイッチ

119499-00JA00

図 2-7 エンジンスイッチ(キースイッチ)

変速レバー

走行速度を変更するときに使用します。

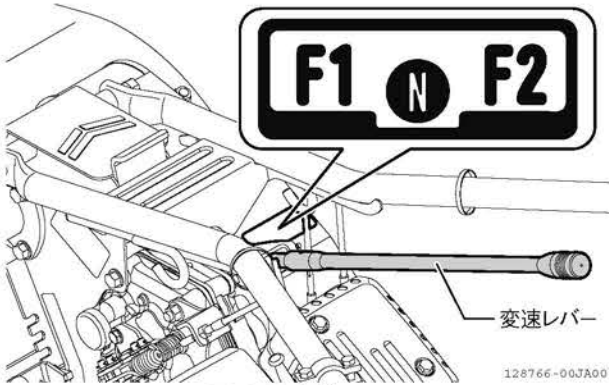


図 2-8 変速レバー

【重要】

走行クラッチレバーを「切」位置にして、走行が停止してから操作してください。

ハンドル上下レバー

作業者の体格や作業の種類に合わせて、ハンドルを使いやすい高さに調節するときに使用します。上下3段階に調節できます。

ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置でレバーを放します。ハンドルがその位置で固定されます。

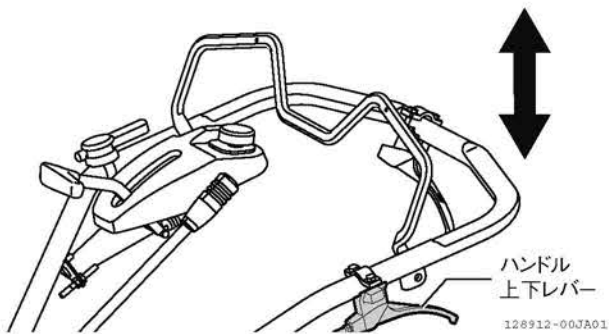


図 2-9 ハンドル上下レバー

【参考】

作業時は、腰の高さに調節すると作業がしやすくなります。

刈高さ調節レバー (YW450H、YW490H)

作業に合わせて刈高さを調節するときに使用します。6段階に調節できます。

左側にレバーを倒してロックを解除し、刈高さを調節します。

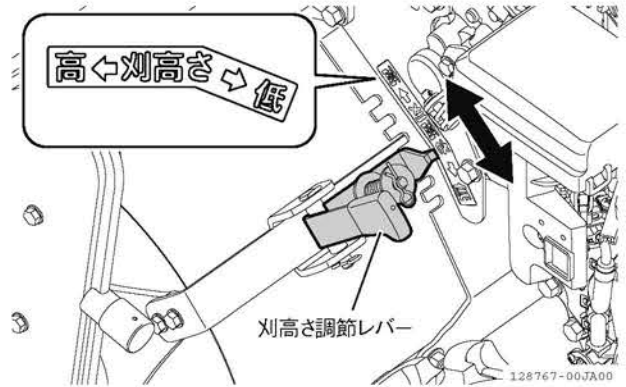


図 2-10 刈高さ調節レバー

【参考】

- 草丈が30 cm以上のときは、レバーを一番高い位置にすると作業が楽に行えます。
- 移動時は、レバーを一番高い位置にしてください。

刈高さ調節ハンドル (YW320H)

作業に合わせて刈高さを調節するときに使用します。

刈高さ調節ハンドルをゆるめてゲージ輪を上下させ、目標の高さに合わせたら刈高さ調節ハンドルを締め込みます。

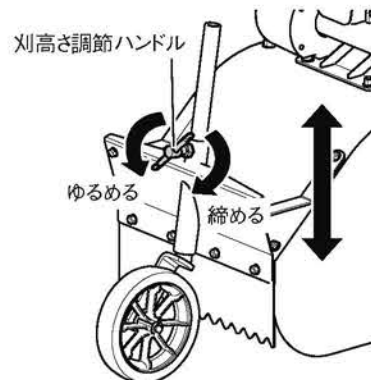


図 2-11 刈高さ調節ハンドル

作業部

ローター周辺部について説明します。

ローター回転確認窓

ローター部が回転中または停止していることを確認できます。

停止中は黄色のチェックマークが見えます。

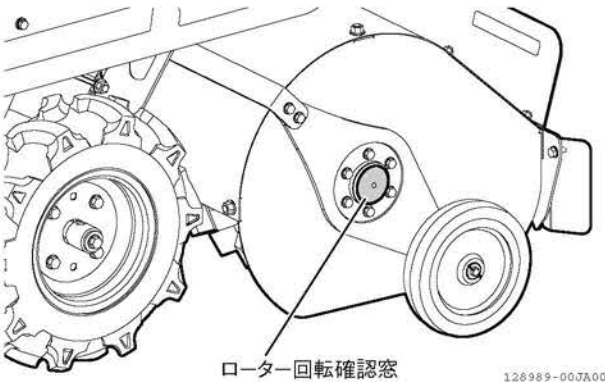


図 2-12 ローター回転確認窓

【重要】

ローター部を持ち上げるときは、ローターの回転が停止したことを確認してください。

簡易旋回機構 (YW450H、YW490H)

簡易旋回機構とは、タイヤが約 180 度フリーに動くことで旋回を容易にする機構です。

下り坂では下りはじめにタイヤが空回りして急に下がる場合があるため、機体を支えながら注意して動かしてください。

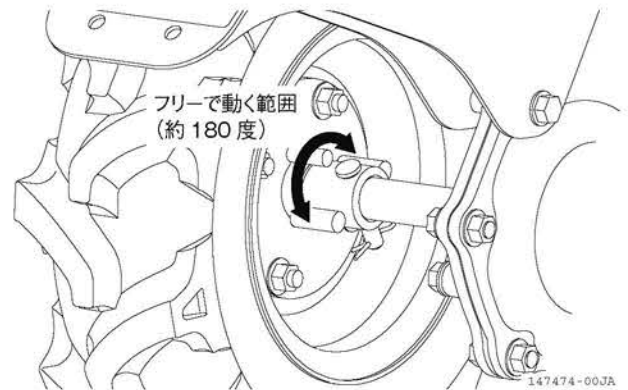


図 2-13 簡易旋回機構

出荷時は、タイヤボス部に平頭ピンを装着して簡易旋回機構がはたらかないようにしています。作業時は平頭ピンを外してください。運搬時は安全のため取り付けてください。(78ページ参照)

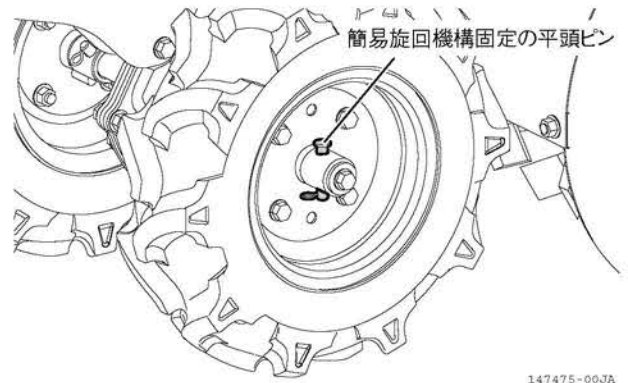


図 2-14 簡易旋回機構固定の平頭ピン

エンジン部

エンジン部のレバーなどについて説明します。

リコイルスターター

エンジンを始動するときに使用します。

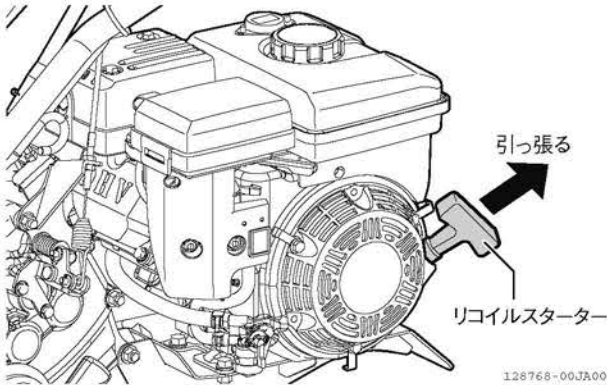


図 2-15 リコイルスターター

チョークレバー

エンジンが冷えている場合、始動するときに使用します。

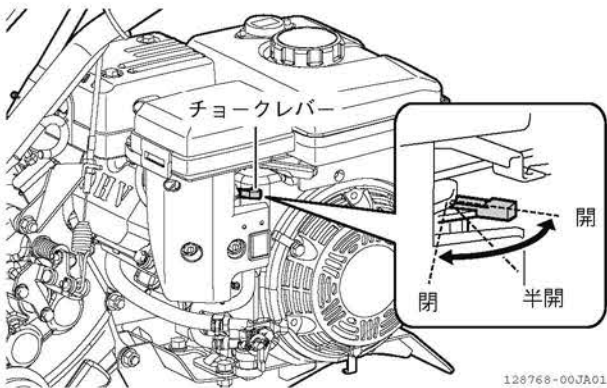


図 2-16 チョークレバー

「開」位置… 通常の運転時、作業時の位置です。
「閉」位置… エンジンが冷えているときの始動時の位置です。

燃料コックレバー

エンジンへの燃料供給、停止の切り替えを行うときに使用します。

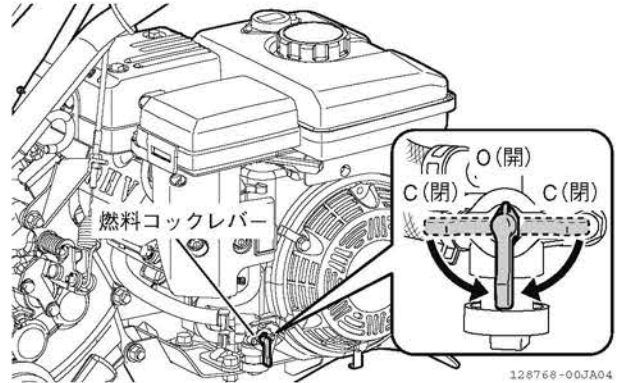


図 2-17 燃料コックレバー

「O (開)」位置… 燃料がエンジンへ流れます。
「C (閉)」位置… 燃料がエンジンへ流れません。
エンジン始動時、運転時は燃料コックレバーを「O (開)」位置に、エンジン停止時は「C (閉)」位置にします。

キャブドレン

キャブレター内の燃料を抜くときに使用します。
(86 ページの「12章 用語解説」を参照)
キャブドレンをゆるめると燃料が出ます。

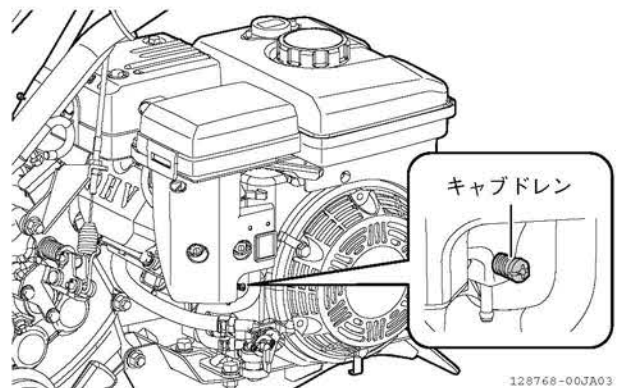


図 2-18 キャブドレン

【重要】

燃料を抜くときは、カップなどで受けて、タイヤなどに燃料がかからないようにしてください。

エアクリナー

エンジンに供給する空気をきれいにします。
定期的に掃除してください。

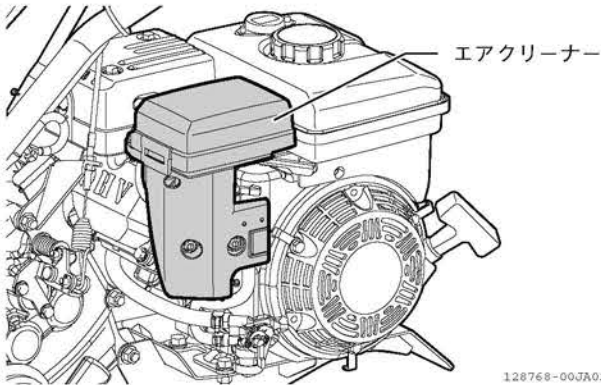


図 2-19 エアクリナー

128768-00JA02

【参考】

エアクリナーの掃除のしかたは59ページをご覧ください。

運転前の点検

⚠ 危険

- 燃料補給時は、くわえたばこや裸火照明をしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。燃料に引火して火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。
- エアクリナーのエレメントは、必ず取り付けてから始動・運転をしてください。逆火により炎がふき出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ナイフが破損していないか、ナイフの取付ボルト・ナットにゆるみがないことを確認してください。破損やゆるみがあると機械が破損して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 破損しているカバー類がないか、必ず作業前に確認してください。カバー類が破損した状態で使用すると、石などの飛散物が当たったり、ローターに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- 使用前には必ず点検をしてください。特にクラッチ・レバーなどの操縦装置は、確実に作動することを確認してください。作動しないときは、確実に作動するように調整してください。

【重要】

- この歩行型ハンマーモアは、小型特殊自動車の認定を受けていません。公道走行はしないでください。
- 指定された純正品のナイフ・ボルト・ナットを使用してください。

点検のしかた

運転・作業を行う前に、つぎの点検を行ってください。

表 2-1 点検のしかた

点検箇所	参照ページ
各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか。	65
燃料は入っていますか。 燃料漏れ、燃料パイプの損傷はありませんか。	55
エンジンオイルは規定量入っていますか。 エンジンオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	57
走行ミッションオイルは規定量入っていますか。 走行ミッションオイルの汚れ、油漏れはありませんか。	58
エアクリーナーに汚れはありませんか。	59
マフラーなどの過熱部分にほこりやごみはありませんか。	—
配線の被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか。	—
各操作レバーの作動状態は正常ですか。	30~32、 61
〈E仕様以外〉 エンジンスイッチを「停止」位置にして、エンジンが停止しますか。	31
〈E仕様〉 キースイッチを「停止」位置にしてエンジンが停止しますか。	31

エンジンの始動と停止

始動のしかた

警告

- エンジンの始動および運転は、閉め切った屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動、運転する場合は、十分に換気をしてください。
- エンジンを始動する前に、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。

エンジン始動前の確認・準備

1. 燃料コックレバーを「O (開)」位置にします。
(図 2-20)

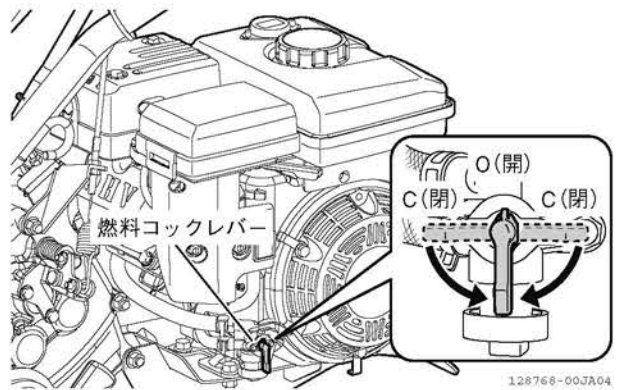


図 2-20 燃料コックレバー

2. 変速レバーを「N (中立)」位置にします。
(図 2-21)

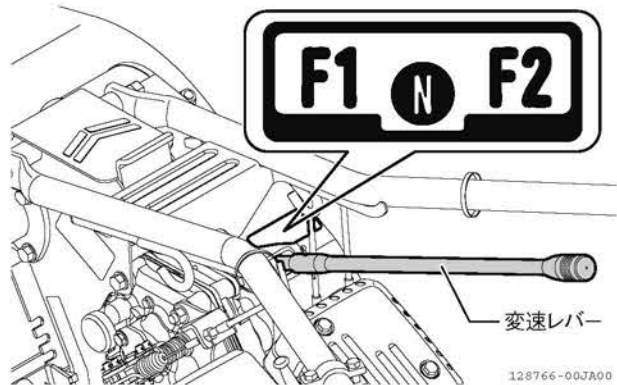


図 2-21 変速レバー

3. 作業クラッチレバーを「切」位置にします。
(図 2-22)

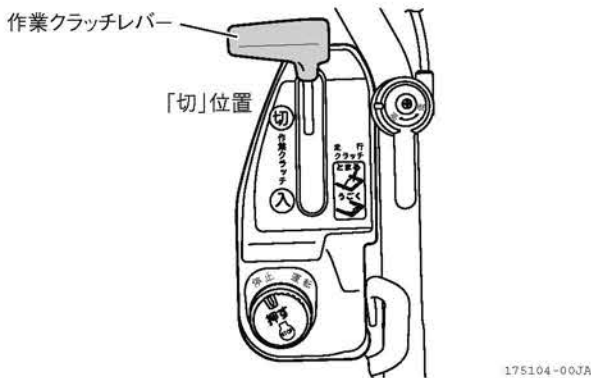


図 2-22 作業クラッチレバー

4. アクセルレバーを「始動」位置にします。
(図 2-23)



図 2-23 アクセルレバー

5. エンジンスイッチを「運転」位置にします。
6. チョークレバーを「閉」位置にします。
(エンジンが冷えている場合のみ) (図 2-24)

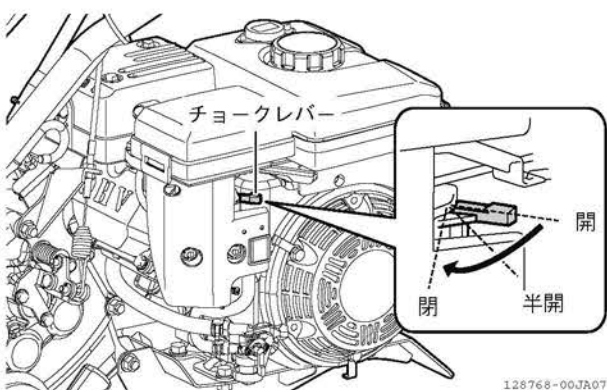


図 2-24 チョークレバー

【重要】

- エンジン始動後は、チョークレバーを確実に「開」位置に戻してください。
- エンジン停止後すぐに始動するときは、チョークレバーを「閉」位置にしてください。守らないと、エンジンに不具合が生じる場合があります。

エンジン始動操作のしかた (E仕様以外)

1. リコイルスターターを引っ張ります。(図 2-25)
エンジンが始動したら、リコイルスターターをゆっくりと元に戻します。

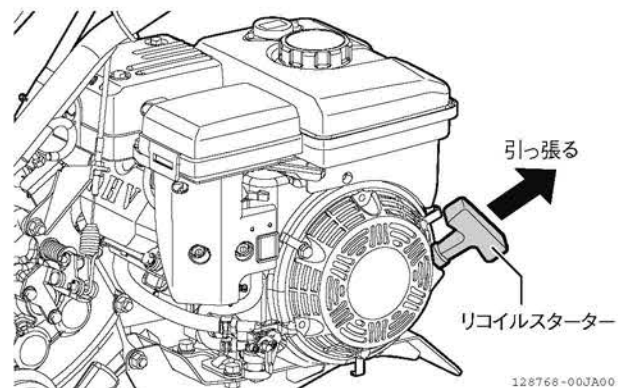


図 2-25 リコイルスターター

2. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「開」位置にします。(図 2-26)
(エンジンが冷えている場合のみ)

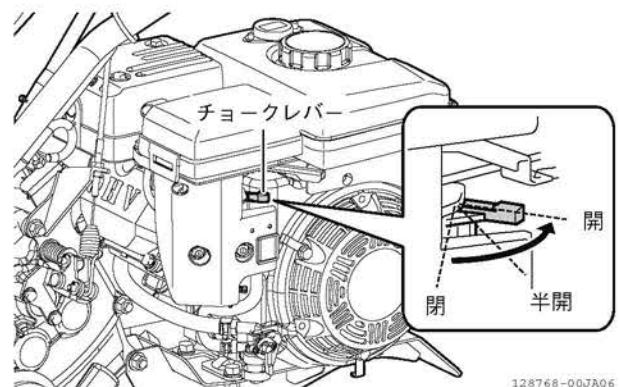


図 2-26 チョークレバー

【重要】

- リコイルスターターを何回も引っ張り続けると、燃料の吸いすぎとなり、始動が困難になります。そのときは、少し時間をおいてから始動してください。
- 運転中は、リコイルスターターを引っ張らないでください。

【参考】

リコイルスターターを2〜3回引っ張ってもエンジンが始動しないときは、チョークレバーを「開」位置にして、再度リコイルスターターを引っ張ります。

3. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
4. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。

そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

エンジン始動操作のしかた(E仕様)

1. キースイッチを「運転」位置にします。
2. キースイッチを「運転」位置から、「始動」位置へ回します。エンジンが始動後、キースイッチから手を離すと「運転」位置に戻ります。

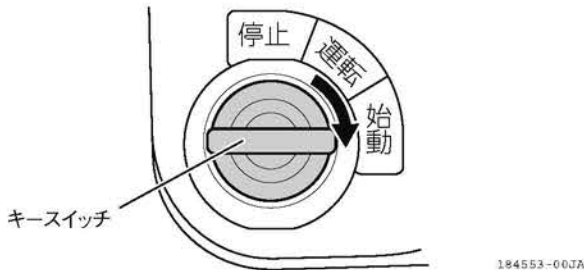


図 2-27 キースイッチ

3. エンジンの回転状態を見ながらチョークレバーを徐々に「開」位置にします。

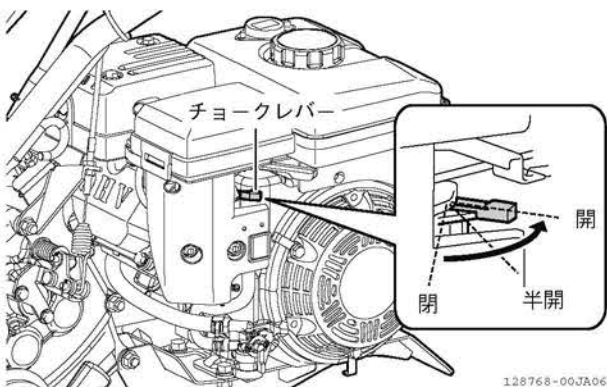


図 2-28 チョークレバー

【重要】

- セルモーターを5秒間回してもエンジンが始動しないときは10秒以上休んでから再始動してください。
- セルモーターを5秒以上回し続けたり、また短い休止時間で断続的に回すとバッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 本機のバッテリーが充電されていないとキースイッチでエンジン始動はできません。(73ページの「バッテリーの充電方法」を参照)
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスターターで始動してください。
- 運転中はキースイッチを「始動」位置にしないでください。火災やエンジン破損の原因につながることがあります。
- 走行、作業クラッチレバーが「入」の状態エンジン始動をしないでください。
- 走行クラッチや作業クラッチが「入」のままセルスターターで始動すると、高負荷がかかり火災防止のためにバッテリーの保護機能が作動するおそれがあります。(保護機能が作動したバッテリーは交換が必要です。)

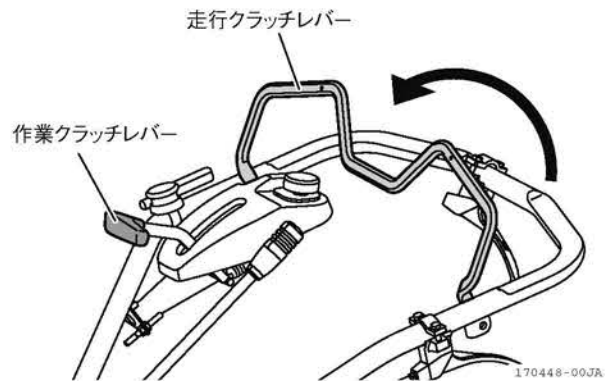


図 2-29 走行クラッチレバー

【参考】

- バッテリーが完全に放電し、セルスタータで始動できない場合はリコイルスターターで始動してください。(エンジンを始動させると約1分でセルスタータ1回分の充電ができます。)(73ページの「バッテリーの充電方法」を参照)
 - セルモーターを2～3回回してもエンジンが始動しないときはチョークレバーを「開」位置にして、再度セルモーターを回します。
4. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。
 5. 約5分間、エンジンをかけたままにしておきます。(暖機運転)

【重要】

冬季など、外気温が低いときは、アイドリング時のエンジン回転が規定よりも低くなり、ハンチング(回転ムラ)を起こす場合があります。そのような場合は、アクセルレバーを「高」(高速)側と「低」(低速)側の中間位置にして、暖機運転を行ってください。

停止のしかた**エンジン停止のしかた(E仕様以外)**

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. エンジンスイッチを押して、「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

エンジン停止のしかた(E仕様)

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. キースイッチを「運転」位置から「停止」位置にします。エンジンが停止します。
3. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。

運転操作

歩行型ハンマーモアの発進から停車までの操作方法を説明します。

▲ 警告

- 移動時は、作業クラッチレバーを「切」位置にして、ローターのナイフを回転させずに走行してください。
- 歩行型ハンマーモアの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。
- やむを得ず坂道を走行するときは、転倒やスリップに注意し、最低速度で移動してください。このとき、変速レバーを「N (中立)」位置にしたまま走行しないでください。歩行型ハンマーモアがずり下がり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道では、路肩に十分注意してください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い場所は低速で移動してください。
- 後進するときは、アクセルレバーを「低」側にし、周囲に十分注意してください。

▲ 注意

溝やあぜを横断したり、軟弱な場所を通るときは、エンジン回転を低速にしてください。

発進のしかた

1. 変速レバーを「F1（作業）」、「F2（移動）」、のいずれかの位置にします。（図 2-29）

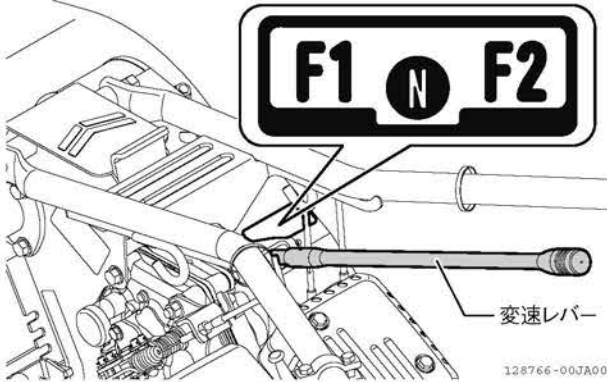


図 2-29 変速レバー

2. アクセルレバーでエンジン回転を調整します。
3. 走行クラッチレバーを握ります。
走行クラッチが入り、歩行型ハンマーモアが動き出します。

【重要】

走行クラッチレバーから手を放すと走行クラッチが切れ、歩行型ハンマーモアは停止します。危険を感じたら、走行クラッチレバーから手を放し、作業クラッチレバーを「切」にしてください。

【参考】

エンジン回転が高速状態のときに、変速レバーを「F2（移動）」位置にして走行クラッチレバーを握って発進すると、ゲージ輪が跳ね上がることがありますので注意してください。

変速のしかた

▲ 注意

変速をするときは、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にして、歩行型ハンマーモアが停止してから行ってください。走行クラッチレバーが「入」位置のまま変速すると、思わぬ事故やけがをすることがあります。

1. 走行クラッチレバーを放します。
走行クラッチが切れ、歩行型ハンマーモアが停止します。
2. 変速レバーを希望の変速位置に入れます。
（図 2-30）

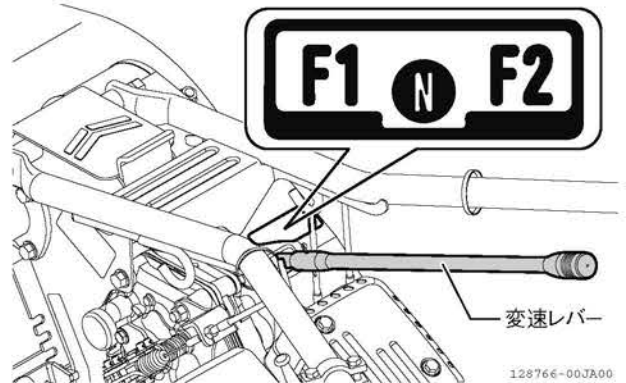


図 2-30 変速レバー

3. 走行クラッチレバーを握ります。
走行クラッチが入り、歩行型ハンマーモアが再発進します。

表 2-2 作業内容に対する変速位置

変速位置	作業内容
F1 (作業)	草刈り 低速移動 トラックへの積み降ろし
F2 (移動)	移動

【重要】

トラックから降ろすために後進する場合は、後進(握るとバック)レバーを握ってから走行クラッチレバーを「入」位置にすることで、後進できます。

旋回のしかた

▲ 注意

坂道では、走行クラッチレバーを「切」位置にしないでください。また、変速レバーを「N(中立)」位置にしないでください。

【守らないと】

機械が思わぬ動きをしてけがをするおそれがあります。

■ 作業時の旋回のしかた

＜隣接作業をする場合などの旋回＞

1. アクセルレバーを「低」側にします。
2. 旋回します。
 - 1) 走行クラッチレバーを握りハンドルを押し下げて、ゲージ輪を少し浮かせます。
 - 2) 走行クラッチレバーを握ったままハンドルを振り、旋回します。(図 2-31)

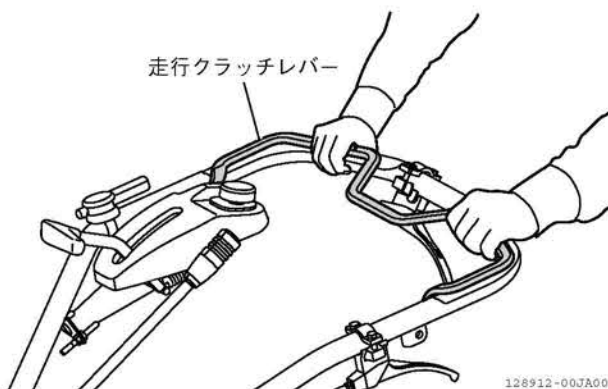


図 2-31 ハンドル (旋回)

3. アクセルレバーを「高」側に戻します。

■ 移動時の旋回のしかた

1. 走行クラッチレバーを握りハンドルを押し下げて、ゲージ輪を少し浮かせます。
2. 走行クラッチレバーを握ったままハンドルを振り、旋回します。(図 2-32)

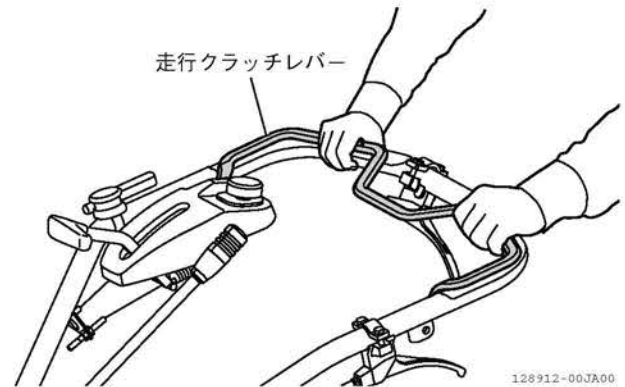


図 2-32 ハンドル (旋回)

【重要】

走行クラッチレバーから手を放すと走行クラッチが切れ、ハンマーモアは止まります。

危険を感じたら、走行クラッチレバーから手を放してください。

または下記の方法でエンジンを停止させてください。

- ・ 〈E仕様以外〉
エンジンスイッチを押します
- ・ 〈E仕様〉
キースイッチを「停止」位置にします

停車のしかた

▲ 注意

平坦で安定した場所に停車し、エンジンを止めてください。

【守らないと】

歩行型ハンマーモアが動き出し、けがをすることがあります。

1. 走行クラッチレバーを放します。
走行クラッチが切れ、歩行型ハンマーモアが停止します。(図 2-33)

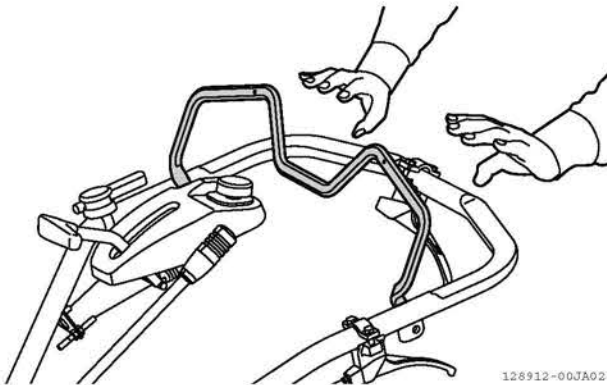


図 2-33 走行クラッチレバー「切」

2. 作業クラッチレバーが「切」位置であることを確認します。
3. アクセルレバーを「低」側にします。エンジン回転が下がります。(図 2-34)

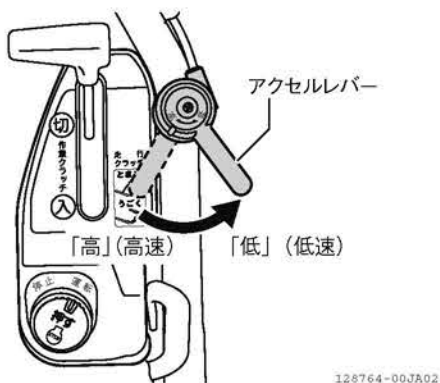


図 2-34 アクセルレバー

4. 変速レバーを「N (中立)」位置にします。

5. 〈E仕様以外〉

エンジンスイッチを押し、「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-35)



図 2-35 エンジンスイッチ (停止)

- 〈E仕様〉

キースイッチを「停止」位置にします。エンジンが停止します。(図 2-36)

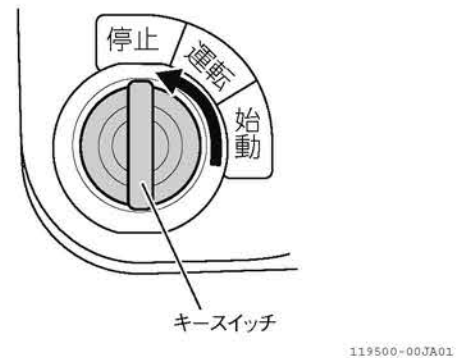


図 2-36 キースイッチ (停止)

6. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。(図 2-37)

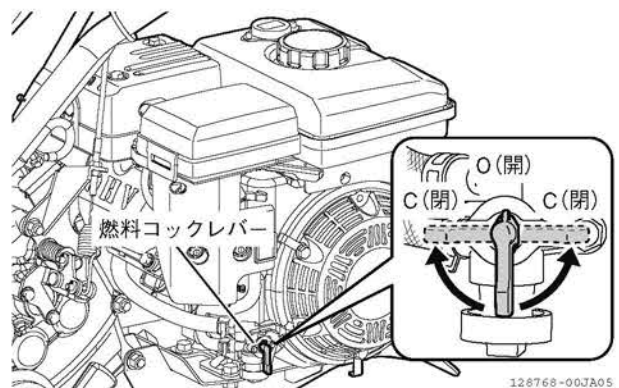


図 2-37 燃料コックレバー

3章 作業のしかた

作業前の準備

ハンドル高さの調節のしかた

⚠ 警告

ハンドルの高さを調節するときは、走行クラッチレバーと作業クラッチレバーを「切」位置にしてから行ってください。予期せぬ動きをして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルの高さを調節するときは、ゲージ輪を接地させた状態で行ってください。

【守らないと】

思わぬけがをするおそれがあります。

ハンドル高さは作業者の体格、作業の種類に合わせて、上下3段階に調節できます。

1. ハンドル上下レバーを握ったままハンドルを上下に動かし、適切な位置にします。(図 3-1)

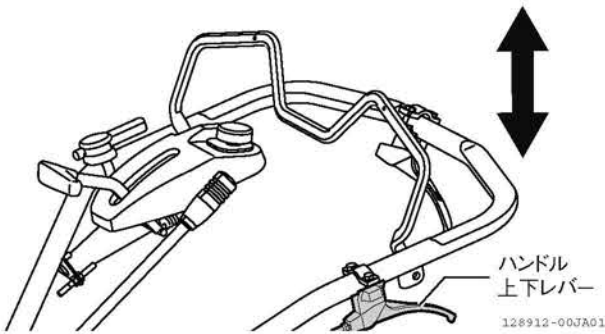


図 3-1 ハンドル上下レバー

2. ハンドル上下レバーを放すと、その位置でハンドルが固定されます。このとき、ハンドルが固定されていることを確認します。

【重要】

作業開始前に、ほ場内に異物や傷害物、作業に支障がある場所がないことを確認してください。石やその他の異物は事前に取り除き、除去不能な傷害物や作業に支障がある場所がある場合には、注意標識または作業禁止範囲を示す安全柵などを設けた後で作業をはじめてください。またこのようなほ場では安全のために通常よりも高刈で作業を行ってください。障害物などとの接触等により、ナイフやローターが破損する場合があります。

作業について

⚠ 警告

- ローターの下にもぐったり、足を入れしないでください。ローターが動いたときに傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ハウス内で作業をするときは、排出ガスが充満しないように、十分に換気を行ってください。
- 作業時以外は、ローターの回転を止めてください。
- マフラーに付着した枯草やわらは取り除いてください。火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 作業をするときは、十分周囲に注意をはらい、人や動物を近づけないでください。

⚠ 注意

後進するときは低速で移動し、転倒しないように足元に十分注意してください。後方に障害物がないことを確認して、障害物と歩行型ハンマーモアの間にはさまれないようにしてください。

刈高さの調節のしかた

■ YW320Hの場合

1. 歩行型ハンマーモアを停止させます。
2. 刈高さ調節ハンドルをゆるめて、ゲージ輪を希望の刈高さに調節します。(図 3-2)

刈高さ調節ハンドル

ゲージ輪を上げる…刈高さが低くなります。
ゲージ輪を下げる…刈高さが高くなります。

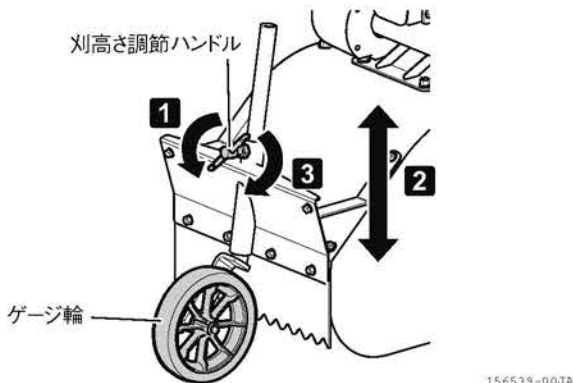


図 3-2 刈高さ調節ハンドル

3. 刈高さ調節ハンドルを締め込んで、ゲージ輪の高さを固定します。(図 3-2)

【重要】

- 草や針金などがローターやナイフに巻き付くと、十分な草刈作業ができなくなります。その場合は、エンジンを停止し、手袋を着用して草などを取り除いてください。
- エンジンを停止したら、燃料コックを「C (閉)」位置にしてください。

【参考】

- ゲージ輪に付いた草や泥は定期的に取り除いてください。
- ゲージ輪軸部に定期的注油してください。

■ YW450H、YW490Hの場合

1. 歩行型ハンマーモアを停止させます。
2. 刈高さ調節レバーを左側に倒してロックを解除し、希望の刈取高さに調節します。(図 3-3)

刈高さ調節レバー

「高」位置…刈高さが高くなります。
「低」位置…刈高さが低くなります。

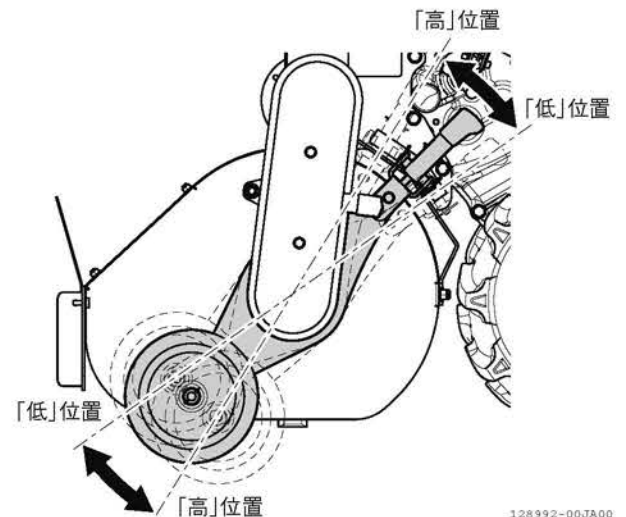
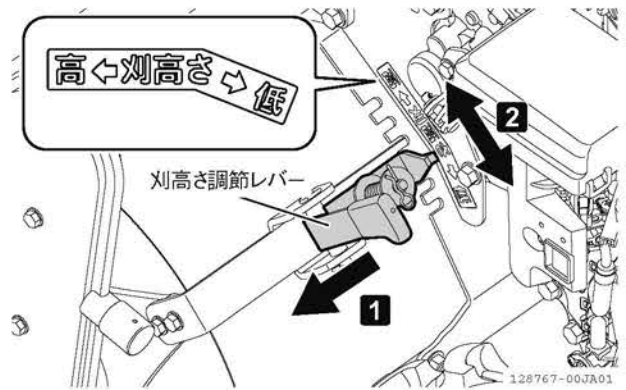


図 3-3 刈高さ調節レバー

【重要】

- 草や針金などがローターやナイフに巻き付くと、十分な草刈作業ができなくなります。その場合は、エンジンを停止し、手袋を着用して草などを取り除いてください。
- エンジンを停止したら、燃料コックを「C (閉)」位置にしてください。

【参考】

- 草丈が30 cm以上のときは、刈高さ調節レバーを最「高」位置にすると作業が楽に行えます。(図 3-4)

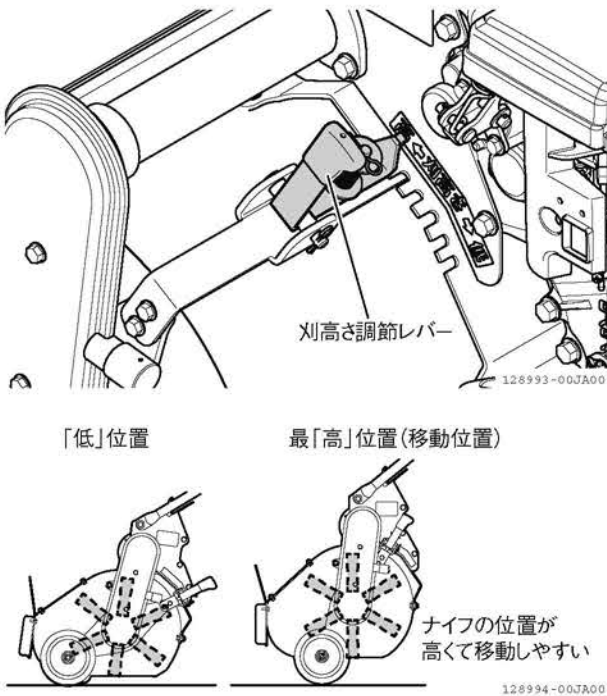


図 3-4 刈高さ調節位置

- 刈高さ調節レバーの操作が重くなったときは、泥や草の詰まりが考えられますので、つぎの操作をしてください。
 - 1) 走行クラッチレバーを放し、「切」位置にします。
 - 2) エンジンを停止します。
 - 3) 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
 - 4) ローターカバーとゲージ輪アームの間に詰まった泥・草などを取り除きます。(図 3-5)

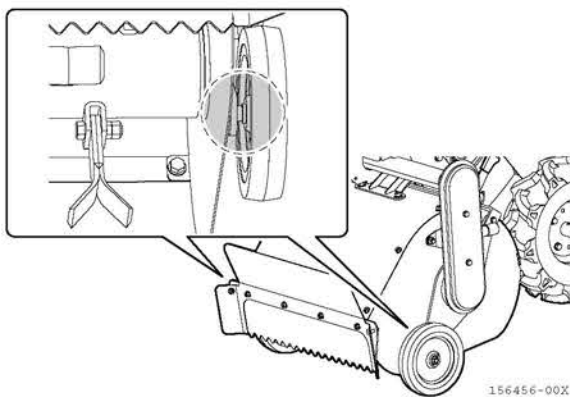


図 3-5 ゲージ輪の詰まり部

- 5) ゲージ輪アーム部およびリンク部、ゲージ輪軸部に注油します。

ほ場での作業のしかた**草刈作業****▲ 警告**

マフラーに付着した枯草やわらなどは取り除いてください。枯草やわらなどがマフラーに付着すると火災が起こり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

1. 歩行型ハンマーモアを作業場所に移動させ、変速レバーを「F1」(作業)位置にします。(図 3-6)

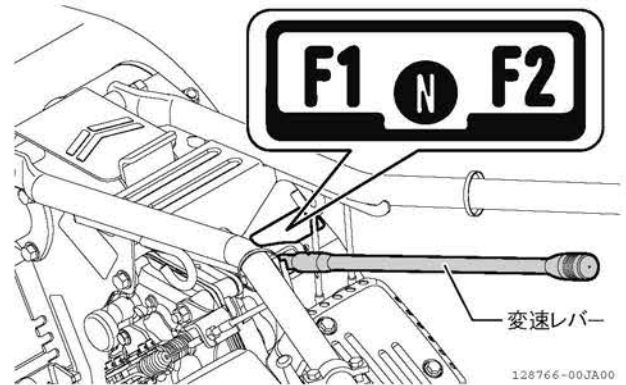


図 3-6 変速レバー

2. 刈高さが希望の高さになるように調節します。

【参考】

刈高さの調節のしかたについては、YW320Hは44ページ、YW450H、YW490Hは44ページを参照してください。

3. アクセルレバーを「高」側にします。
4. ナイフが草に触れていないことを確認したあと、作業クラッチレバーを「入」位置にします。(エンジンストップしない程度の速さでクラッチを「入」にします。)
5. いったんエンジン回転が下がりますので、回転が復帰し、ローターの回転が安定してから走行クラッチレバーを握ります。歩行型ハンマーモアが前進し、草刈作業ができます。

【重要】

半クラッチ状態を維持すると、ベルトの早期破損などの不具合が発生する場合がありますのでご注意ください。

【参考】

つるなどが長いものは刈れない場合があります。作業時にエンジン回転が落ちたときは、走行クラッチレバーを「切」位置にするか、後進（握るとバック）レバーで機械を後進させて、エンジン回転が復帰してから作業を再開してください。

■ タイヤ幅の調節のしかた

タイヤの幅を狭くすることができます。

表 3-1 トレッド外幅(車輪 外-外)一覧表

型式	仕様	トレッド外幅(車輪 外-外)
YW320H	G	260・310
	T	290・340
YW450H	—	290・340・405
YW490H	E	340・405

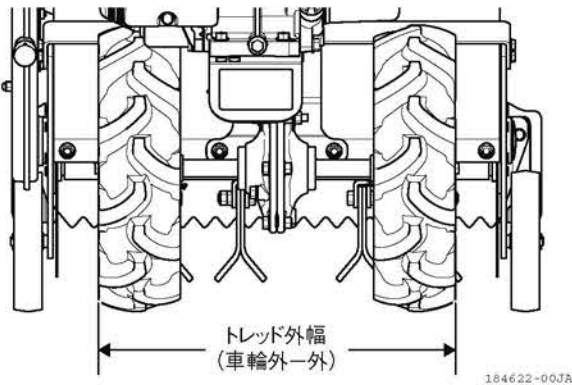


図 3-7 トレッド外幅

〈YW320Hの場合〉

1. タイヤのスナップピンを外し、平頭ピンを抜きます。(図 3-8)

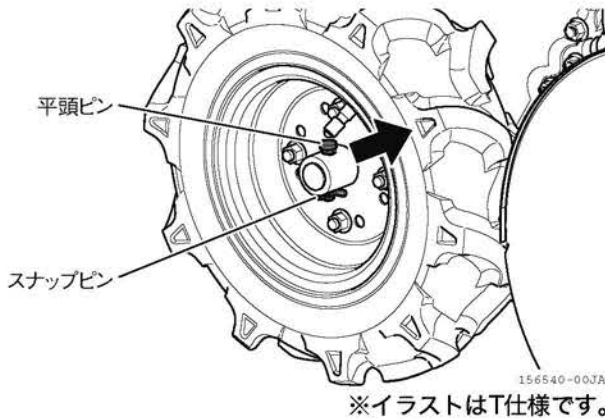


図 3-8 タイヤ幅の調節のしかた

2. タイヤを内側にずらします。(図 3-8)

3. 平頭ピンを差して軸とタイヤを固定し、スナップピンを取り付けます。

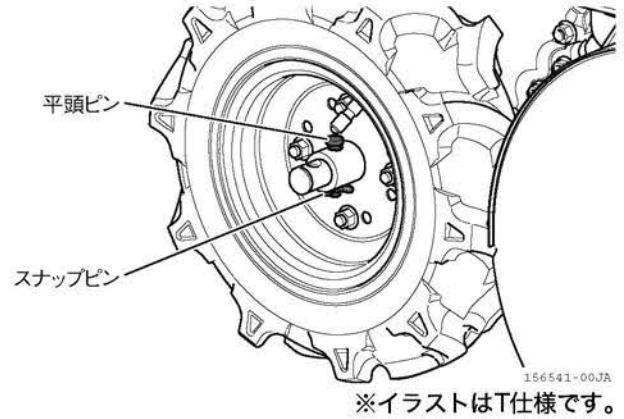


図 3-9 タイヤ幅の調節のしかた

〈YW450H、YW490Hの場合〉

1. 左右のタイヤ内側にある簡易旋回機構のスナップピンを外し、平頭ピンを抜きます。(図 3-10)

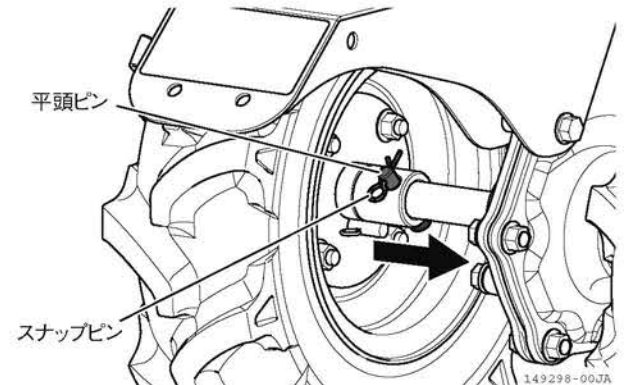


図 3-10 タイヤ幅の調節のしかた

2. タイヤを内側にずらします。(図 3-10)
3. タイヤ外側の穴に平頭ピンを差して、軸とタイヤを固定し、スナップピンを取り付けます。このとき、簡易旋回機構は機能しなくなります。(図 3-11)

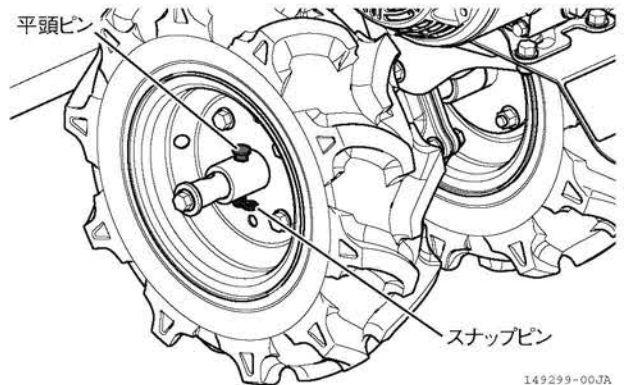


図 3-11 タイヤ幅の調節のしかた

4. タイヤの位置を元に戻すときは、平頭ピンの頭がタイヤ側のピンにくるように差し込みます。

(図 3-12)

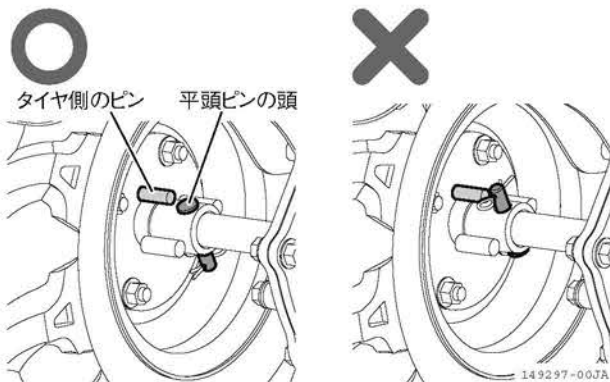


図 3-12 タイヤ幅の調節のしかた

【重要】

逆から差し込むとスナップピンが変形します。またスナップピンが外れ、平頭ピンも外れる場合があります。

車軸の平頭ピンについて

車軸の簡易旋回機構の平頭ピンと簡易旋回機構固定の平頭ピンは安全ピンとなっています。作業中、車軸に大きな力がかかった場合、ピンが折れることで故障を防ぎます。ただし、すべての大きな力を100%防げるわけではありません。条件によっては他の部位に破損がおよぶ場合があります。

平頭ピンは消耗品です。破断した場合、原因を取り除いてから、必ず指定のピンと交換してください。(84 ページの「主要消耗部品」を参照)

簡易旋回機構の平頭ピン (78ページ参照) も同じピンを使用しています。

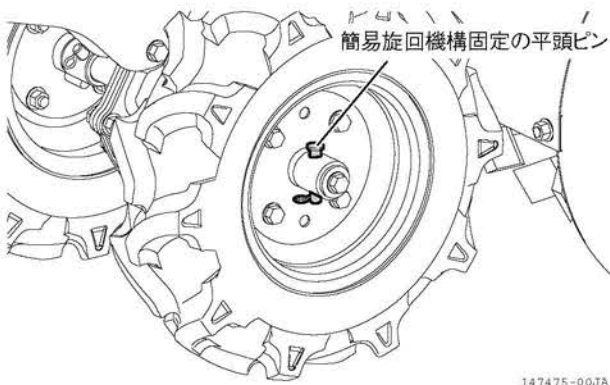


図 3-13 簡易旋回機構固定の平頭ピン

4章 お手入れのしかた

作業後の手入れについて

作業後の手入れのしかた

▲ 注意

ナイフの手入れ・洗浄は、必ずエンジンを停止し、手袋を着用して行ってください。

【守らないと】

けがをするおそれがあります。

作業後はその日のうちに水洗いし、水洗い後は水分をよくふき取って、各回転・摺動部に適量注油してください。

ナイフやローター軸、ローターカバー内に付着した土は、きれいに洗い流してください。

また、ローター軸に草などが巻き付いていたら、取り除いてください。(図 4-1)

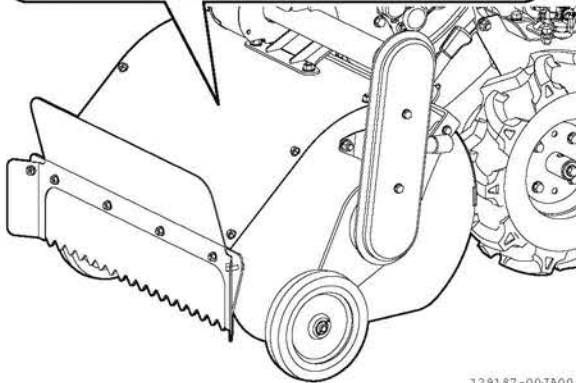
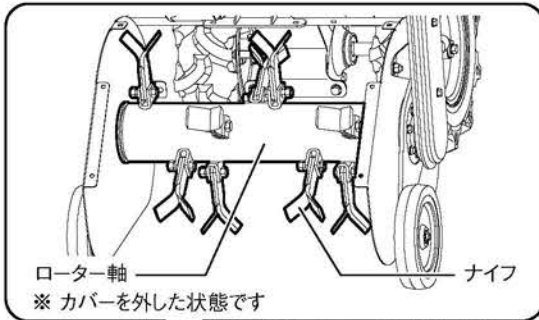


図 4-1 ナイフとローター軸

【重要】

- 水洗いをするときは、エアクリーナーの吸気口やキャブレターに水が入らないようにしてください。(図 4-2)
- リコイルスターター部の吸気口に付いたごみは、きれいに取り除いてください。(図 4-2)
- リコイルスターター部の吸気口は、エンジンの冷却風を吸い込むところです。きれいに掃除しないと、エンジンの過熱や出力低下の原因になります。(図 4-2)

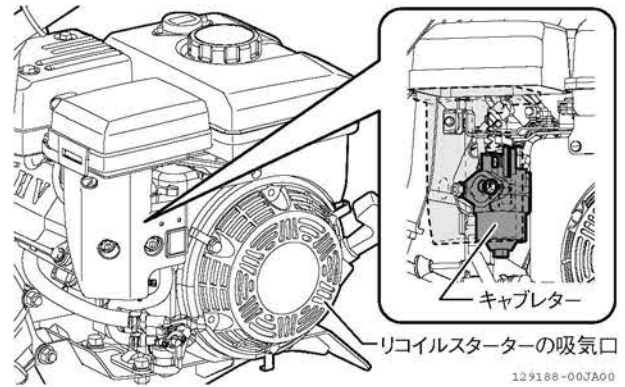


図 4-2 お手入れのしかた

リコイルスターターカバーの掃除

リコイルスターターとリコイルスターターカバーの間にちりやほこりが付着する場合があります。その場合は、リコイルスターターカバーを外して掃除をしてください。(60ページ参照)

洗淨のしかた

⚠ 警告

- 洗淨は、平たんで安定した場所で行ってください。機械が動き出し、傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 高圧洗淨機で洗淨するときは、洗淨ノズルを「拡散」位置にし、洗淨ノズルを機械から2 m以上離してください。

【守らないと】

- 電気配線の損傷・断線により火災を引き起こすおそれがあります。
- 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害事故を引き起こすおそれがあります。

〈直接洗車厳禁〉



図 4-3

〈近距離放水厳禁〉

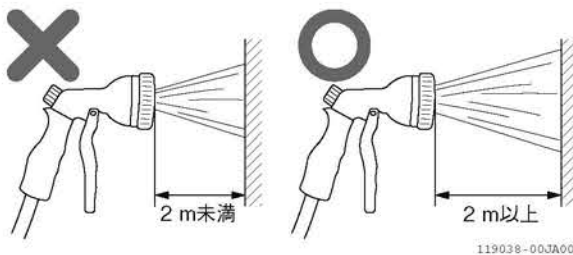


図 4-4

作業したその日のうちに機械を水洗いし、水洗い後は以下の掃除を行ってください。

- 作業機などの回転部にはさまったり、巻き付いたりしている異物やごみを取り除く
- 水分をよくふき取る
- さびやすいところにはグリスを塗る
- 回転部・摺動部に注油する
- 各グリス注入部（グリスニップル）部に、グリスアップを行う

電装品接続部（カプラー）に水や泥水などが浸入した場合は、エアブローなどで吹き飛ばしてください。

【重要】

- 洗車のしかたが不適切な場合、故障や破損の原因になります。
 - 安全銘板やシールのはがれ
 - 電子部品、エンジン・ミッションへの水の浸入による故障
 - タイヤ、オイルシール、クローラなどのゴム類、樹脂製のカバー、ガラスなどの破損
 - 塗装、メッキ面の皮膜のはがれ
- 高圧洗淨機などにより洗車をするときは、以下の箇所には圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因になります。
 - メーターパネル
 - ステアリング周辺
 - 油圧・走行操作レバー周辺
 - バッテリー周辺
 - その他電装品（スイッチやセンサー、コントローラーなど）

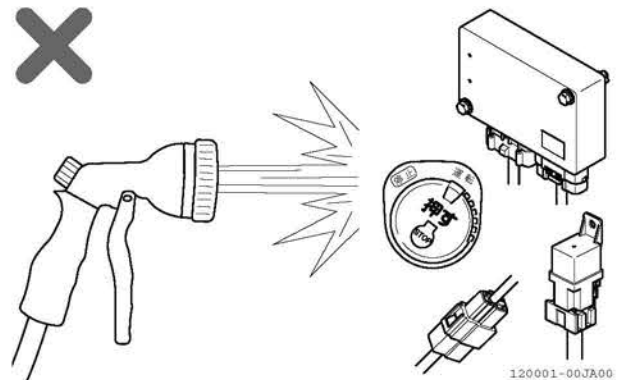


図 4-5

- エアクリーナー、電気部品には、水をかけないでください。故障の原因になります。

各部の注油箇所

▲ 注意

回転部へ注油するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。

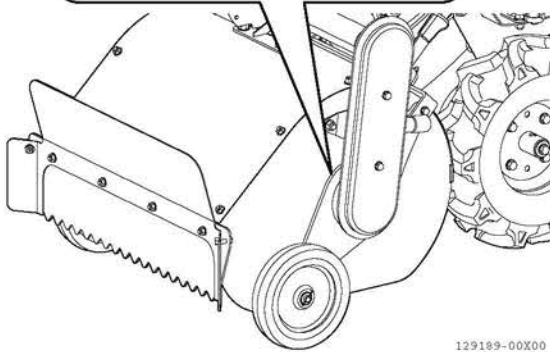
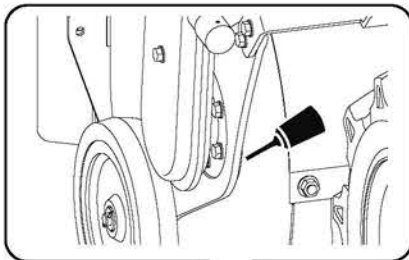
【守らないと】
けがをするおそれがあります。

<凡例>

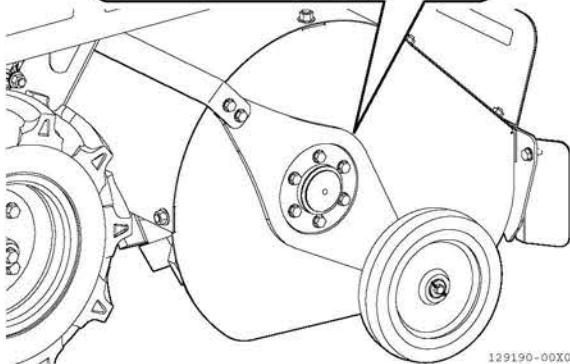
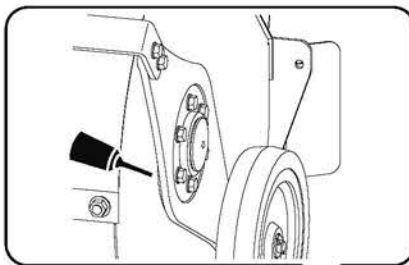
注油位置：



■ ゲージ輪アーム部



129189-00X00



129190-00X00

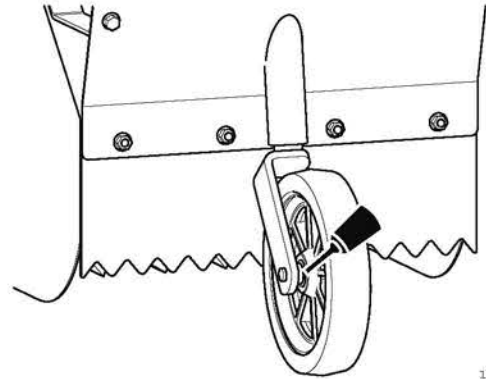
図 4-6 ゲージ輪アーム部

[参考]

刈高さ調節レバーを動かして、注油してください。

■ ゲージ輪軸部

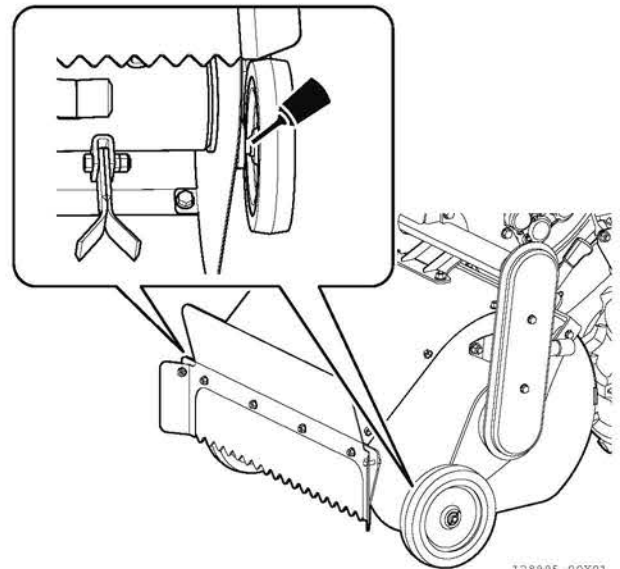
<YW320H>



156542-00X

図 4-7 ゲージ輪軸部

<YW450H、YW490H>



128995-00X01

図 4-8 ゲージ輪軸部

■ テンションアーム支点

1. ベルトカバーを外します。(ボルト2本) (図 4-9)

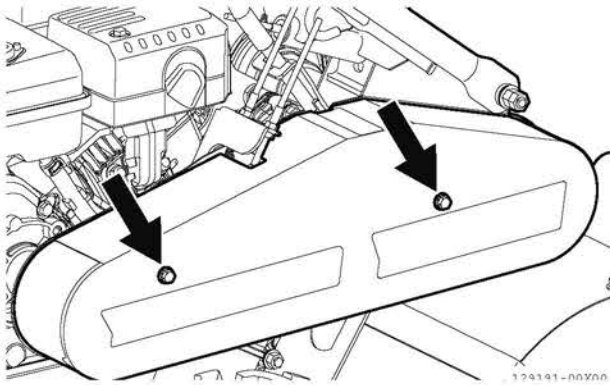


図 4-9 ベルトカバー

【参考】

外したボルトは紛失しないよう注意してください。

2. 注油します。

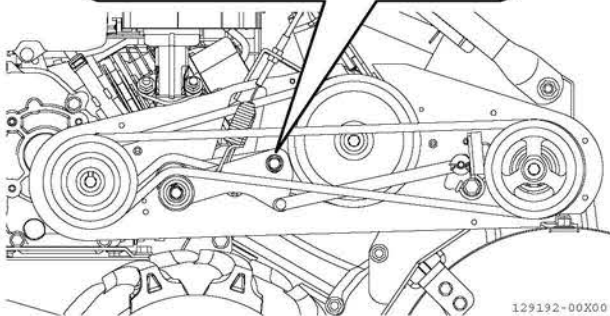
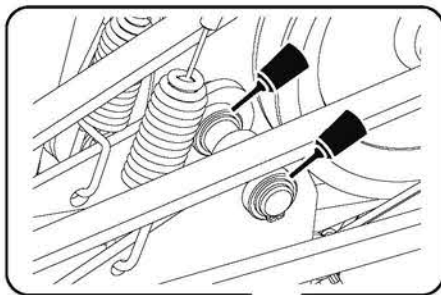


図 4-10 テンションアーム支点

【重要】

ベルトに油がかからないように注意してください。

■ 変速レバー支点

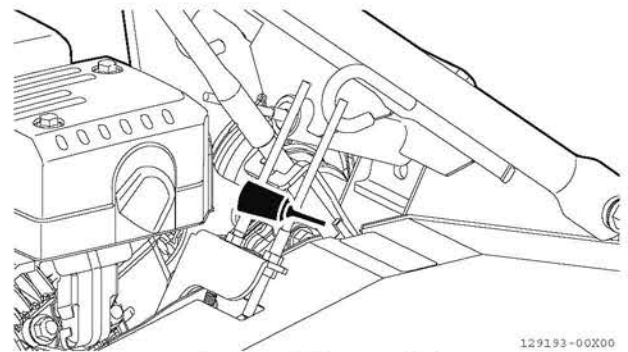


図 4-11 変速レバー支点

■ ゲージ輪調節レバー支点
(YW450H、YW490H)

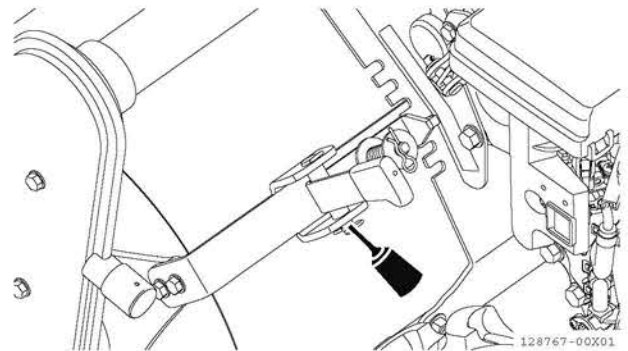


図 4-12 ゲージ輪調節レバー支点

■ 走行クラッチレバー支点(左右)・
走行クラッチワイヤ支点

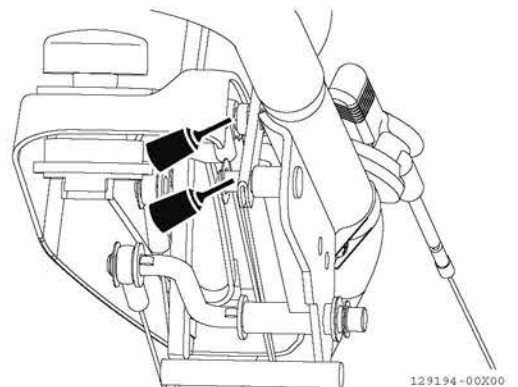


図 4-13 走行クラッチレバー支点 (左右)・
走行クラッチワイヤ支点

■ 作業クラッチ支点・作業クラッチワイヤ支点

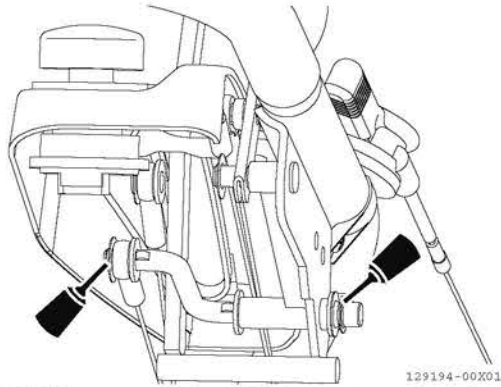


図 4-14 作業クラッチ支点・作業クラッチワイヤ支点

■ 後進(握るとバック)レバー支点・
後進(握るとバック)ワイヤ支点

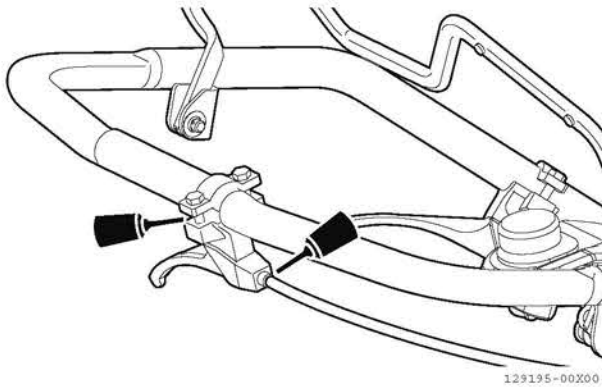


図 4-15 後進 (握るとバック) レバー支点・
後進 (握るとバック) ワイヤ支点

■ ハンドル上下レバー支点・
ハンドル上下ワイヤ支点

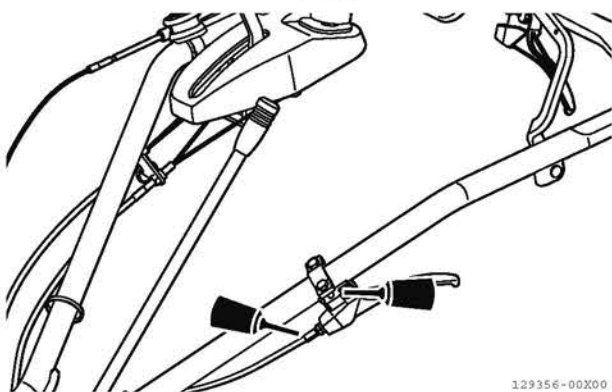


図 4-16 ハンドル上下レバー支点・
ハンドル上下ワイヤ支点

■ ハンドル上下ピン部

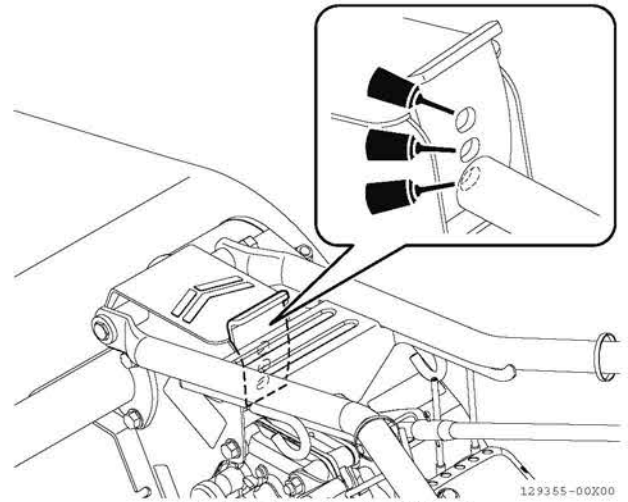


図 4-17 ハンドル上下ピン部

【参考】

ハンドル上下レバーを動かして、注油してください。

点検・整備のしかた

⚠ 警告

- 作業者および補助者は作業に適した服装をしてください。思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- 点検・整備時は、歩行型ハンマーモアを平たんで安定した場所に駐車し、エンジンを停止してください。また、手袋を着用してください。
- 室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排出ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- 機械の摩耗などで角部が鋭利になっている場合、人が触れてけがをするおそれがあります。始業前に確認してください。また、鋭利部を見つけたらお買い上げいただいた特販店、またはJAに修理をご依頼ください。
- ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。
【守らないと】
燃料が漏れて火災が起こり、けがをするおそれがあります。
- 点検・整備をするときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。やけどをするおそれがあります。
- カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

【重要】

専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、お買い上げいただいた特販店、またはJAにご相談ください。

定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行うと、農繁期に歩行型ハンマーモアの性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。歩行型ハンマーモアの整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとに整備工場定期点検・整備を受け、各部の保安を確認してください。特に燃料パイプやゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に歩行型ハンマーモアを最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。

定期点検一覧表

表 4-1 定期点検一覧表

点検・調節箇所	点検・交換時期	内容	参照ページ
エンジンオイル	作業前に点検 1回目:25時間目に交換 2回目以降:50時間ごとに交換	規定量(目安量) ・YW320H、YW450H:0.4(0.35) L ・YW490H:0.5(0.45) L エンジンオイル(ガソリンエンジン用) ・API分類:SE級以上 ・SAE分類:10W-30番	57
走行ミッションオイル	作業前に点検 1回目:50時間目に交換 2回目以降:100時間ごとに交換	規定量:1.0 L ヤンマーミッションオイル90番	58
エアクリーナーエレメント	作業前に点検	紙フィルター・スポンジ共に軽くたたか内側からエアブロー	59
リコイルスターターカバー	1シーズンに1回	外してエアブローなどでちりやほこりの付着を除去	60
走行クラッチレバー	作業前に点検	指でベルト中央部を押したときのたわみ量:約10 mm	61
作業クラッチレバー	作業前に点検	ローター駆動が確実に入切できること	62
作業クラッチブレーキ	作業前に点検	作業クラッチレバーが「切」位置でローターが10秒以内に停止すること	62
ナイフ	作業前に点検	ナイフの両側が10 mm程度摩耗したときに、反転または交換	66
タイヤ ゲージ輪	作業前に点検	ゆるみ、破損の点検	—
点火プラグ	50時間ごとに点検	火花ギャップ(電極すき間):0.7 mm	70
エンジン取付ボルト ナイフ取付ボルト・ナット	作業前に点検	増締め	65
燃料パイプ、電気配線	作業前に点検	燃料パイプとその結合部の点検、 電気配線の被覆はがれや傷の点検	71
フロントシート	作業前に点検	破損や破れがあるときは交換	69
フロントバンパー	作業前に点検	破損があるときは交換	69

燃料の点検・補給・排出のしかた

⚠ 危険

- 燃料補給時は火気厳禁です。
燃料は引火しやすいため、火災や爆発のおそれがあります。
 - ・ エンジンを必ず止めて燃料補給をしてください。
 - ・ たばこなどの火気を近づけないでください。
 - ・ こぼれた燃料は必ずふき取ってください。
- エンジン回転中やマフラーが熱い間は給油をしないでください。火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 規定量を守ってください。入れすぎると燃料キャップからガソリンがあふれ、こぼれたガソリンに引火して火災が起こり、やけどや死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料補給をする前に、機械などの金属部分に触れて、体の静電気を放電してください。静電気の放電による火花が気化したガソリンに引火して火災や爆発が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。
- 燃料は、燃料フィルターを通して補給してください。ごみなどが詰まり、燃料が漏れて火災が起こり、死亡事故を引き起こすおそれがあります。

⚠ 警告

燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。やけどや火災を引き起こすおそれがあります。

【重要】

ガソリンは、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。ガソリンの処分は、特販店またはJAへご相談ください。

燃料の点検・補給のしかた

1. 刈高さを最「低」位置にして、タイヤとゲージ輪が接地した状態にします。(図 4-18)

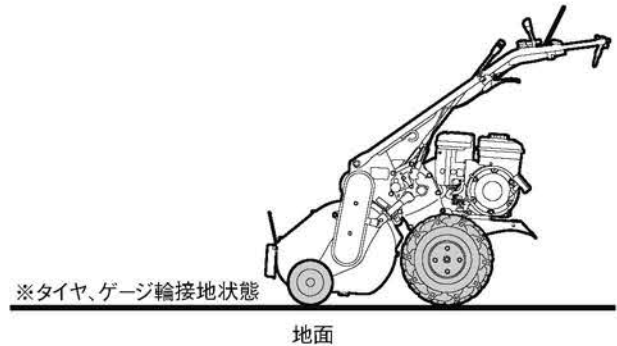


図 4-18 タイヤ、ゲージ輪接地状態

2. 燃料ゲージで燃料残量を点検します。(図 4-19)

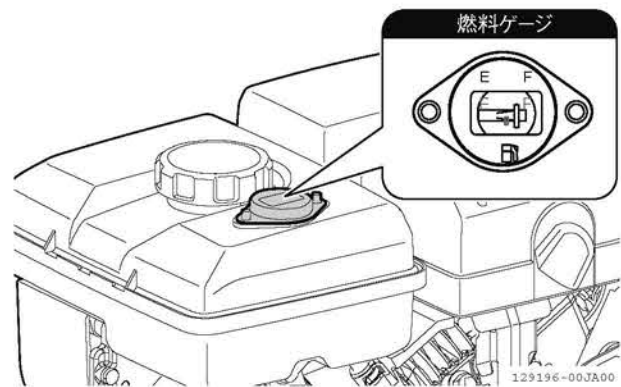


図 4-19 燃料ゲージ

3. 燃料キャップを外し、燃料フィルターにごみが詰まっていないことを点検します。
4. 燃料が不足している場合は、フィルターの赤印枠まで補給します。(図 4-20)

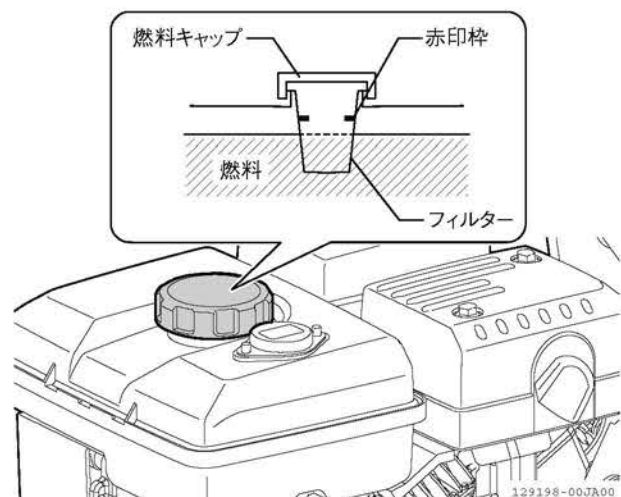


図 4-20 燃料の残量確認

【重要】

- 点検時に、燃料漏れのないことも確認してください。
- 自動車用無鉛ガソリン（レギュラーガソリン）を使用してください。
混合ガソリンや軽油・灯油、または粗悪なガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンの故障につながります。
- ガソリンは自然劣化します。ご購入後1カ月以上保管したガソリンは使用しないでください。
- 燃料を規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで燃料を抜いてください。

燃料タンク内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. 燃料コシ器下部の四角部を工具（10 mmのスパナ）でゆるめて、燃料コシ器のストレーナーカップを外します。（図 4-21）（60ページ参照）

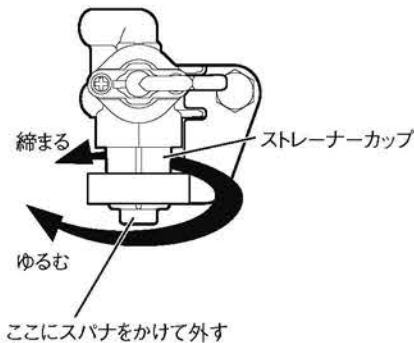


図 4-21 燃料コシ器（ストレーナーカップ）

3. 燃料コシ器の下に容器を置き、燃料コックレバーを「O（開）」位置にします。燃料タンク内の燃料が抜けます。
4. 燃料が全部抜けきったら、燃料コックレバーを「C（閉）」位置にし、燃料コシ器にストレーナーカップを取り付けます。

キャブレター内の燃料の抜きかた

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
2. ドレンの下に容器を置きます。
3. キャブドレンをゆるめます。キャブレター内の燃料が出てきます。（図 4-22）
4. 燃料が全部抜けきったら、キャブドレンを締めます。（図 4-22）

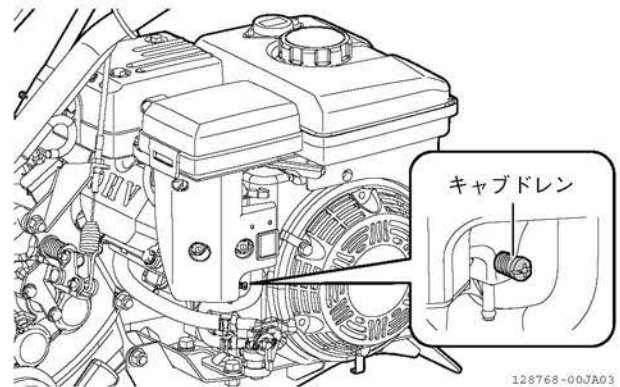


図 4-22 燃料の抜きかた

オイルの点検・補給・交換のしかた

▲ 注意

オイルの点検・交換・補給でこぼれたオイルは必ずふき取ってください。滑って転倒し、けがをするおそれがあります。

【重要】

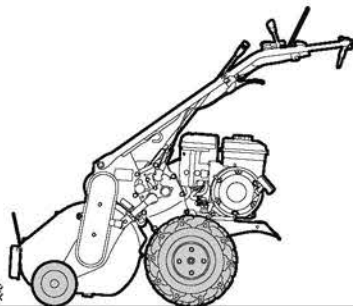
オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。環境汚染につながります。廃油の処分は、特販店またはJAへご相談ください。

エンジンオイル

表 4-2 エンジンオイルの規定量

規定量(目安量)	<YW320H、YW450H> 0.4(0.35) L
	<YW490H> 0.5(0.45) L

エンジンオイルの点検・交換は、エンジンを水平な状態にしてから行ってください。(図 4-23)



※タイヤ、ゲージ輪接地状態

地面

129197-00JA00

図 4-23 オイル点検・交換時の水平状態

【参考】

刈高さを最「低」位置にしたほうが、エンジン水平に近い状態です。

■ 点検のしかた

1. 給油口のふたを外して、先端の検油ゲージのエンジンオイルをきれいにふきます。(図 4-24)
2. 給油口のふたを給油口に差し込み(ねじ込まない)、もう一度抜き出します。(図 4-24)

【重要】

エンジンオイルの量を確認するときは、給油口のふたをいっぱいまで差し込んでください。

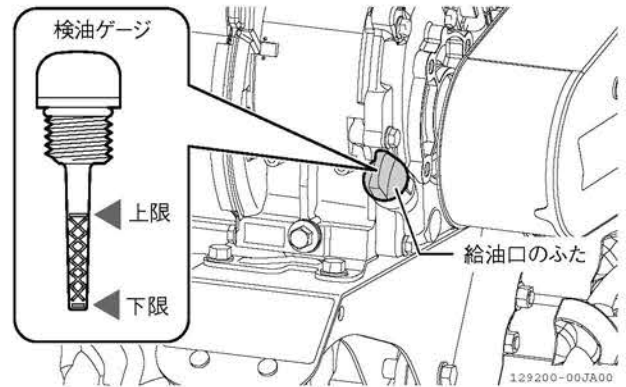


図 4-24 点検のしかた

3. エンジンオイルが検油ゲージの上限と下限の間にあることを確認します。
4. 点検後、給油口にふたを取り付けます。

【参考】

点検時、エンジンオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

エンジンオイルが不足している場合は、油面が検油ゲージの上限の位置になるまで、給油口から補給します。

【重要】

- 補給するエンジンオイルは、必ず指定オイルを使用してください。

表 4-3 エンジンオイルの等級

エンジンオイル(ガソリンエンジン用)

- ・API分類: SE級以上
- ・SAE分類: 10W-30番

- エンジンオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまでエンジンオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. 古いオイルを受ける容器を置きます。(図 4-25)

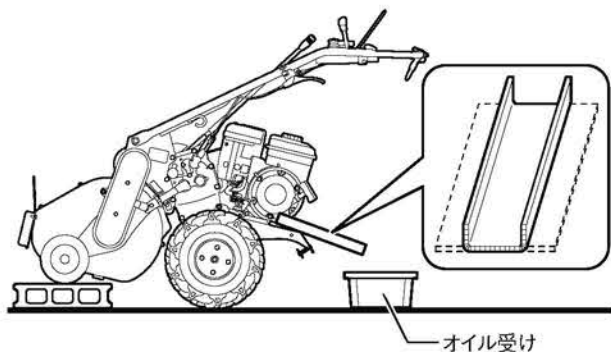


図 4-25 交換のしかた

【参考】

- 幅が 20 cm 以上のオイル受けを用意してください。
- 給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。
- コの字に曲げた段ボールなどをエンジンフレームの上に敷いて作業を行うと、オイルをこぼさずに作業が行えます。(図 4-26)

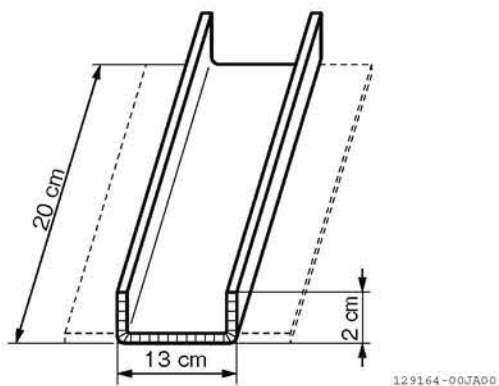


図 4-26 段ボールの寸法

2. ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。(図 4-27)

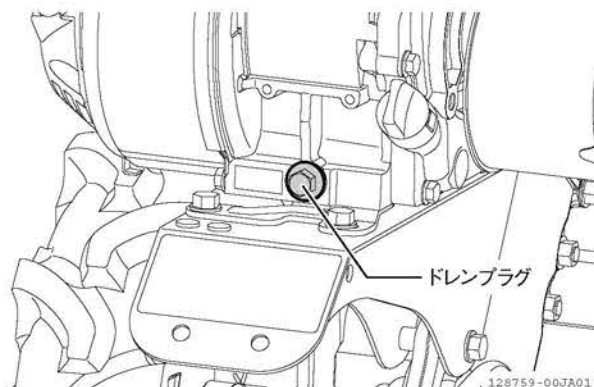


図 4-27 交換のしかた

3. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. エンジンを水平な状態にして、給油口から、エンジンオイルを給油します。
5. エンジンオイルが規定量であることを検油ゲージで確認します。
6. 給油口のふたを元通りに取り付けます。
7. 付着したオイルを、ウエスなどでふき取ります。

走行ミッションオイル

表 4-4 走行ミッションオイルの規定量

規定量	1.0 L
-----	-------

■ 点検のしかた

1. 刈高さを最「低」位置にします。
2. 給油口のふたを外します。(図 4-28)

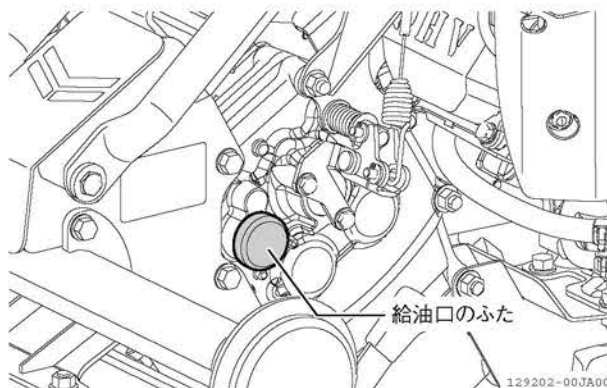


図 4-28 給油口

3. 給油口の口元までオイルがあることを確認します。

【参考】

点検時にオイル漏れのないことも確認してください。

■ 補給のしかた

走行ミッションオイルが不足している場合は、給油口から、給油口の口元部分に走行ミッションオイルの油面がくるまで補給します。

表 4-5 走行ミッションオイルの等級

ヤンマーミッションオイル90番

1. 刈高さを最「低」位置にします。
2. 給油口のふたを外します。(図 4-28)
3. 給油口の口元部分まで補給します。
4. 給油口のふたを取り付けます。

【重要】

走行ミッションオイルを規定量以上入れた場合は、すみやかに規定量になるまで走行ミッションオイルを抜いてください。

■ 交換のしかた

1. 古いオイルを受ける容器を置きます。
2. ドレンプラグを外します。古いオイルが流れ出てきます。(図 4-29)

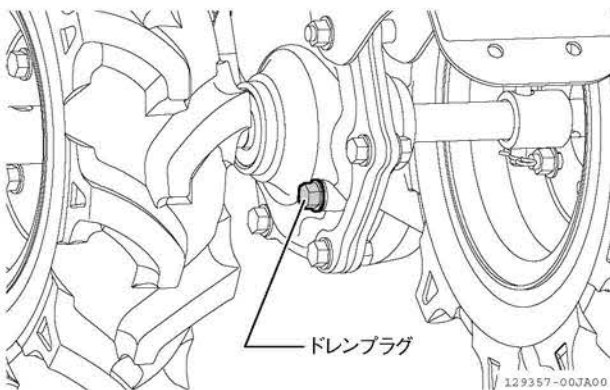


図 4-29 交換のしかた

3. 古いオイルが抜けたら、ドレンプラグを元通りに取り付けます。
4. 給油口から新しいオイルを給油します。(規定量1.0 L)
5. 給油口のふたを元通りに取り付けます。

エアクリーナーの掃除のしかた

▲ 警告

エアクリーナーエレメントの掃除は運転前に行ってください。運転中、および運転直後は掃除をしないでください。

【守らないと】

やけどをするおそれがあります。

エアクリーナーが汚れたままで使用すると、エンジンの出力低下や、故障の原因になります。つぎの要領で、エアクリーナーを定期的に掃除してください。

1. ボルトを手でゆるめて、エアクリーナーのカバーを外します。(図 4-30)
2. エレメント (スポンジ・紙フィルター) を外します。(図 4-30)
3. 汚れがひどいときは、紙フィルター・スポンジ共に軽くたたくか内側からエアブローします。
4. 外したときと逆の手順で取り付け、エアクリーナーのカバーを閉じます。

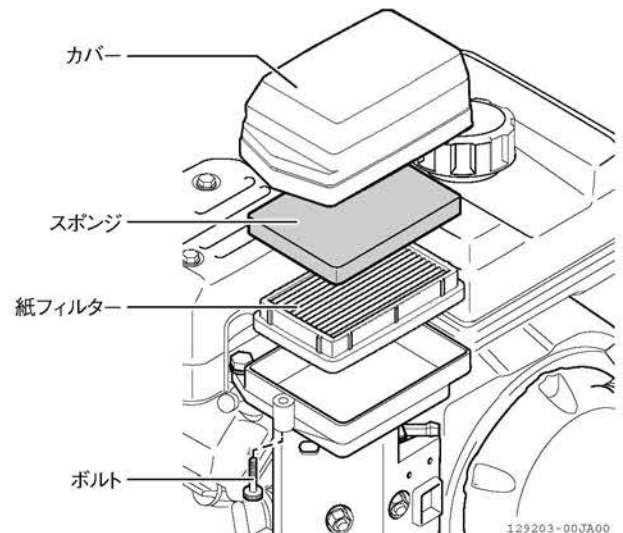


図 4-30 エアクリーナー

リコイルスターターカバーの掃除のしかた

警告

リコイルスターターカバーの掃除はエンジンが冷えてから行ってください。

【守らないと】

やけどをするおそれがあります。

掃除の目安は1シーズン（春・夏・秋・冬）に1回ですが、細かい破片が多い場合はこまめに掃除をしてください。

1. リコイルスターターカバーを外します。
磁石で取り付けてありますのでリコイルロープがある所の切れ込みに指を入れて外します。
(図 4-31)

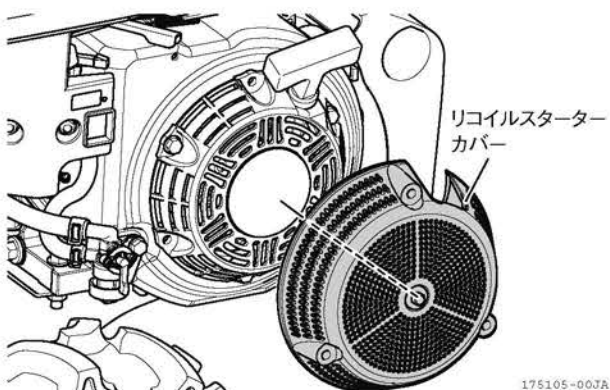
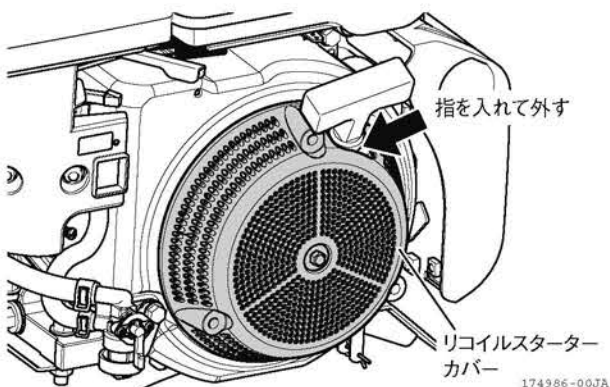


図 4-31 リコイルスターターカバー

2. エアブローなどでちりやほこりを取り除きます。
3. リコイルスターターカバーを取り付けます。

燃料コシ器エレメントの掃除のしかた

燃料コシ器エレメントは、燃料内の小さなごみをこし取るものです。つぎの要領で、定期的に掃除してください。

1. 燃料コックレバーを「C（閉）」位置にします。
(図 4-32)

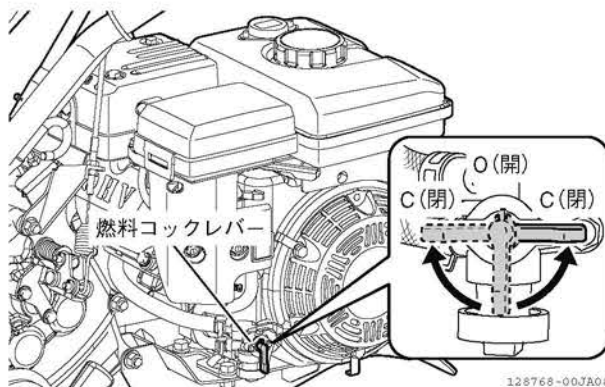


図 4-32 燃料コックレバー

2. 燃料コシ器下部の四角部を工具（10 mmのスパナ）でゆるめます。(図 4-33)
3. 燃料コシ器内の水やごみを取り除き、フィルターネットの目詰まりなどは灯油で洗浄します。
4. フィルターネット、パッキン、ストレーナーカップの順に元通りに取り付けます。(図 4-33)

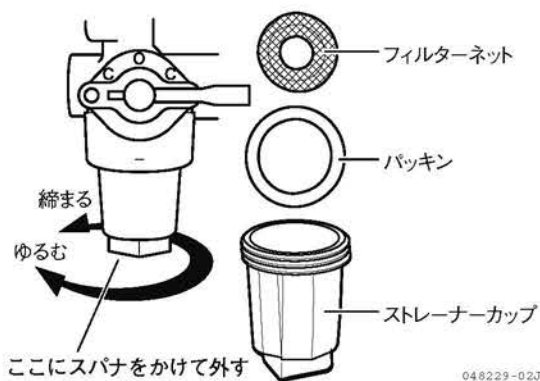


図 4-33 燃料コシ器エレメント

【参考】

フィルターネットは、燃料コシ器の上部に入っています。

走行クラッチレバーの点検・調整のしかた

■ 点検のしかた

1. ベルトカバーを外します。(ボルト2本) (図 4-34)

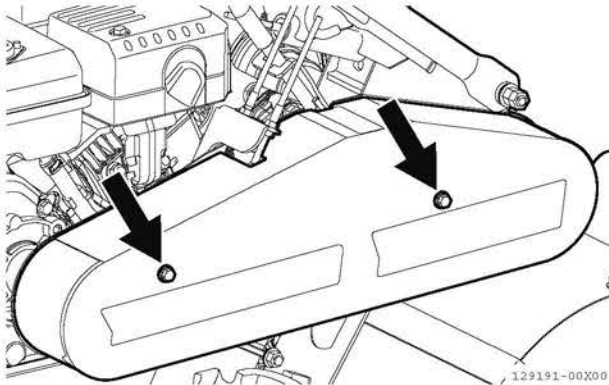


図 4-34 ベルトカバー

2. 主変速レバーを「F2 (移動)」位置にし、走行クラッチレバーを「入」位置でハンマーモアが動かない、「切」位置でハンマーモアが手押しできるか確認します。
(30 ページの「走行クラッチレバー」を参照)
3. 走行クラッチレバー「切」位置、変速レバーを「N (中立)」位置にして、主軸プーリが手で軽く回り、ベルトと主軸プーリの連れ回りがなくことを確認します。(図 4-35)

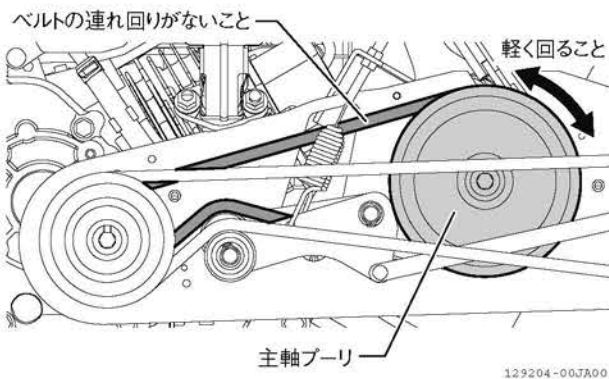


図 4-35 点検のしかた

4. 走行クラッチレバー「入」位置で、ベルト中央を指で押したときのたわみ量が約10 mmであることを確認します。(図 4-37)

【重要】

ベルトの損傷がある場合は交換してください。

■ 調整のしかた

1. ベルトカバーを外します。
2. 走行クラッチレバーを「入」位置にします。
(図 4-36)

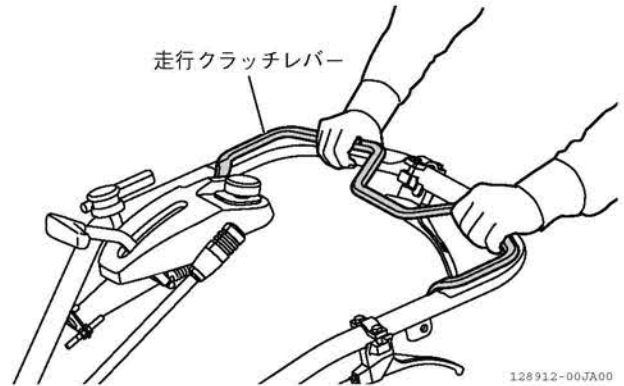


図 4-36 走行クラッチレバー「入」

3. ベルトの中央を指で押さえて、たわみ量が約10 mm になるように走行クラッチワイヤのアジャスト部ナットで調整します。
(図 4-37、図 4-38)

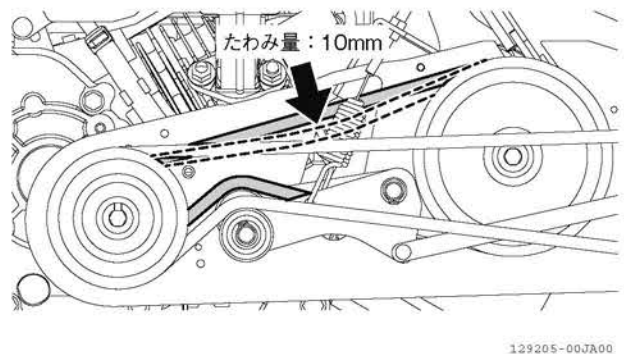


図 4-37 ベルトたわみ量

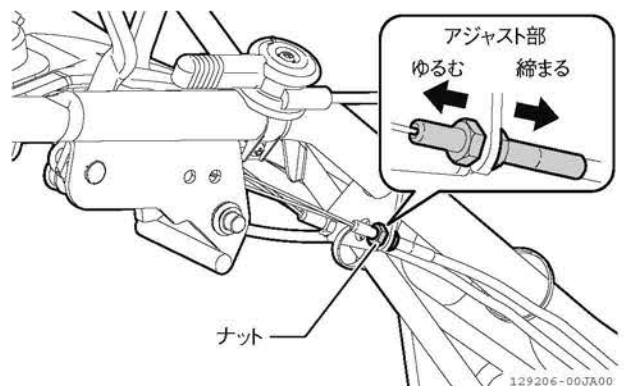
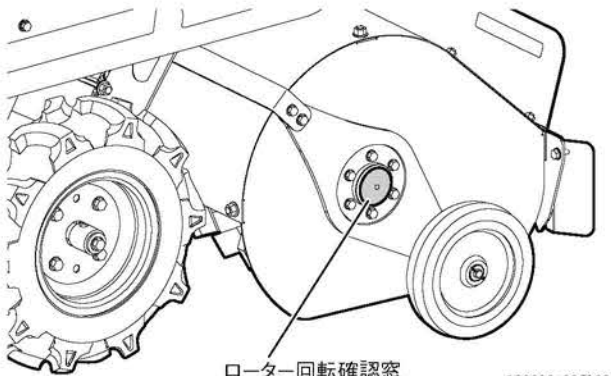


図 4-38 走行クラッチレバー調整

作業クラッチレバーの点検・調整のしかた

■ 点検のしかた

1. エンジンを始動します。
2. エンジン回転を最高回転にします。
3. 作業クラッチレバーを「入」位置にします。
(30ページの「作業クラッチレバー」を参照)
4. ローターが回転することをローター回転確認窓で確認します。(図 4-39)



ローター回転確認窓

図 4-39

5. 作業クラッチレバーを「切」位置にします。
6. ローター回転が10秒以内に停止することを確認します。(図 4-39)

4
お
手
入
れ
の
し
か
た

■ 調整のしかた

1. ベルトカバーを外します。(図 4-40)

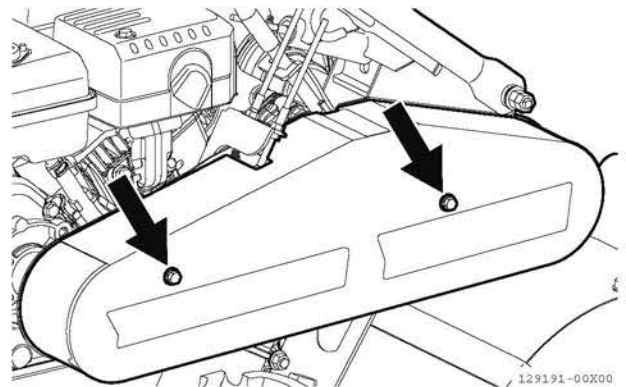


図 4-40

2. 作業クラッチレバーを「入」位置にします。
3. ベルトの中央を指で押さえて、たわみ量が約 20 mm になるように作業クラッチワイヤのアジャスト部ナットで調整します。(図 4-41)

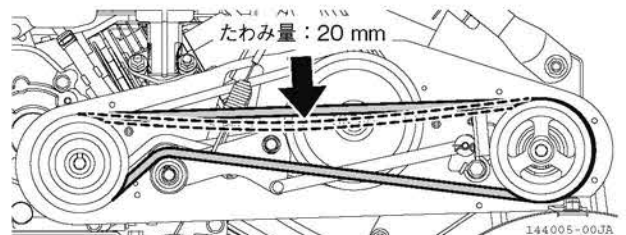
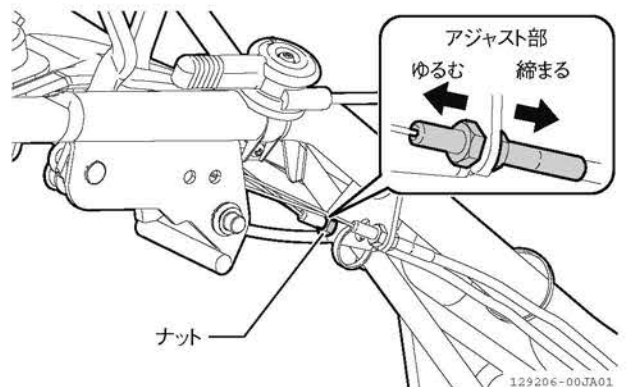


図 4-41

[重要]

ベルトの損傷がある場合は交換してください。

走行クラッチベルトの交換のしかた

走行クラッチベルトは作業クラッチベルトを外してから、交換します。

1. 作業クラッチベルトを外します。(63 ページの「作業クラッチベルトの交換のしかた」を参照)
2. 止め輪と平頭ピンを外します。(図 4-42)

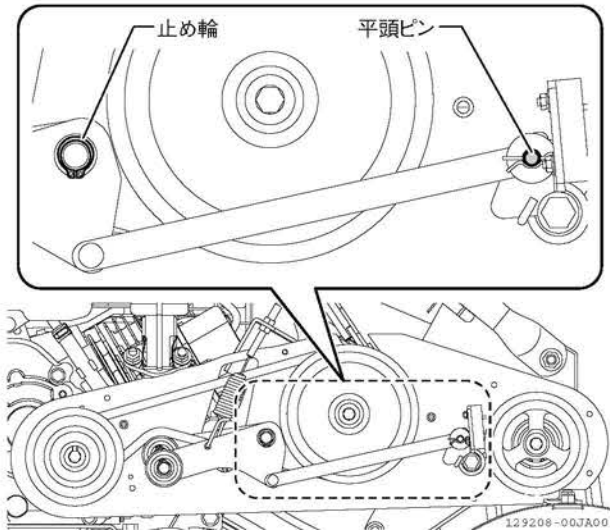


図 4-42

3. テンションアームを軸から抜いて、走行クラッチベルトを外します。外しにくい場合は、プーリを抜きます。(図 4-43)

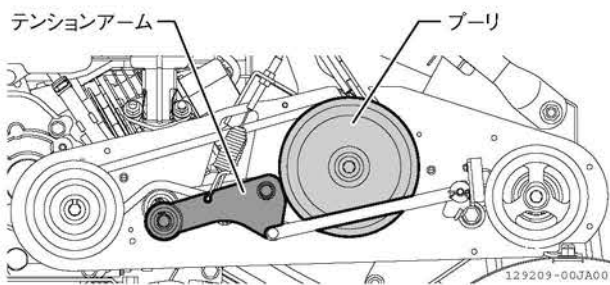


図 4-43

4. 新しいベルトと交換します。

作業クラッチベルトの交換のしかた

1. ベルトカバーを外します。(図 4-44)

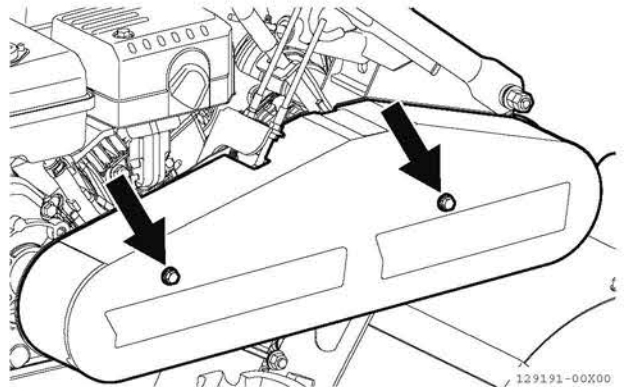


図 4-44

2. 作業クラッチベルトを外し、新しいベルトと交換します。(図 4-45)

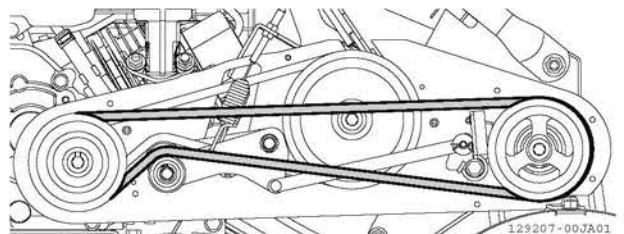


図 4-45

ローター駆動ベルトの点検・交換のしかた

1. ボルト (2カ所) を外し、ローター駆動ベルトカバーを外します。(図 4-46)

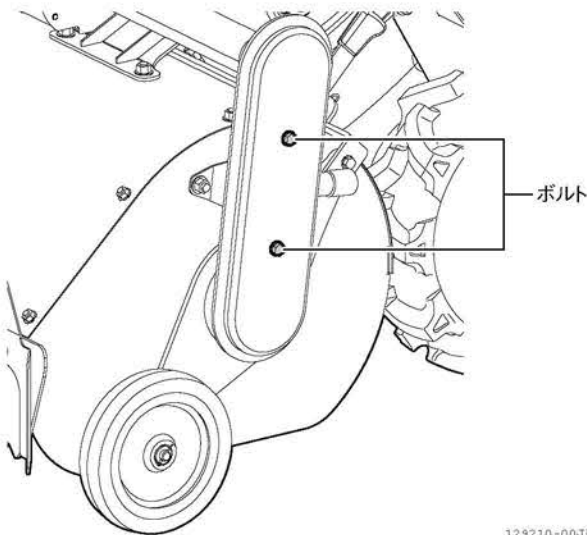


図 4-46

129210-00JA00

2. プーリのボルト (2カ所) を外します。(図 4-47)
3. ばねで常にベルトを張っているため、A部を矢印の方向に押しながら、上下のプーリと一緒にローター駆動ベルトを外します。(図 4-47)

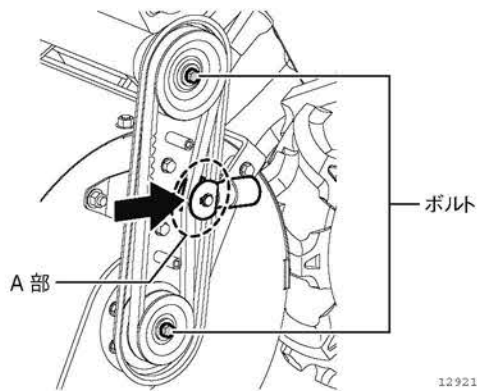


図 4-47

129211-00JA00

4. 新しいベルトと交換します。

ブレーキシューの交換のしかた

■ 点検のしかた

1. 作業クラッチレバー「切」位置でブレーキシューがプーリに当たることを確認します。(図 4-48)

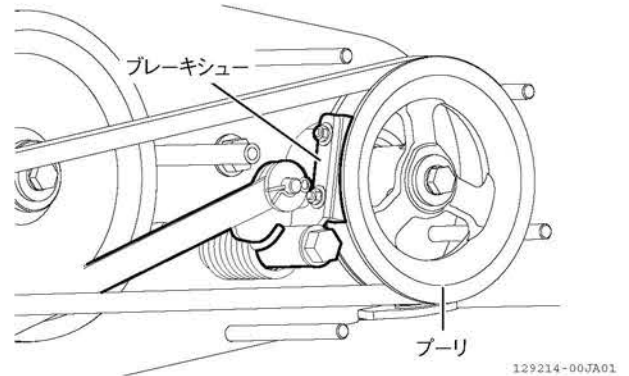


図 4-48

129214-00JA01

2. プーリ外周とブレーキスターが重なるようになったら交換めやすです。(図 4-49)

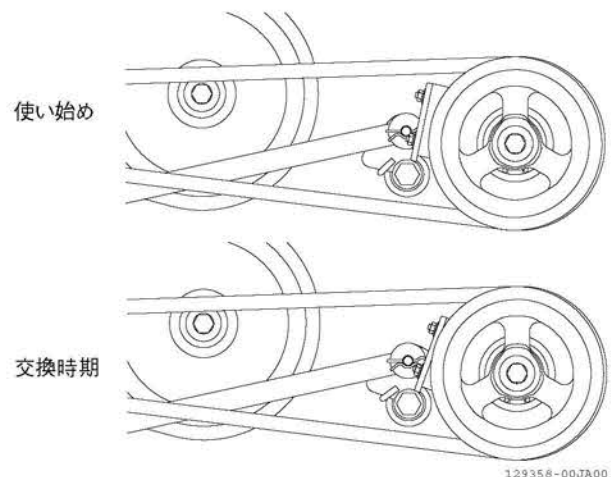


図 4-49 ブレーキシューの交換めやす

129358-00JA00

■ 交換のしかた

1. 走行クラッチレバーを「切」位置にし、ベルトカバーを外します。
2. 従動側のプーリから作業クラッチベルトを外します。(図 4-50)

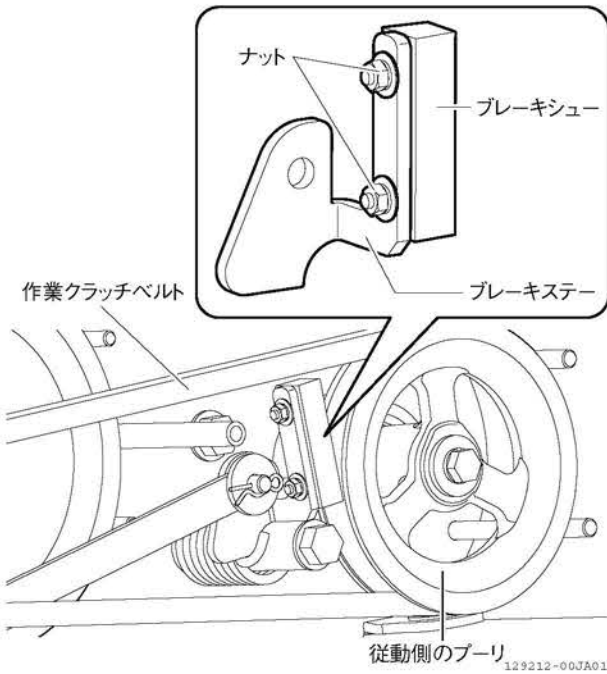


図 4-50

3. 従動側のプーリを外します。(図 4-50)
4. ブレーキスターのナット (2カ所) を外し、ブレーキシューを交換します。(図 4-50)
5. 逆の手順で組み付けます。
6. 作業クラッチレバーを操作し、ブレーキが作動することを確認します。(図 4-51)

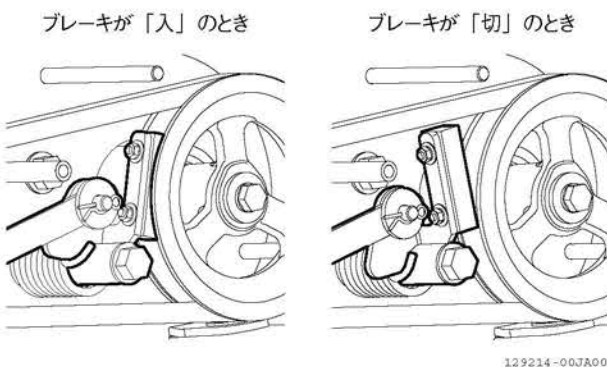
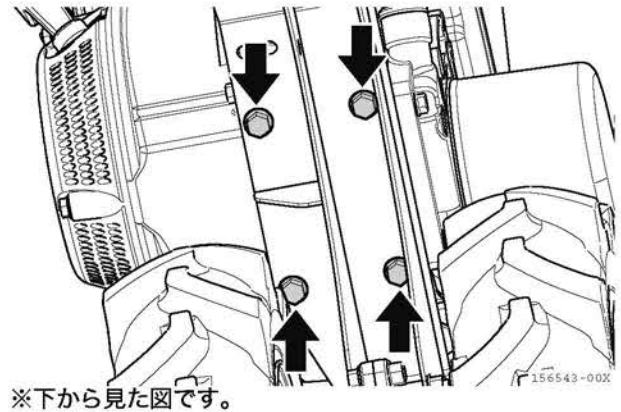


図 4-51

7. エンジンを始動した状態で作業クラッチレバーを「入」から「切」にしたとき、ローターが10秒以内に停止することを確認します。

増締めするところ

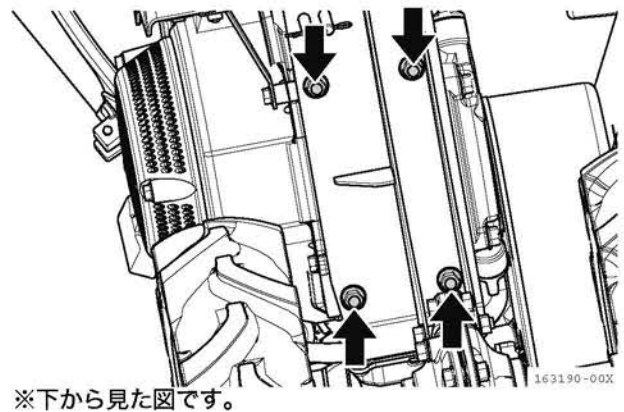
■ エンジン取付ボルト・ナット (4カ所)
(YW320H、YW450H)



※下から見た図です。

図 4-52 エンジン取付ボルト

(YW490H)



※下から見た図です。

図 4-53

■ ナイフ取付ボルト・ナット

- ・ YW320H：8カ所
- ・ YW450H：12カ所
- ・ YW490H：16カ所

ナイフのすべての取付ボルト・ナットを増締めします。(図 4-54)

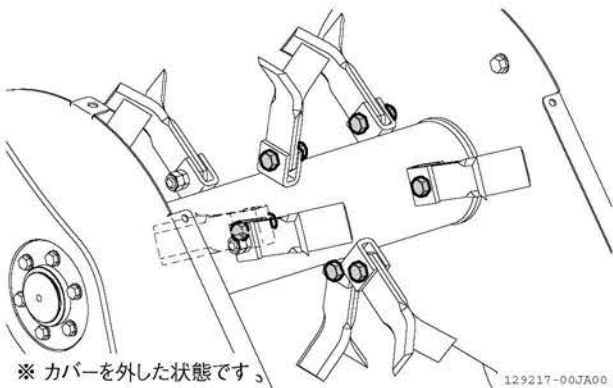
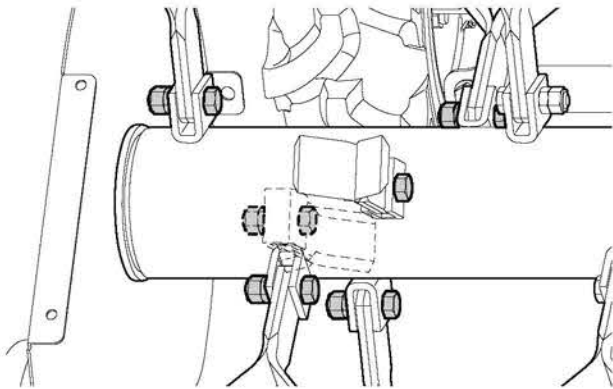


図 4-54 ナイフ取付ボルト・ナット

4

お手入れのしかた

ナイフの点検・交換のしかた

▲ 注意

ナイフの手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用してください。思わぬけがをするおそれがあります。

効率のよい作業をしていただくために、ナイフは、早めに交換してください。

■ 点検のしかた

- ナイフの損傷・曲がり、および摩耗を点検します。
- 取付部のゆるみがないか点検します。

ナイフの入れ替え時期

ナイフの片側が10 mm程度摩耗した場合は、左右のナイフを裏返して入れ替えます。(図 4-55)

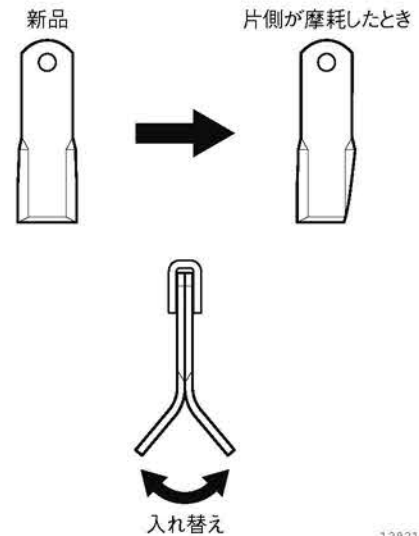


図 4-55 ナイフの摩耗

【参考】

ナイフの両側が10 mm程度摩耗した場合は、交換してください。(68 ページの「ナイフの交換時期のめやす」を参照)

■ 交換のしかた

▲ 注意

ナイフとボルト・ナットの向きと方向を間違えないように注意してください。思わぬけがをするおそれがあります。

1. ナイフの取付ボルト・ナットを外して、ナイフを交換します。(図 4-56)

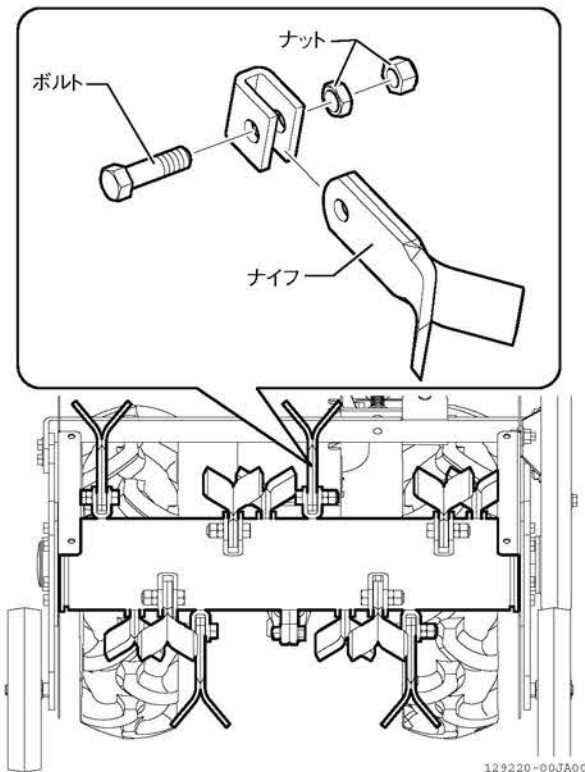


図 4-56 ナイフの交換

2. ナイフが自由に動く位置まで、1個目のナットを締めます。
3. 1個目のナットをスパナで固定し、2個目のナットを締め付けます。
 - ・YW320H：8組 16本
 - ・YW450H：12組 24本
 - ・YW490H：16組 32本

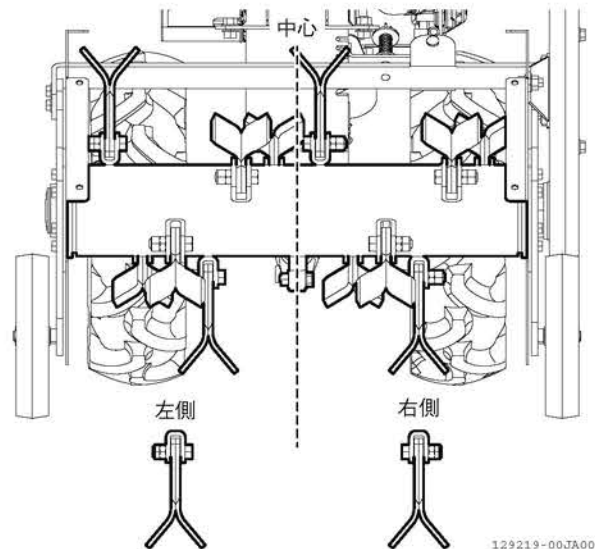


図 4-57 ナイフの取付方向

【重要】

- ナイフを取り付けるときは、ナイフとボルト・ナットの向きと方向に注意して、正しく取り付けてください。ナイフの向きをひっくり返す場合も、ボルトは元と同じ方向で取り付けます。間違って取り付けると、故障の原因になります。
- ナイフの向きをひっくり返したり、ナイフを交換したりするときは、すべてのナイフを同時に実施してください。ローターのバランスがくずれて、故障の原因になります。

ナイフの交換時期のめやす

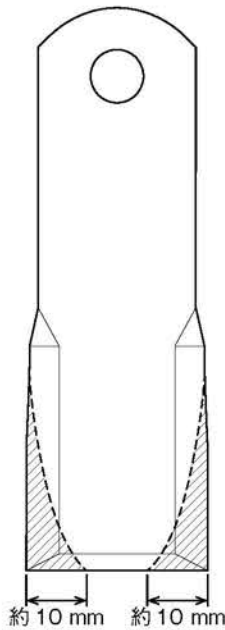


図 4-58 ナイフの交換時期のめやす

156457-00JA

カバーガードの交換のしかた

【重要】

ローターの内側には、摩耗時に交換が可能なカバーガードが付いています。

カバーガードが摩耗している(穴があいている)場合は、すみやかに交換してください。交換しないとローターカバーに穴があくおそれがあります。

1. 燃料コックレバーを「C (閉)」位置にします。
(図 4-59)

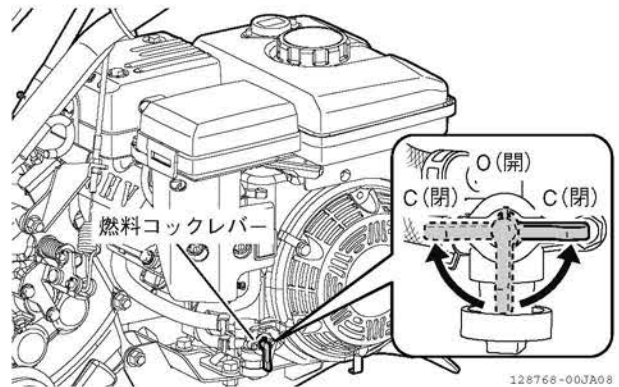


図 4-59 燃料コックレバー

128768-00JA08

2. 機械を後方に傾けます。
3. 作業中にローターが落ちてこないようにリジットラック (うま) をローターの下に入れます。
(図 4-60)

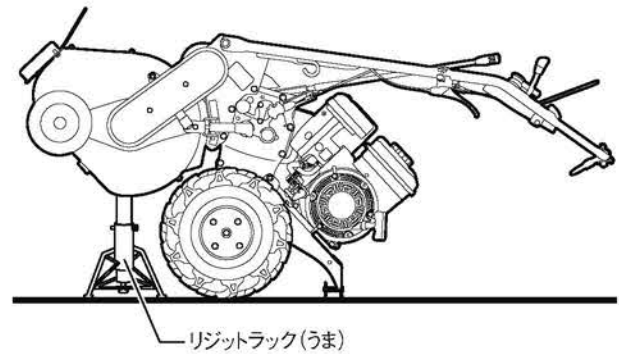


図 4-60 リジットラック (うま)

128760-00JA00

4. カバーガード取付ボルト・ナット（8カ所）を外して、カバーガードを交換します。（図 4-61）

[重要]

取付ボルトは内側から差ししてください。

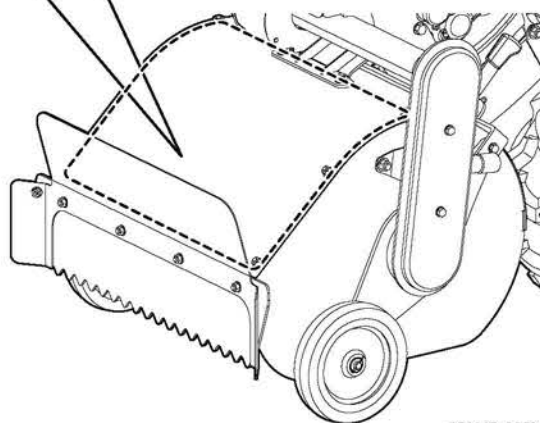
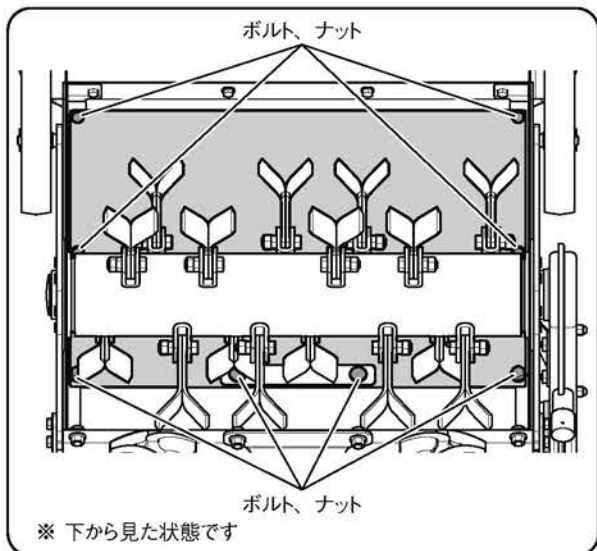


図 4-61 カバーガード

5. ローターが回転したときに、カバーガードとナイフが干渉しないことを確認します。

フロントバンパー、フロントシートの交換のしかた

■ YW320Hの場合

1. ボルト・ナット（6カ所）を外します。（内4カ所はフロントシートと共締めになっています）
フロントバンパーとゲージ輪取付ステーは一体になっています。

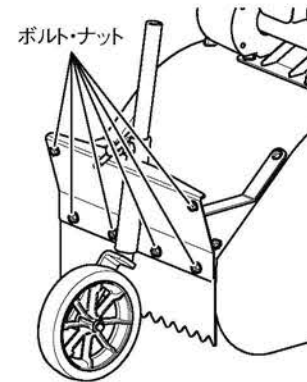


図 4-62

2. 破損している部品を交換して、逆の手順で取り付けます。

■ YW450H、YW490Hの場合

1. フロントバンパーとフロントシートは共締めになっています。
ボルト・ナット（6カ所）を外します。（図 4-63）

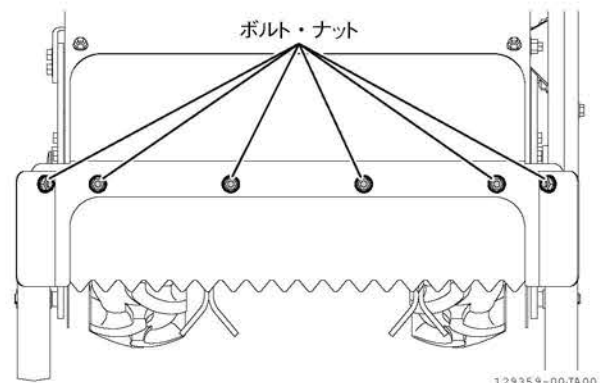


図 4-63

2. 破損している部品を交換して、逆の手順で取り付けます。

点火プラグの点検・掃除・交換のしかた

警告

点火プラグの点検・掃除・交換は、運転前に行ってください。運転中、および運転直後は点検・掃除・交換をしないでください。高温部でやけどをするおそれがあります。

電極部が焼けたり、損耗または破損している点火プラグを使用すると、エンジンの不調や排出ガス不良になります。

定期的に点火プラグの点検・掃除をしてください。

■ 点検のしかた

1. プラグコードを外します。(図 4-64)

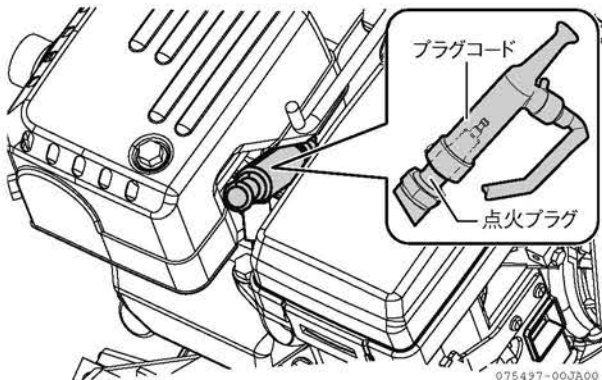


図 4-64

2. 付属のプラグレンチを使用して点火プラグをエンジンから外します。
3. 点火プラグの電極部の焼け具合、損耗の程度を点検します。
4. 火花ギャップ（電極すき間）を0.7 mmに調整します。(図 4-66)

5. 点火プラグを元通りに取り付け、プラグコードを確実に差し込みます。(図 4-65)

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。(図 4-65)

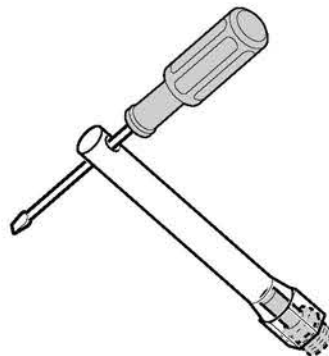


図 4-65 点火プラグの取り付け

■ 掃除のしかた

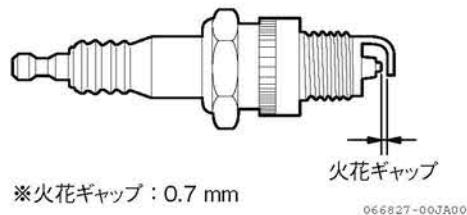
電極部をワイヤブラシで掃除します。

■ 交換のしかた

電極部が損耗または、破損したものは新品と交換します。点検のしかたの要領で点火プラグを外し、交換してください。

表 4-6 標準点火プラグ

E仕様以外	NGK製(BP6HS)
E仕様	NGK製(BPR6HS)



※火花ギャップ：0.7 mm

図 4-66 火花ギャップ

燃料パイプ・電気配線の点検のしかた

▲ 注意

ゴムホース類は、時間がたつと劣化します。2年ごとに交換してください。

【守らないと】

燃料漏れによるやけどや火災が起こり、けがをすおそれがあります。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

また、電気配線が他の部品に接触して、被覆のはがれや傷がないこと、接続部のゆるみがないことを点検します。

燃料パイプや電気配線が傷んでいる場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAなどで修理してください。傷んでいなくても、2年ごとに交換するようにしてください。

タイヤの空気圧の調整のしかた

▲ 警告

タイヤに空気を入れる際は、規定の最大空気圧以上に空気を入れしないでください。

【守らないと】

タイヤに空気を過度に入れる、または空気が過度に少ない場合、タイヤが破裂して、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

左右のタイヤの空気圧を137 kPa (1.4 kg/cm²) に調整します。(図 4-67)

左右のタイヤの空気圧が均等になっていないと、運転中にハンドルをとられることがあります。

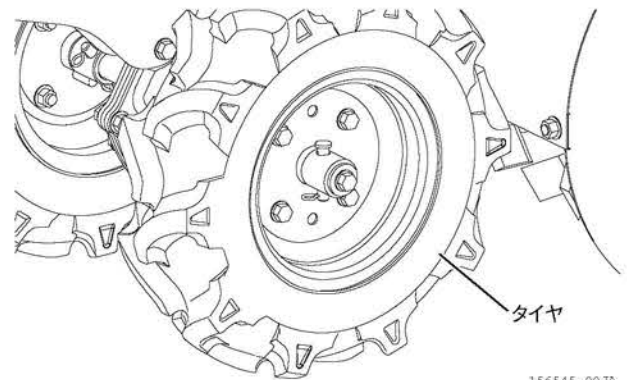


図 4-67 タイヤの空気圧調整

156545-007A

バッテリーの長期保管時の手入れ(E仕様)

- 60℃以下の高温にならない場所に保管してください。
- 屋内で湿気が少なく換気のよい場所に保管してください。
- 長期保管の前は十分な運転により充電を行ってください。

バッテリーの点検(E仕様)

⚠ 警告

- バッテリーカバーを外して使用しないでください。
- バッテリーを火中に投下したり、火気に近づけたり、加熱したり、また高温状態で放置したりすると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーを分解・改造すると発熱、発火、破裂の原因となります。
- バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。指定以外の方法で充電すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーはエンジン始動専用です。指定以外の用途に使用すると、発熱、発火、破裂することがあります。
- バッテリーに強い衝撃を与えないでください。バッテリーに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には使用をやめてください。
- バッテリーコードを強く引っ張らないでください。
- バッテリーを外部充電しないでください。
- バッテリーから漏液したり、異臭がするときにはただちに火気より遠ざけてください。
- バッテリーを工具などでショートやスパークさせないでください。

燃料パイプの傷や接続部の締付バンドのゆるみ、燃料漏れがないことを確認します。

バッテリーの仕様

本製品は充電式リチウムイオンバッテリーを使用しています。バッテリーはバッテリーカバー内にあります。

表 4-7 バッテリーの仕様

電池の種類	リチウムイオン電池
定格容量	1.0Ah
定格電圧	DC12.8V
使用可能温度	0~60°C
保存温度	0~60°C(推奨0~20°C)

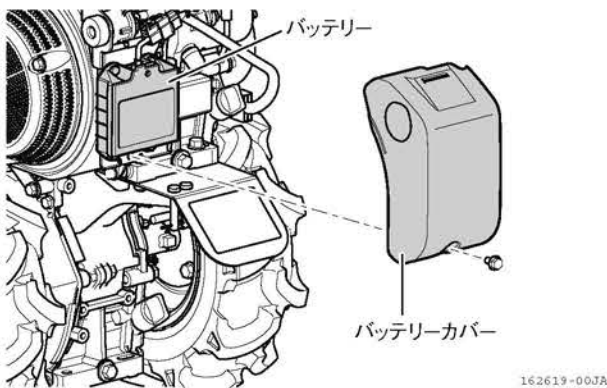


図 4-68 バッテリー

【参考】

- 初めてお使いになるときは、リコイルスターターでエンジン始動させ十分な運転により充電を行ってください。
- バッテリーからの電源取り出しはできません。

バッテリーの充電方法

バッテリーはエンジン運転中に自動で充電されます。充電が切れた場合は下記手順で充電します。

1. 37ページを参照し、エンジンを始動します。
2. アクセルレバー「高」側で充電できます。

表 4-8 充電時間(新品時での目安)

満充電	約50分
始動1回分	約1分

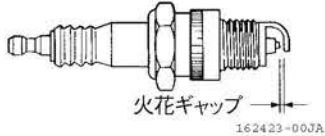
【重要】

- セルモーターを5秒間回してもエンジンが始動しないときは、10秒以上時間を空けてから再始動してください。
- セルモーターを5秒以上回し続けたり、また短い休止時間で断続的にセルモーターを回すと、バッテリーが発熱して内部の保護機能が作動しますのでおやめください。
- 保護機能が作動したバッテリーパックは充放電ができなくなるため交換が必要です。
- 低温時はバッテリーの出力特性が弱くなるため、始動できない場合があります。その際は、リコイルスターターで始動してください。

バッテリーの寿命と交換

- 十分な運転による充電を行っても始動回数が少なくなった場合は寿命です。(バッテリーの寿命は使用・保管などの状態により変化します)
- 寿命、もしくは保護機能が作動したバッテリーパックは交換が必要です。ご購入先に相談してください。

不調診断のしかた

状 況	この確認をしてください	処 置	参照ページ
エンジンが始動しない場合	燃料タンクに燃料が入っていますか。	燃料を補給してください。	55
	エンジンの始動手順が間違っていますか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	36
	燃料コックレバーが「C(閉)」位置になっていませんか。	燃料コックレバーを「O(開)」位置にしてください。	36
	燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水がたまっていれば、燃料コシ器を外して、水抜きをしてください。	60
	ご購入後1カ月以上経過したガソリンを使用していませんか。	キャブレター内のガソリンを抜き、新しいガソリンを補給してください。	56
	点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外して、火であぶるか、乾いた布でよく乾燥させてください。	70
	 <p>火花ギャップ 162423-00JA</p> <ul style="list-style-type: none"> ・E仕様以外:NGK製(BP6HS) ・E仕様:NGK製(BPR6HS) 	点火プラグの火花ギャップを調整してください。または、新しい点火プラグと交換してください。それでも始動しない場合は、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。	
	各リード線が外れていませんか。	コネクタ、リード線の接続を点検してください。	—
	〈E仕様のみ〉 作業クラッチレバーが「入」になっていませんか。	作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。	30
	〈E仕様のみ〉 セルモーターが回りますか。	リコイルスターターでエンジン始動しバッテリーを充電してください。	38
	充電してもセルモーターが回らない場合はバッテリーを交換してください。	73	
各部に振動が多い場合	エンジンが振れるのではありませんか。	エンジン取付ボルトを強く、締め直してください。	65
エンジンの力がない場合	ローター部に草などの異物が絡んでいますか。	絡んだ異物を取り除いてください。	59
	ナイフの脱落や欠損がありませんか。	ナイフを交換してください。	66
	エアクリーナーにごみが詰まっていますか。	エレメントを外し、きれいに掃除するか交換してください。	59
	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	エンジンオイルを補給してください。また、古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	57
	エンジンの回転は上がりますか。	アクセルレバー取付位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。	—
		アクセルワイヤのセット位置を変えてください。	
	エンジンの圧縮がないのではありませんか。	点火プラグを締めてください。それでも改善しない場合は、ピストンリングなどの摩耗も考えられます。お買い上げいただいた特販店、またはJAに相談してください。	70
	ローターカバー内側に土などが蓄積していませんか。	土などを取り除いてください。	—
走行クラッチレバーを「入」位置にしても走行しない場合	ベルトが伸びて、スリップしていませんか。	ベルトの張りを確認してください。	61
刈高さ調節レバーの操作ができない場合 (YW450H、YW490H)	ゲージ輪やステアーに泥や草が付着していませんか。	泥や草を取り除き、ゲージ輪の摺動部分にオイルを塗ってください。	45
左右のタイヤが常に同じ回転をする場合(旋回しにくい) (YW450H、YW490H)	簡易旋回機構固定の平頭ピンが取り付けられていませんか。	簡易旋回機構固定の平頭ピンを外してください。	46

状 況	この確認をしてください	処 置	参照ページ
タイヤが片側しか回らないとき (YW450H、YW490H)	タイヤの内側にある簡易旋回機構の平頭ピンが外れて(または折損して)いませんか。	タイヤの内側にある簡易旋回機構の平頭ピンを取り付けて(交換して)ください。	46
ローターの回転が10秒以内に停止しない場合	ブレーキシューが摩耗していませんか。	お買い上げいただいた特販店、またはJAへ連絡して、ブレーキシューを交換してください。	65

保管するときは

▲ 注意

- 歩行型ハンマーモアを高いところに保管しないでください。また、ハンドル部を利用して歩行型ハンマーモアを吊り下げての保管もしないでください。
落下するおそれのある保管方法は絶対にしないでください。
- 格納（保管）は、歩行型ハンマーモアが倒れたり動いたりしない平坦で安定した場所に格納してください。
- ナイフなどの突起部が露出した状態で保管しないでください。
- 歩行型ハンマーモアにカバーをして保管する場合は、ナイフなどの突起物でけがをしないように、壁など人が近づかない方向に向けて保管してください。
- エンジンが高温のときは、本体カバーをかけないでください。エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。火災の原因になります。

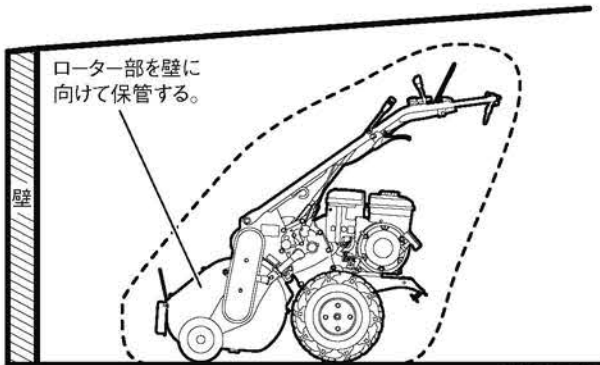


図 5-1 歩行型ハンマーモアの保管方法

歩行型ハンマーモアは、直射日光や雨水のあたらない、風通りのよい屋内で保管します。雨水などがエアクリナーやキャブレターにかかると、エンジンの故障などにつながります。

特に長期保管するときは (1カ月以上)

【重要】

- 1 カ月以上歩行型ハンマーモアを使用しない場合は、必ず燃料タンク、キャブレター、燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ってください。
抜き取らないと、エンジン不調の原因になります。(56ページ参照)
- 長期保管のときは、タイヤの下に木台を敷いてください。

保管のしかた

エンジンの手入れ

1. プラグコードを外します。(図 5-2)

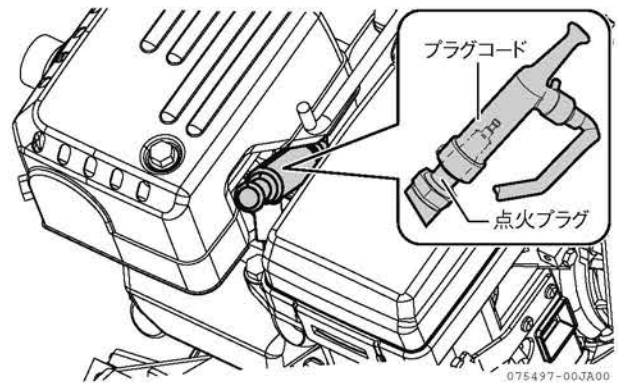


図 5-2 点火プラグ

2. 点火プラグをプラグレンチ（付属品）で外します。プラグレンチは、お手持ちのドライバーなどと合わせてご使用ください。(図 5-3)

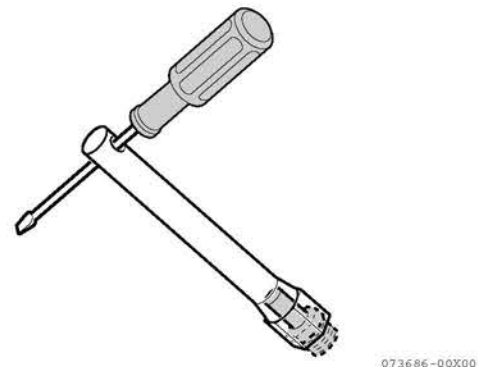


図 5-3 プラグレンチとドライバー

3. プラグの取り付いていた穴からガソリンエンジン用のエンジンオイルを約2~3 cc入れます。
4. 点火プラグを外すときの逆の手順で取り付けます。

【重要】

点火プラグを取り付けるときは、ねじ山をつぶさないように、はじめに手で締め込んでから、プラグレンチで締め付けてください。

5. リコイルスターターを軽く引いて、重たくなったところ（圧縮位置）で止めます。

燃料の抜き取り

燃料タンク・キャブレター・燃料コシ器の中の燃料を完全に抜き取ります。

作業方法は、56 ページの「燃料タンク内の燃料の抜きかた」を参照ください。

トラックへの積み・降ろしのしかた

⚠ 危険

- トラックへの積み・降ろしは、アユミ板の上で進路変更をすることがないように、進路を定めて最低速度で行ってください。
- 積み・降ろしの際、変速レバーが確実に入っていることを確認してください。
- 進路を変えたり停止するために、走行クラッチの操作を絶対にしないでください。
- 緊急時はエンジンを止めてください。
- 簡易旋回機構固定の平頭ピンを取り付けてください。(YW450H、YW490H)

アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

アユミ板は基準に合った、十分な強度のあるものを使用してください。

- ・ 長さ
車の荷台高さの4倍以上。
- ・ 幅
積み・降ろしする機械のタイヤ幅に合ったもの。
- ・ 強度
積み・降ろしする機械の重量に十分耐えられるもの。
- ・ 表面
滑らないように処理してあるもの。

トラックの準備

1. 平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所にトラックを停車します。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけます。
3. タイヤに車止めをします。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを、段差ができないように、確実にかけます。

機械の準備 (YW450H、YW490H)

1. エンジンフレームから簡易旋回機構固定の平頭ピンを外します。(図 6-1)

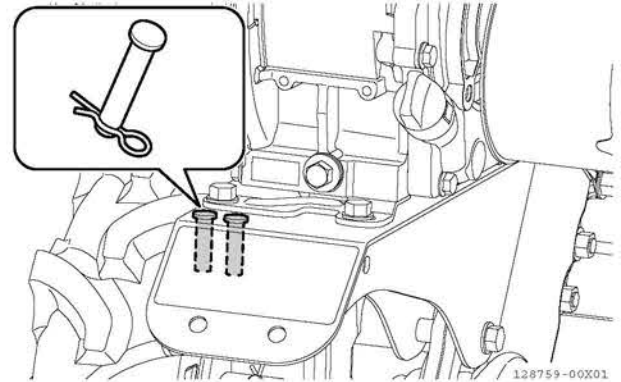


図 6-1 平頭ピンの取り外し

2. 左右各タイヤの外側にあるボスの穴に、外した平頭ピンを取り付けます。(図 6-2)

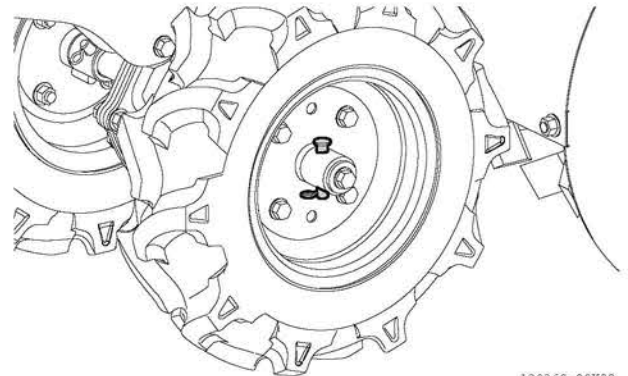


図 6-2 平頭ピンの取り付け

積みかた

1. エンジンを始動します。
2. 積む機械は、アユミ板の上で進路変更をしないでよように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めます。
3. 変速レバーは「F1（作業）」位置にします。
4. 走行クラッチレバーを「入」位置にします。

トラックに積み込んだら

1. エンジンを停止します。
2. フレームなどのしっかりした部分に、十分強度のあるロープをかけて、機体を確実に固定します。
(図 6-3)

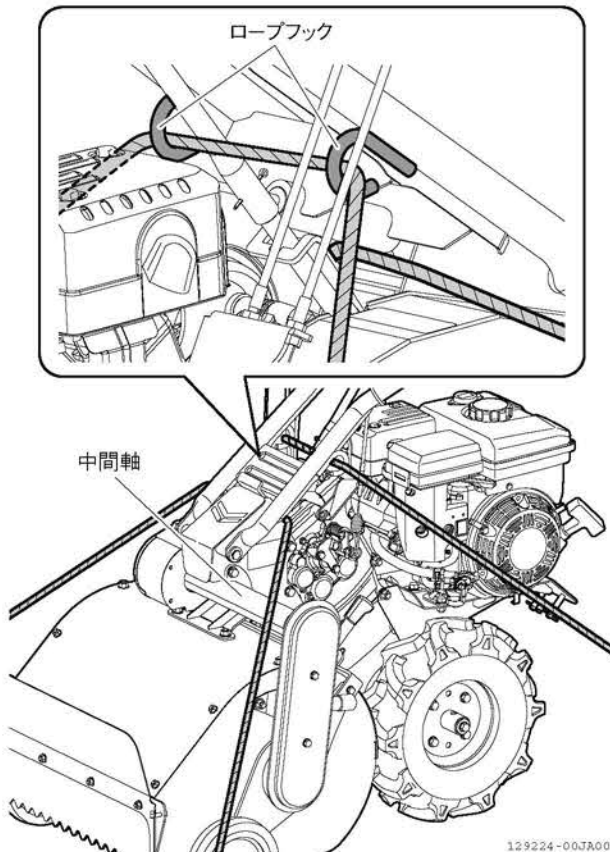


図 6-3 ロープフック

【重要】

- エンジンが故障する原因になりますので、輸送時は燃料コックレバーを「C（閉）」の位置にしてください。
- 中間軸にはロープをかけないでください。

降ろしかた

1. 機体を固定しているロープを外します。
2. エンジンを始動します。
3. 変速レバーは「F1（作業）」の位置にして後進（握るとバック）レバーを握ります。
4. 走行クラッチレバーを「入」位置にします。

主要諸元

名称		ヤンマー歩行型ハンマーモア				
型式名		ヤンマー K0052				
販売型式名		YW320H		YW450H	YW490H	
仕様		T	G	—	E	
機体寸法	全長 (mm)	1370		1230	1230	
	全幅 (mm)	540		560	610	
	全高 (mm)	1070		1070	1070	
機体質量 (kg)		61	58	67	76	
エンジン	型式名	三菱GB101			三菱GB131	
	種類	空冷4サイクルガソリンエンジン				
	総排気量 (L{cc})	0.098{98}			0.126{126}	
	定格出力/回転速度 (kW{PS}/rpm)	1.6{2.2}/1800			2.3{3.1}/1800	
	最大出力 (kW{PS})	2.2{3.0}			3.0{4.2}	
	エアクリナー	乾式				
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン				
	燃料タンク容量 (L)	1.6			2.0	
	始動方式	リコイルスターター式			セル・リコイル併用	
走行部	タイヤ	前輪(ゲージ輪)	プラスチックタイヤ(1輪)		プラスチックタイヤ(2輪)	
		後輪	3.50-6	ゴムラグ φ300	3.50-6	
	変速段数 (段)	前進2・後進1				
	走行速度	F1(作業) (km/h{m/s})	1.1{0.3}	1.0{0.3}	1.1{0.3}	
		F2(移動) (km/h{m/s})	3.6{1.0}	3.3{0.9}	3.6{1.0}	
		R1(後進) (km/h{m/s})	1.45{0.4}	1.4{0.4}	1.45{0.4}	
	最大傾斜角度 (度)	10 ^{※1} (法面)				
走行クラッチ	デッドマンクラッチ機構					
旋回方式	—		簡易旋回機構			
ハンドル	左右調節	ループ式(左右振りなし)				
	上下調節 (段)	3(ワンタッチ可変式)				
ローター部	刈幅 (mm)	320		450	500	
	刈高さ (mm)	20~85(無段階)		20~55(6段階調節)		
	ナイフ枚数 (枚)	16		24	32	
	適応草丈 (mm)	~600				
作業能率 (a/時間)		3.5		5	5.5	

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

※1:最大傾斜角度は法面の状態によって異なります。

廃棄をするときは

廃棄物を間違った方法で処分すると、環境汚染につながります。この歩行型ハンマーモアに使用されている、燃料・オイル・フィルター・ベルト・ホースなどは、正しく処分してください。

歩行型ハンマーモアの廃棄

【重要】

歩行型ハンマーモアを廃棄するときは、お買い上げいただいた特販店、またはJA、もしくは廃棄物処理業者に依頼してください。法律に違反する行為は絶対にしないでください。詳しくは、お住まいの自治体の指導に従ってください。

廃油の処理

オイル交換で出た廃油は、河川や下水道、溝、空地などに絶対に捨てないでください。環境汚染につながります。

廃油の処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご相談ください。

ホース類の処理

ホース類の合成ゴム製品は、放置したり、捨てたりせず、お買い上げいただいた特販店、またはJAへお渡しください。資源としてリサイクルされます。

リチウムイオンバッテリーの処理

リチウムイオンバッテリーは回収、再資源化が義務付けられています。

バッテリーパックを家庭ごみとして処分しないでください。

バッテリーの処分については、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご相談ください。

9章 サービスと保証について

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要になるものです。お読みになったあとは、大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

歩行型ハンマーモアの調子が悪いときは、74 ページの「不調診断のしかた」に従って、点検・処置してください。それでもなお不具合があるときは、つぎの「ご連絡していただきたい内容」を明確にして、お買い上げいただいた特販店、またはJAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 販売型式名と製造番号 (図9-2)
- エンジンの場合は、エンジン番号 (図9-1)
- ご使用状況は？
(車速やどんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□アールまたは約□□時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお伝えください。

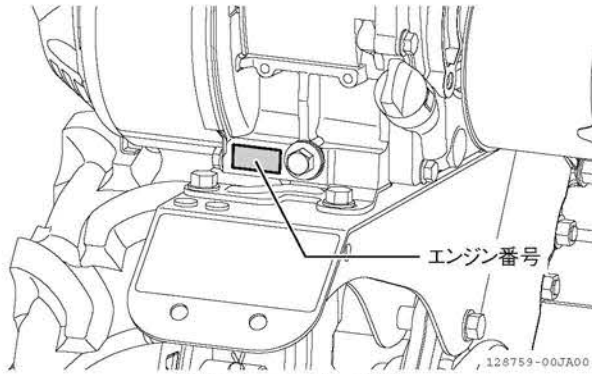


図 9-1 エンジン番号

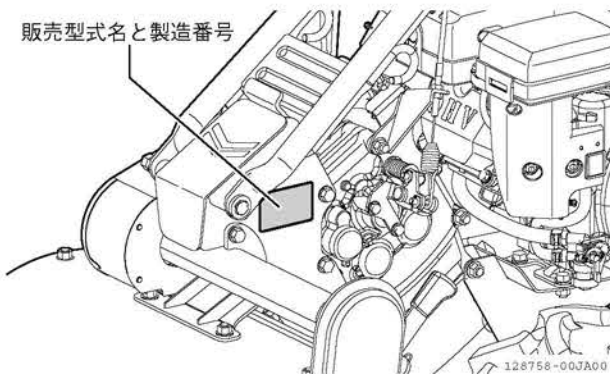


図 9-2 販売型式名と製造番号

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については、納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、厳しい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルをご指定ください。



図 9-3 純正部品・純正オイル

改造について

勝手な改造はしないでください。安全性・性能・耐久性の保証の対象外となります。

あ	
アクセルレバー.....	30
え	
エアクリーナー.....	35, 59
エレメント.....	60
エンジンオイル.....	57
エンジンスイッチ.....	31
エンジンスイッチ (キースイッチ).....	31
エンジン番号.....	1
か	
刈高さ調節ハンドル.....	32
刈高さ調節レバー.....	32
き	
機体銘板.....	1
キャブドレン.....	34
け	
検油ゲージ.....	57
こ	
後進 (握るとバック) レバー.....	31
さ	
作業クラッチレバー.....	30
そ	
走行クラッチレバー.....	30
ち	
チョークレバー.....	34
て	
点火プラグ.....	70
な	
ナイフ.....	66
ね	
燃料キャップ.....	55
燃料コシ器.....	56, 60
燃料コックレバー.....	34, 36
は	
ハンドル上下レバー.....	32
ひ	
火花ギャップ.....	70
へ	
ベルトカバー.....	51
変速レバー.....	32, 40
み	
ミッションオイル.....	58
り	
リコイルスターター.....	34, 37
リコイルスターターカバー.....	60

ろ	
ローター回転確認窓.....	33
ローターカバー.....	48

11章 部品リスト(部品早見表)

主要消耗部品

表 11-1

No.	品名	コードNo.	適用型式			備考
			YW320H	YW450H	YW490H	
1	走行クラッチベルト	25122-003302	○	○	○	SA33 REDS II
2	作業クラッチベルト	25122-004602	○	○	—	SA46 REDS II
3	作業クラッチベルト	25122-004604	—	—	○	SA46 W800
4	ローター駆動ベルト	1A1015-41170	○	○	○	SA27 コグベルトHP5
5	主クラッチワイヤ	1A1015-55300	○	○	○	
6	作業クラッチワイヤ	1A1015-55350	○	○	○	
7	後進(握るとバック)ワイヤ	1A1015-55400	○	○	○	
8	点火プラグ	165001-39430	○	○	—	NGK製BP6HS
9	点火プラグ(E仕様)	1A0058-00020	—	—	○	NGK製BPR6HS
10	車軸オイルシール	1A1540-28251	○	○	○	
11	ナイフ	1A1015-43000	○	○	○	1個のコードNo.
12	ナイフ取付ボルト	1A1015-43150	○	○	○	
13	ナイフ取付ナット	26357-100002	○	○	○	
14	ナイフ取付止めナット	26777-100002	○	○	○	
15	プレーキシュー	1A1015-13750	○	○	○	
16	カバーガード	1A1015-44170	—	○	—	ローターカバー内側の板
17	ゲージ輪	1A2310-71000	○	○	○	
18	フロントバンパー	1A1015-44330	—	○	—	
19	フロントシート	1A1015-44320	—	○	—	
20	シャジクピン(ST)	1A1735-31700	○	○	○	簡易旋回機構(固定)の平頭ピン(安全ピン) YW320Hは安全ピンとして使用
21	カバーガード	1A1015-44180	○	—	—	ローターカバー内側の板
22	フロントバンパー	1A1015-71000	○	—	—	
23	フロントシート	1A1015-44430	○	—	—	
24	カバーガード	1A1015-44190	—	—	○	ローターカバー内側の板
25	フロントバンパー	1A1015-44340	—	—	○	
26	フロントシート	1A1015-44440	—	—	○	
27	バッテリーパック	1A0111-00020	—	—	○	

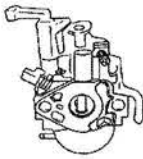
オプション部品

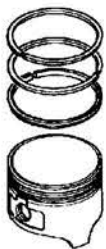
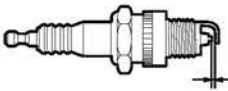
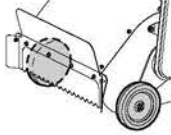
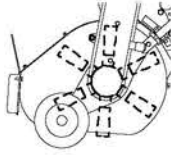
表 11-2

No.	品名	コードNo.	適用型式			備考
			YW320H	YW450H	YW490H	
1	ブレードCMP(YW-H)	7A1015-43200	—	○	—	ナイフ24枚のセット (ボルトなし)
2	カバー(シート Y)	7A2920-90050	○	○	○	保管用カバー
3	フロントゲージキット	7S0056-39000	—	○	—	中央前方にゲージ輪を追加する
4	フロントデバイダキット	7A1015-44600	—	○	—	背の高い草を押し倒して 適応性を向上させる
5	ブレードCMP(YW-H320)	7A1015-43210	○	—	—	ナイフ16枚のセット (ボルトなし)
6	ブレードCMP(490H)	7A1015-43220	—	—	○	ナイフ32枚のセット (ボルトなし)

12章 用語解説

本書の中で使われている用語の解説です。

用語	解説	参照ページ
アユミ板 	ハンマーモアをトラックなどに積み・降ろしするときに使用する板のこと。 アユミ板は、十分な強度があり、滑り止めの加工がされているものを使用してください。ブリッジとも呼ばれます。	78
エLEMENT 	エアクリーナーの構成部品の1つ。 空気の通り道にあり、吸気からチリやほこりを取り除きます。 長時間使用すると汚れがたまりますので、定期的に掃除してください。	59
エアクリーナー 	燃焼・爆発するために吸引される空気をきれいにするエアクリーナーの1種。 乾式のエアクリーナーです。内部のエLEMENT(スポンジと紙フィルター)で吸気チリやほこりを取り除きます。	35、59他
キャブレター 	エンジンの燃料(ガソリン)を気化する部品のこと。	34、56他
コネクタ 	配線と電気部品をつなぐカプラーのこと。 多くはプラスチック製です。	74
摺動部 	例えば、クラッチレバーやアクセルレバーを操作すると、そのレバーの動きに合わせてクラッチ、エンジンなどが作動します。このレバーと作動部をワイヤなどで接続しています。このワイヤが「摺動部」です。摺動部の動きが悪くなると、オペレーターの操作が作動部にうまく伝わらず、歩行型ハンマーモアをうまく操作できなくなります。	48
簡易旋回機構 	タイヤを車軸で直に駆動させないことで旋回を容易にした機構のこと。 車軸側のピンがタイヤ側のピンを引っかけて前後進することで約180度タイヤがフリーに動いて旋回を容易にします。	46他
ドレン キャブドレン ドレンプラグ 	長期保管時には燃料をハンマーモアから抜き取る必要があります。燃料を抜く場所がドレンです。 潤滑油などを交換する場合は、潤滑油のドレン部からオイルを抜き取り、ドレンプラグ(栓)を取り付けてから新しいオイルを補給します。	34、56、57、58
ハンチング 	エンジン回転が不安定になること。	38

用語	解説	参照 ページ
ピストンリング 	エンジンのピストン部に装着されている金属製のリング(輪)です。ピストンリングは爆発漏れを防ぐ、エンジンシリンダ内の潤滑など、エンジンがスムーズに動くために重要な役割を担っています。	74
火花ギャップ (電極すき間) 	ガソリンエンジンの爆発には、点火が必要です。この点火を起こす部品をプラグと言います。プラグ先端が電極になっていて、このすき間を火花ギャップと言います。適切なすき間(火花ギャップ)がないと、火花が飛ばず、エンジンは爆発しません。	70
ゲージ輪 	刈高さを調節するための装置です。ゲージ輪の位置で刈高さを調節できます。移動時は最「高」位置にしておくと、ローターと地面とのすき間が広くなり、移動がしやすくなります。	32、44
ほ場	草刈作業をするところ。	5、45他
リード線	電気部品をつなぐコード(電気配線)のこと。	74
ローター 	草刈作業をする部分のこと。ナイフ、ローター軸、ローターカバーなどで構成されます。	33他

お問い合わせ先

お住まいの地域の販売会社へお問い合わせください。

ヤンマーアグリジャパン株式会社

本社

〒530-8321 大阪市北区鶴野町1番地9号
梅田ゲートタワー

TEL (06)6376-6345

北海道支社

〒067-0051 北海道江別市工栄町10番地6

TEL (011)381-2300

東北支社

〒984-0011 宮城県仙台市若林区六丁の目西町8番地1
斎喜センタービル 1F

TEL (022)288-8451

関東甲信越支社

〒300-1161 茨城県稲敷郡阿見町よしわら1丁目19番地1

TEL (029)844-9007

中部近畿支社

〒524-0041 滋賀県守山市勝部2丁目3番地9号

TEL (077)582-9300

中四国支社

〒710-0024 岡山県倉敷市亀山622番地

TEL (086)428-5151

九州支社

〒833-0001 福岡県筑後市大字一条535番地2

TEL (0942)53-0333

ヤンマー沖縄株式会社

〒901-2223 沖縄県宜野湾市大山7丁目11番地12号

TEL (098)898-3111

ヤンマーアグリ株式会社

〒702-8515 岡山県岡山市中区江並428番地

お客様相談室
TEL (06)7636-9298

2021年7月1日現在

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたを
すると、事故を引き起こすおそれがあります。お読みになった後も必ず製品の近くに保存してください。

ヤンマーアグリ株式会社

yanmar.com

0A211-JA0537
2025.12-1
Japanese